

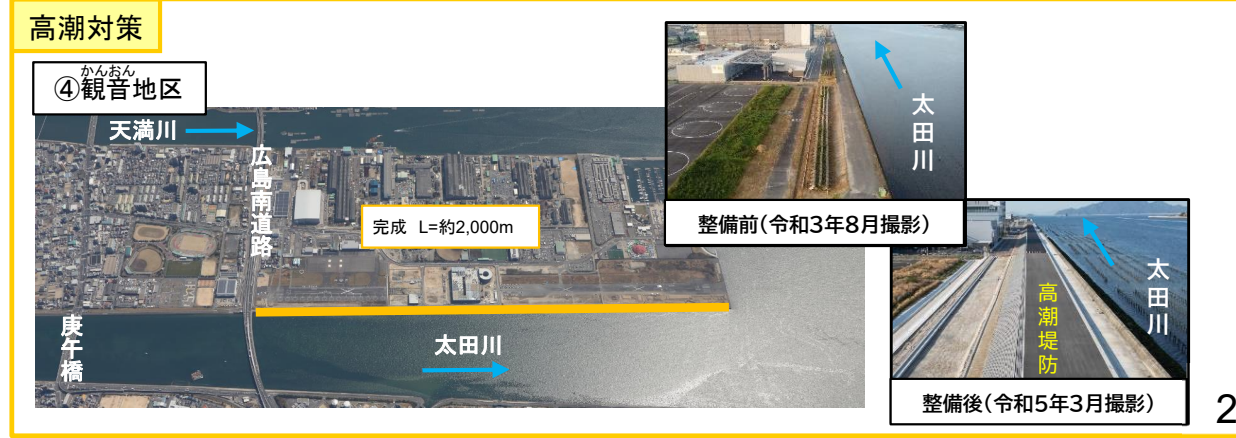
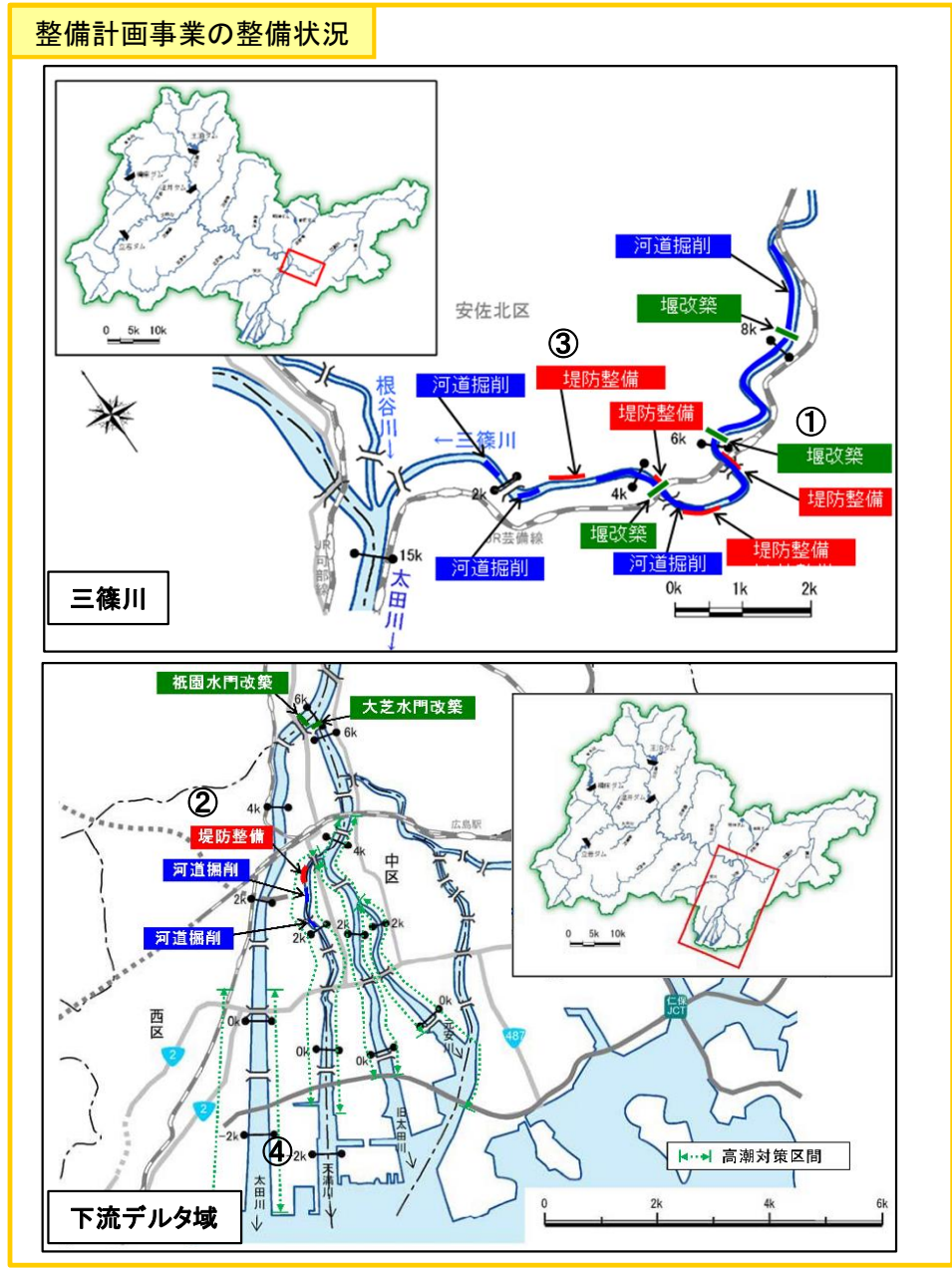
太田川水系河川整備基本方針の変更について ＜参考資料＞

令和6年6月13日

国土交通省 水管理・国土保全局

①流域の概要

- 支川三篠川では、平成30年7月豪雨後に策定した河川整備計画変更の目標に対し、堰改築や樽原地区などの流下能力が不足している箇所において堤防整備等を行い、治水安全度の向上を図っている。また、平成30年7月豪雨による浸水被害を踏まえ、段階的な整備を行っている。
- 河口域での治水対策にあたっては、干潟に代表される感潮区間特有の河川環境を保全するため、干潟の機能等の検証をしつつ必要な環境保全措置を図る。

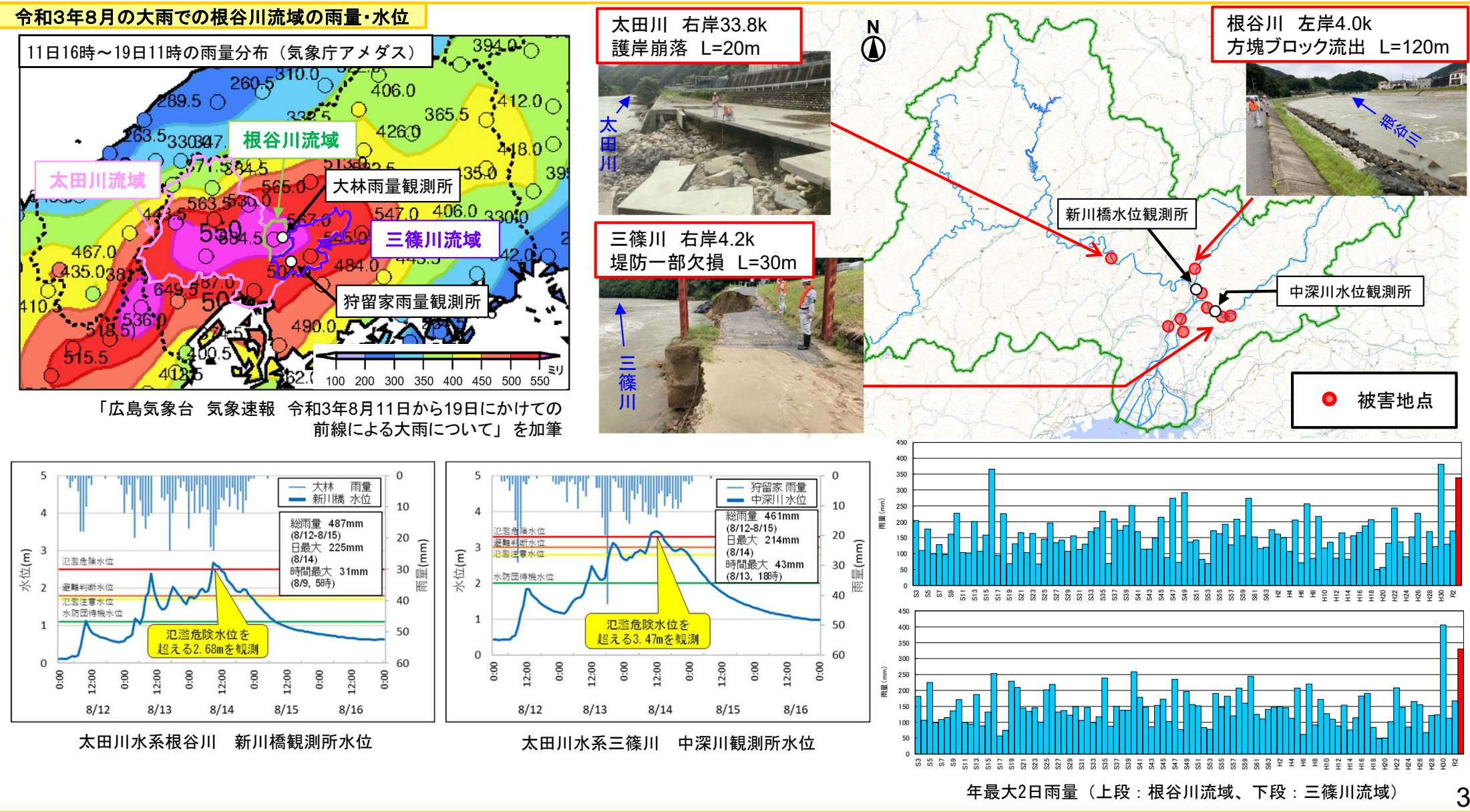


主な洪水と治水対策

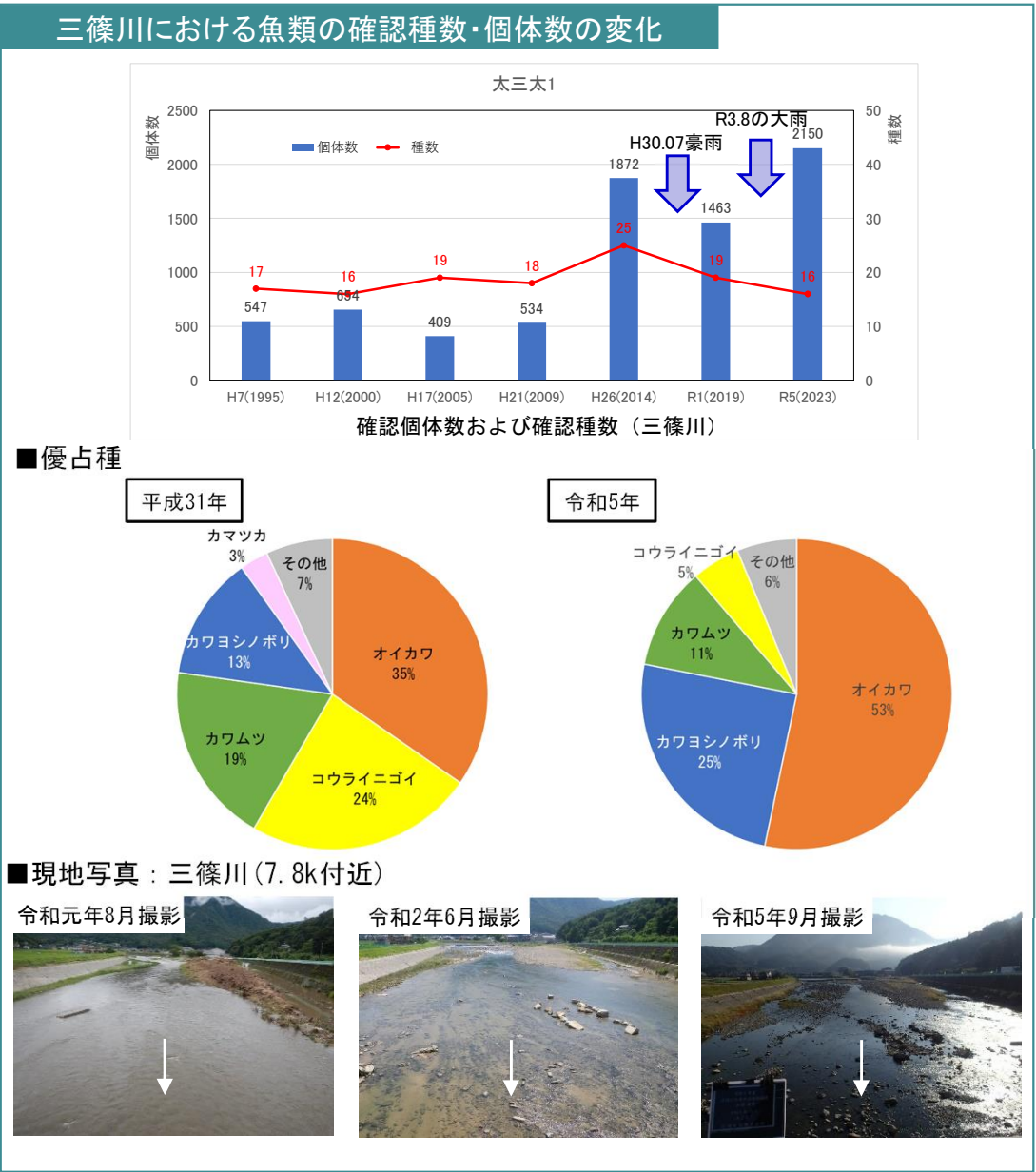
令和3年8月(前線)の大雨

太田川水系

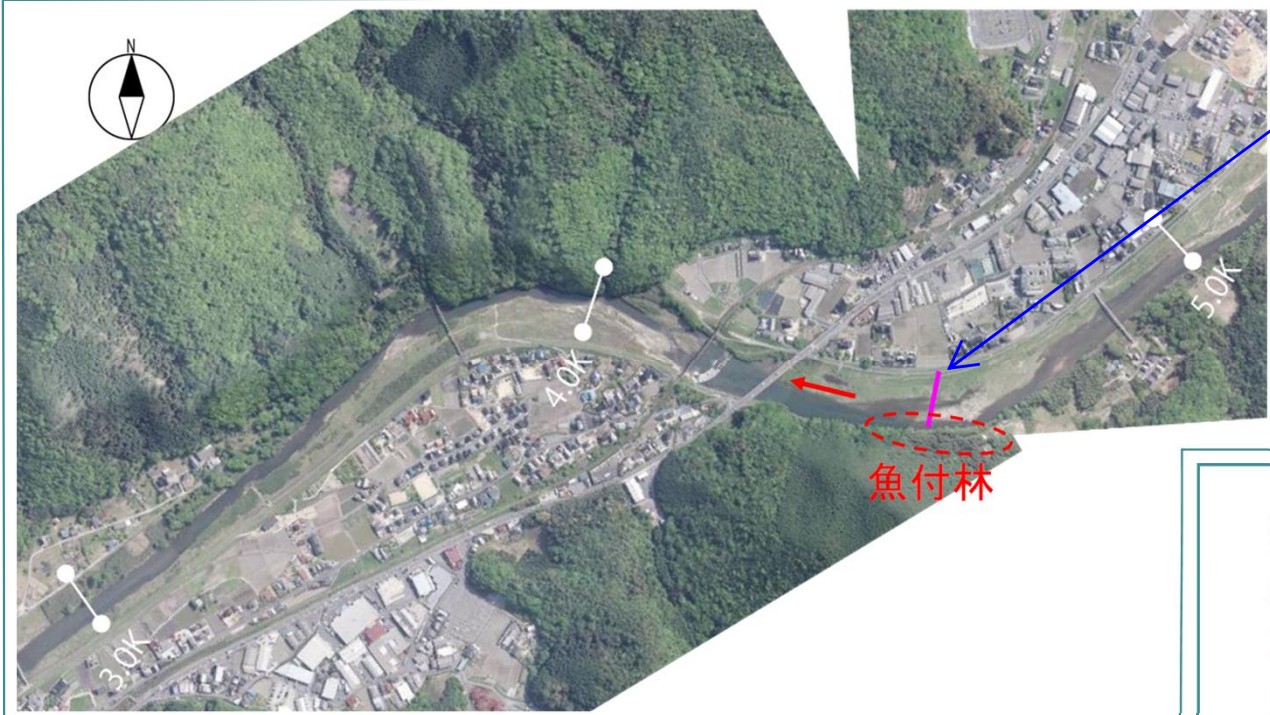
- 令和3年8月11日から8月15日にかけて、山陽地方及び中国山地沿いを中心に前線が停滞し、広島県では局地的な大雨となり、太田川流域では、護岸の崩壊・流出や内水浸水等の被害が発生した。
- 根谷川流域の大林観測所及び三篠川流域の狩留家観測所では降り始めからの累加雨量がそれぞれ487mm、461mmを記録し、根谷川流域の新川橋観測所及び三篠川流域の中深川観測所においては氾濫危険水位を超過する水位を記録した。



- 令和3年8月11日から8月15日にかけて、広島県では局地的な大雨となり、太田川流域のうち氾濫危険水位を超過する水位を記録した三篠川流域及び根谷川流域における環境の変化について把握した。
- 三篠川では、平成30年7月豪雨後の河川改修により、水深の浅い河川となり魚類の種類数は減少した。
- 根谷川では、平成21年調査以降、確認種数は22～23種で安定しており、主な優占種も変化はみられない。



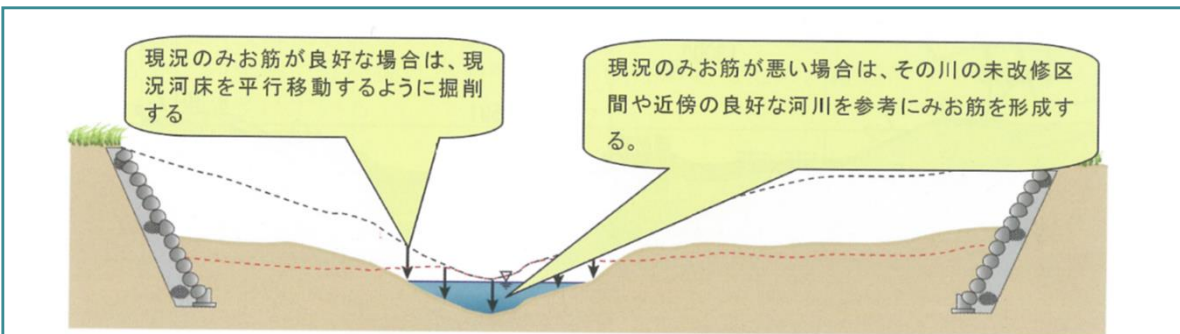
- 魚付林の保全: 水際の植生群は、洪水の河岸沿いの流速を低減して河岸浸食を抑制する効果があり、治水上の機能のみならず、魚類などの水生動物の休息場、避難場所、産卵場所、仔稚魚の生息場所となることから、魚付林等の保全を実施した。
- また、河道掘削(横断形)については、現況のみお筋が良好な場合は、現況河床を平行移動するように掘削し、現況のみお筋が悪い場合は、その川や近傍の河川で良好な環境を有する区間を参考に掘削していく。



三篠川の魚付林の状況(平面図)



魚付林(三篠川 4k6左岸)



河床の掘り下げ方(横断図)

水際の断面図

照度の低下

水中部の植物、底状の河岸、水面を覆う植物は水際を暗くします。明るい水中から暗い水中を見ると物体が見えにくくなりますが、暗い水中から明るい水中を見ると物体が鮮明に見えるようになります。暗い水際は敵に発見されにくく、敵を発見しやすい空間と言えます。

流速の低下

水中部の植物や水際の凹部は水際の流れを緩やかにし、遊泳力の弱い魚類、甲殻類の生息を容易にします。コイ科魚類をはじめ遊泳魚仔稚魚の遊泳力は極めて小さく、流速が10cm/s以下であることが必要です。

P72 図3-6 陸上・水中から繁茂する植生の水生生物に対する役割

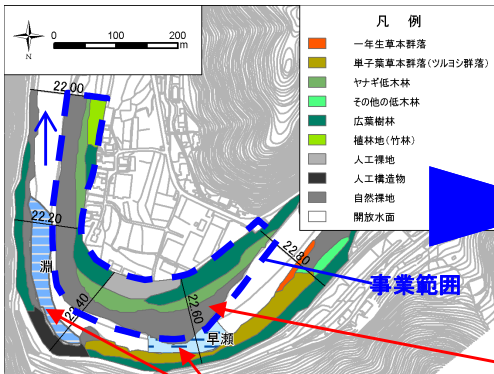
※多自然川づくりポイントブックⅢ 川の営みを活かした川づくり
～河道計画の基本から水際の設計まで～ 参照

- 太田川床上浸水対策では、河道掘削にあたって平水位以上の陸域部の掘削を基本として、瀬と淵の保全を実施している。
- 工事実施前に確認されていた礫河原(自然裸地)や瀬・淵等の多様な環境は、工事実施後も確認されており、魚類、底生動物の確認種は、調査年度による変動がみられるものの、工事実施後も工事前と同程度に確認されている。

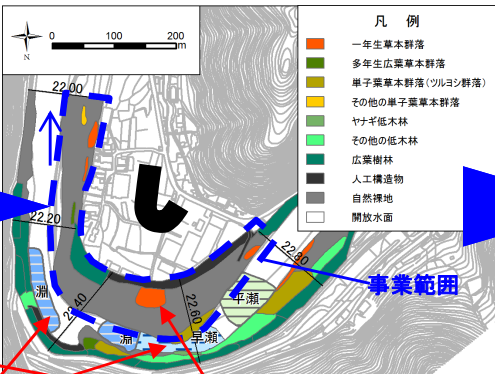
■筒瀬地区の事例（整備期間H19～H20 [河道掘削21,300m³、堤防整備1,030m] ）

■ 植生等の状況

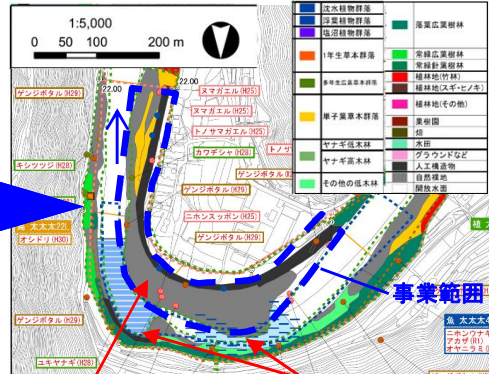
□ H14年秋季(工事前) 植生等



□ H23年秋季(工事後) 植生等



□ R2年環境情報図



早瀬・淵を確認

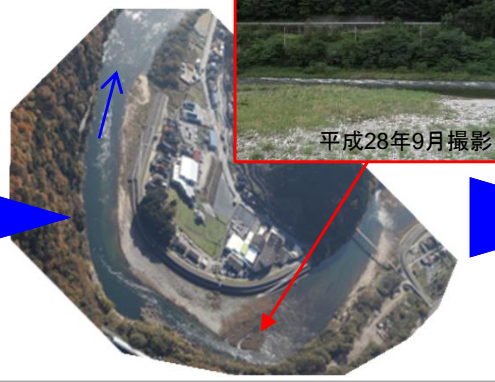
礫河原(自然裸地)を確認

早瀬・淵を確認

□ H17年11月(工事前) 斜め写真



□ H28年12月(工事後) 斜め写真

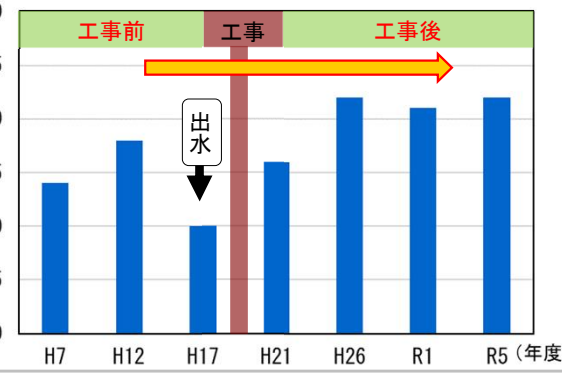


□ R5年4月斜め写真



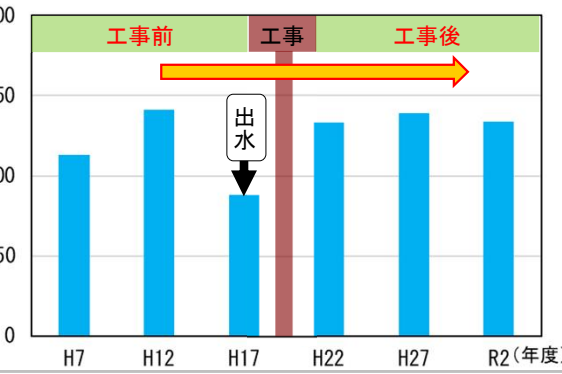
■ 魚類確認状況

確認種数 (種) 注) 種数は、年2回(夏季・秋季)の調査で確認された総種数である。



■ 底生動物確認状況

確認種数 (種) 注) 種数は、年2回(夏季・早春季)の調査で確認された総種数である。



※魚類、底生動物の確認状況は「河川水辺の国勢調査」の調査地区「太田4(太田川22.0k～24.2k)」の結果を引用

主な治水対策区間での環境の保全と創出(太田川放水路における干潟の保全・創出) 太田川水系

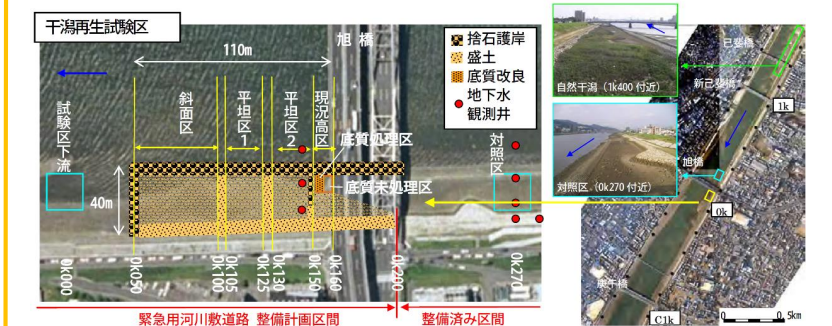
- 太田川放水路では、感潮域特有の河川環境である干潟の保全・創出を実施している。
- 学識研究者からなる「太田川生態工学研究会※」等と連携し、干潟の機能を検証しつつ、塩沼植物群落が生育する干潟の創出を実施した。
- 今後も、モニタリングを継続し、重要な塩沼植物群落の生育環境の把握を行う。

太田川放水路干潟創出の取組

■太田川放水路河口における干潟再生試験区の設置

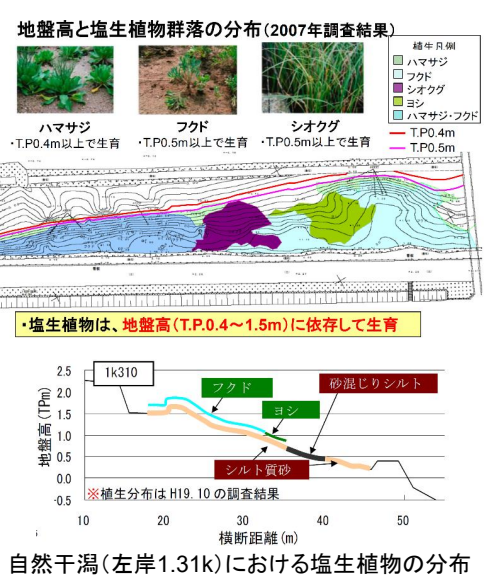
太田川生態工学研究会報告書(H25.3)

良好な干潟環境の保全・再生に向けた河川管理への反映に役立てることを目的とし、創出した干潟の物理環境や干潟生物の形成・変化過程を明らかにするため、旭橋下流左岸の緊急用河川敷道路整備計画区間において、干潟再生試験区(縦断長110m×横断長40m)を創出された。



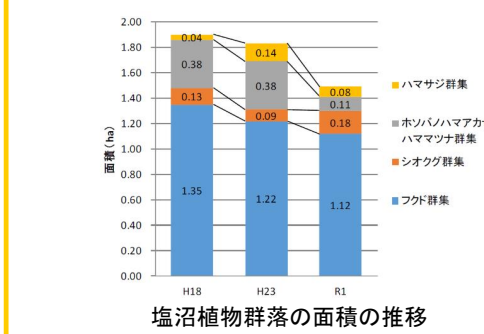
試験区	距離標	特徴	横断イメージ
斜面区	0k050 0k100	・干潟前面に捨石護岸があることで地形的に安定しており、現状で塩生植物群落が成立している1k400左岸をモデルとした干潟形状を創出し、自然状態の変化を検証する試験区。 ・タイドプールは造成せず、自然の変化による形成を期待する。 ・干潟の安定性や塩生植物の定着過程等に着目する。	緊急用河川敷道路(計画) 1k400左岸の断面にモデル横断に設定 T.P. 1.5m T.P. 1.3m T.P. 0.3m 横断距離 (m)
平坦区1	0k105 0k125	・塩生植物群落が定着しやすいと考えられる地盤高T.P. 1.3mの平坦部を設ける試験区。 ・干潟と捨石護岸のすり付け部に、タイドプールを創出する。 ※T.P. 1.3～1.5mの平坦部に塩生植物群落が成立している。	緊急用河川敷道路(計画) 平坦部: 塩生植物群落が定着しやすい地盤高T.P. 1.3m 勾配1/12 T.P. 0.3m タイドプール 横断距離 (m)
平坦区2	0k130 0k150	・地盤高T.P. 0.8mの平坦部を設け、平坦区1とは種子の漂着や浸水の条件等の違いによる塩生植物の定着状況を比較する試験区。 ・干潟と捨石護岸のすり付け部に、タイドプールを創出する。	緊急用河川敷道路(計画) 平坦部: 平坦区1より下げた地盤高T.P. 0.8m 勾配1/20 T.P. 0.3m タイドプール 横断距離 (m)
底質改良区	0k150 0k155	・底土は行わず現状の干潟地盤高を維持する試験区。 ・底生生物の生態環境の改善の観点から、アサリが定着しやすいと考えられる底質に入れ替える。 ・横造物(捨石)や底質改善による底生生物相の変化等に着目する。	緊急用河川敷道路(計画) 現状の地盤高は変えず、底生生物相の変化に着目 T.P. 0.8m T.P. 0.3m タイドプール 横断距離 (m)
底質未処理区	0k155 0k160	・底土は行わず現状の干潟地盤高を維持する試験区。 ・底質処理区との対照区として、底質は入れ替えない。	緊急用河川敷道路(計画) 底質なし、下流側、底質改良上流側、未処理 T.P. 0.3m 横断距離 (m)

太田川放水路 干潟再生試験区(左岸 0.50k～0.69k)
※:太田川放水路の左岸河口部において緊急用河川敷堤防道路が計画されたことから、道路整備による干潟環境への影響を軽減し、保全するために太田川生態工学研究会が設立された(H17.1～H25.3)。



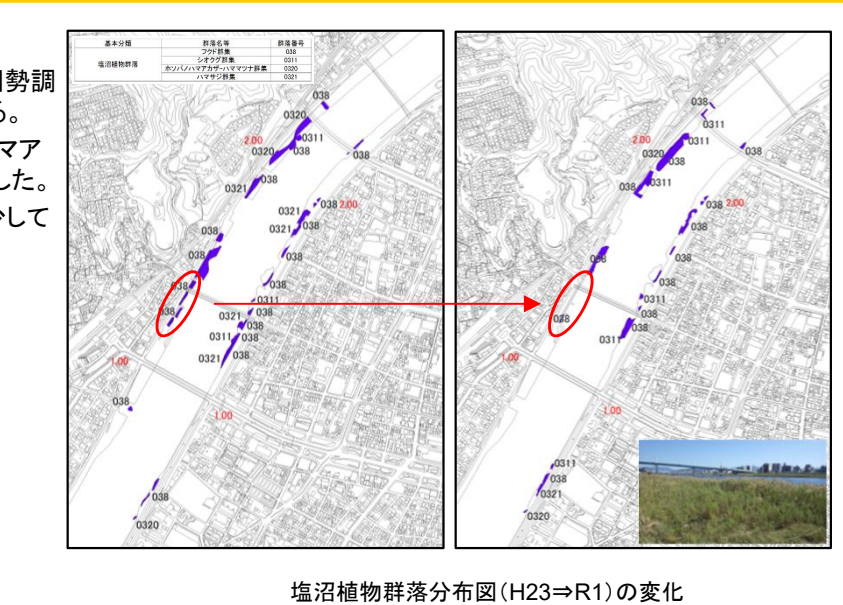
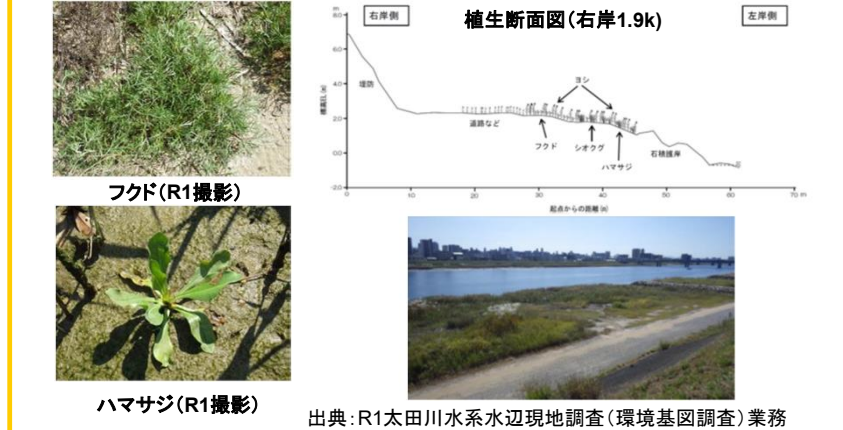
モニタリング調査結果

塩沼植物群落生育地について河川水辺の国勢調査(環境基図作成調査)でモニタリングしている。
平成23年度に比べ令和元年度はホソバノハマアカザ・ハママツナ群集、フクド群集が若干減少した。
特に1.2k付近の人工干潟でフクド群集が減少しており、継続的にモニタリングする必要がある。



太田川放水路の塩沼植物群落

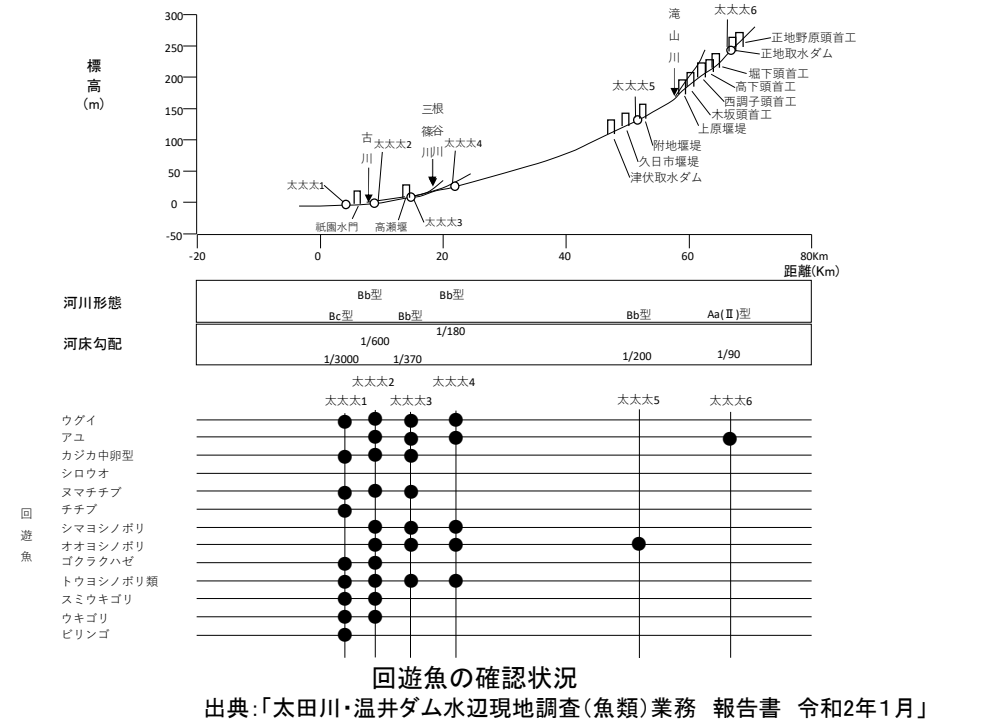
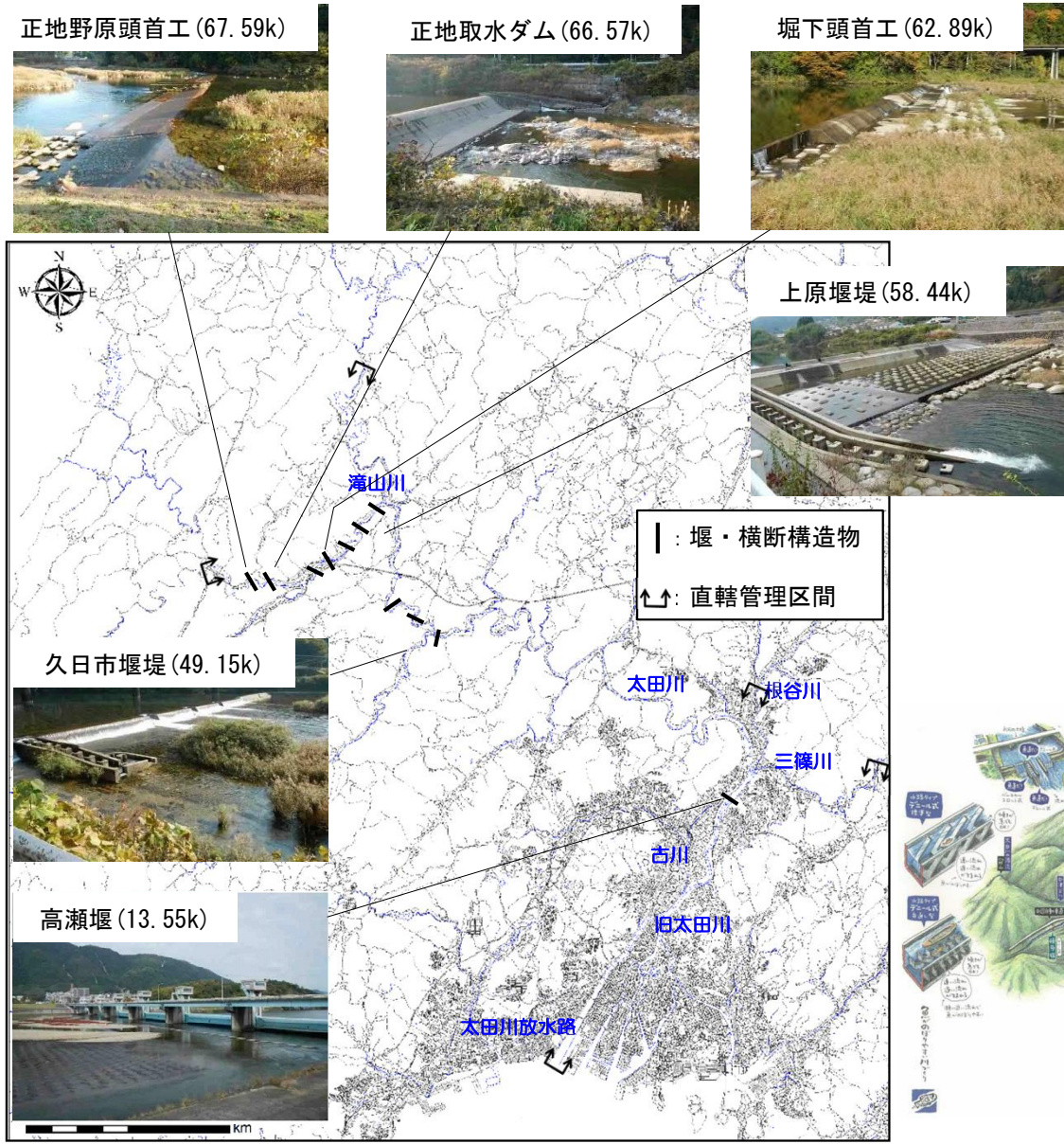
広島市の生物(H12.3 広島市レッドデータブック)によると、塩生植物の重要種であるフクド・シオクグ・ハマサジ・ヒロハマツナは、太田川放水路の砂泥地のみで確認されており、市内派川での生育は確認されていない。



河川環境の整備と保全 魚がのぼりやすい川づくり

太田川水系

- 川に棲む魚のうち回遊魚は遡上、降下を行うため、堰やダム等の回遊の阻害となりうる施設への魚道設置が必要不可欠である。
- 太田川では、平成5年から「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」により、取水堰における魚道の改築等を進めており、河口から管理区間上流端まで魚の遡上・降下が可能である。



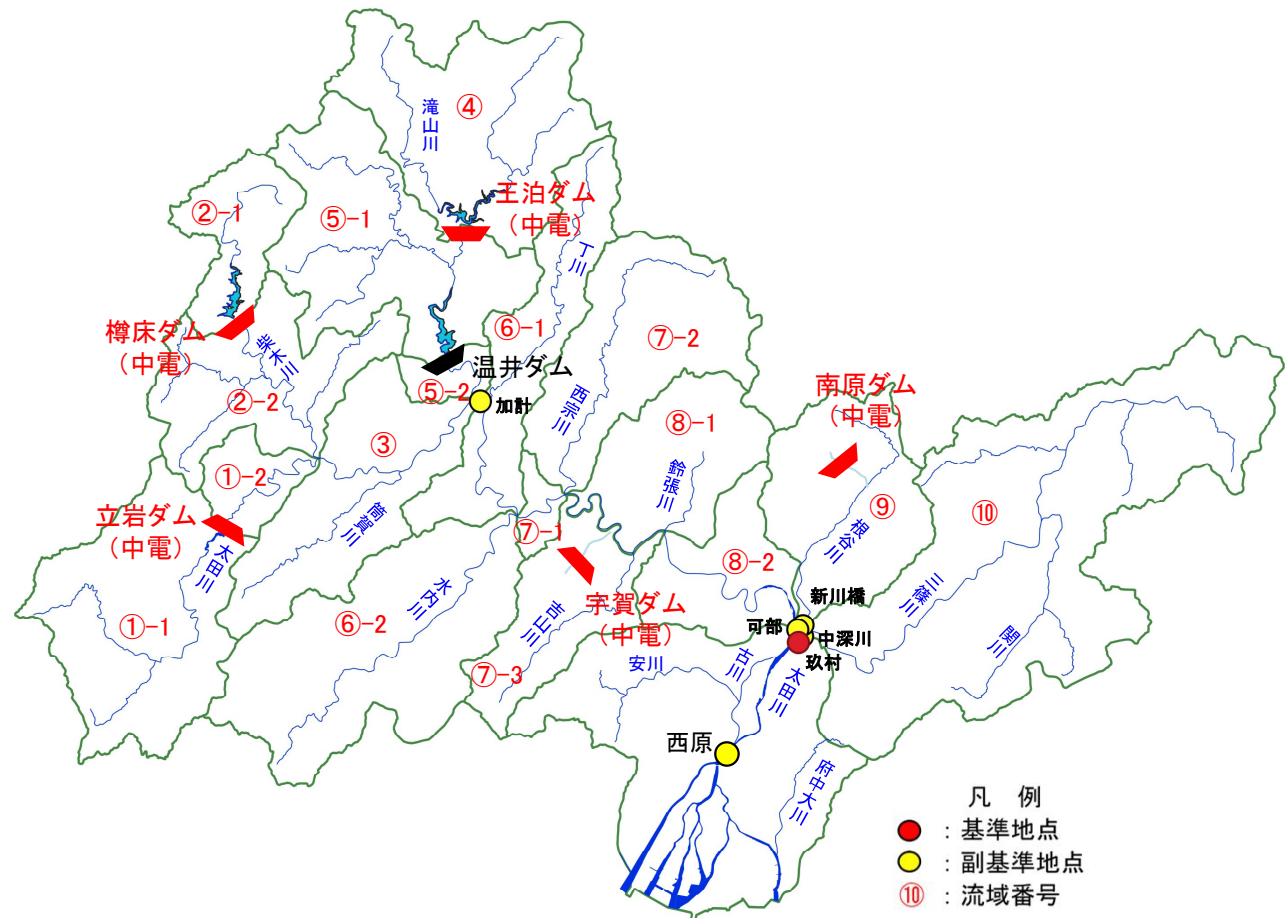
太田川本川における堰・横断工作物位置図

出典:「太田川魚道探検マップ(魚がのぼりやすい川づくりパンフレット)」

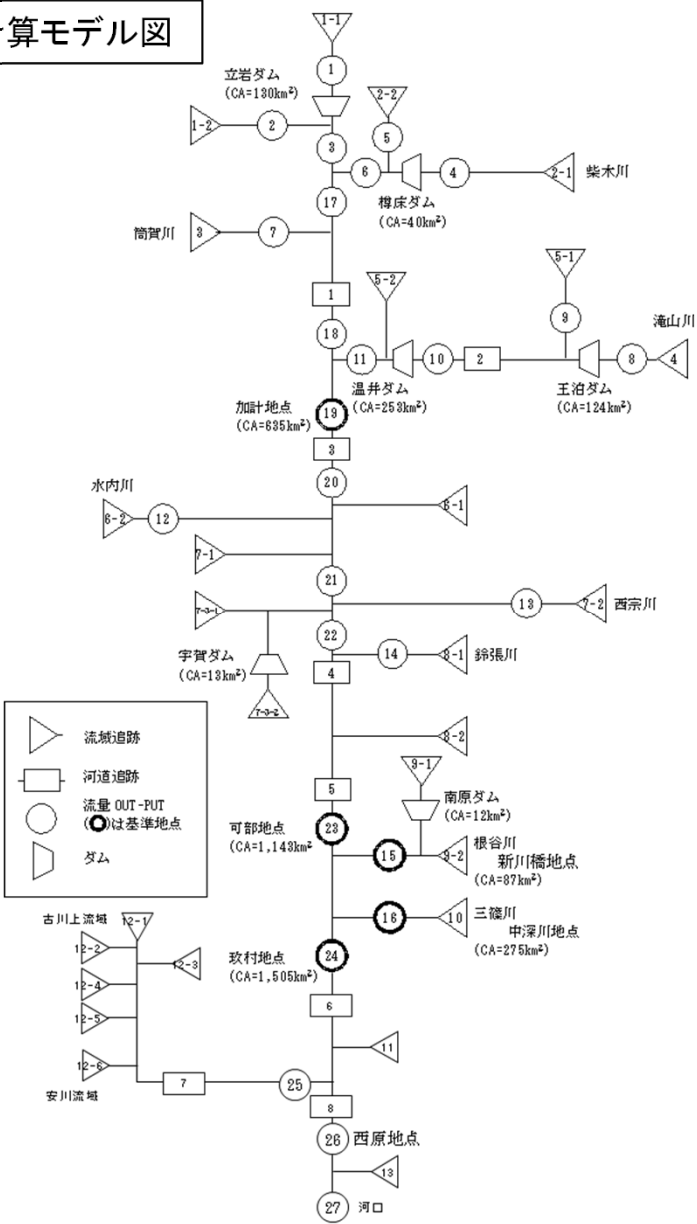
②基本高水のピーク流量の検討

- 利水ダム地点で流域分割されている現行基本方針モデルを基に、治水協定を締結している既存ダムの事前放流を考慮できるように、宇賀ダム及び南原ダム地点で流域分割しモデル化した。
- 玖村地点下流域について古川合流後地点までモデル範囲を延伸した。

流域分割図



流出計算モデル図



- 気候変動による降雨パターンの変化(特に小流域集中度の変化)により、これまでの手法で棄却されていた実績引き伸ばし降雨波形の発生が予想される。このため、これまでの手法で棄却されていた実績引き伸ばし降雨波形を、当該水系におけるアンサンブル予測降雨波形による降雨パターンと照らし合わせる等により再検証を実施。
- その結果、基準地点玖村で棄却した4洪水の実績引き伸ばし降雨波形について、アンサンブル将来予測降雨波形の地域分布(基準地点上流域の流域平均雨量に対する小流域の流域平均雨量の比率)、短時間分布(対象降雨の継続時間内雨量に対する短時間雨量の比率)の雨量比以内に収まる洪水として、いずれも棄却せず参考波形として活用。

棄却洪水におけるアンサンブル将来降雨波形を用いた検証

小流域のチェック						
d2PDF(将来気候)から計画規模の降雨量近傍(計画降雨量±20%程度)のアンサンブル降雨波形を抽出し、各波形について「基準地点上流域の流域平均雨量に対する小流域の流域平均雨量の比率」(小流域の流域平均雨量/基準地点上流域の流域平均雨量)を求める。						
洪水	玖村上流域平均		加計上流域		加計～可部	
d2PDFアンサンブル	①予測雨量 (mm/12h)	②予測雨量 (mm/12h)	比率 ②/①	③予測雨量 (mm/12h)	比率 ③/①	④予測雨量 (mm/12h)
HFB_2K_MI_m105_2062090604	240.4	397.6	1.65	201.7	0.84	18.9
HFB_2K_HA_m101_2064082419	162.0	23.8	0.15	206.2	1.27	342.5
HFB_2K_MP_m105_2078082602	155.9	122.7	0.79	197.5	1.27	155.9
HFB_2K_MP_m105_2084082102	205.4	190.8	0.93	307.6	1.50	87.4
HFB_2K_MR_m105_2085092318	186.1	193.8	1.04	179.2	0.96	182.5
各小流域の比率の最大値		1.65		1.50		2.11

短時間降雨のチェック					
d2PDF(将来気候)から計画規模の降雨量近傍(計画降雨量±20%程度)のアンサンブル予測降雨波形を抽出し、各波形について「対象降雨の継続時間内雨量に対する短時間雨量の比率」(短時間(洪水到達時間及び対象降雨の継続時間の半分)の流域平均雨量/継続時間内の流域平均雨量)を求める。					
洪水	玖村上流域平均				
d2PDFアンサンブル	①予測雨量 (mm/12h)	②予測雨量 (mm/6h)	比率 ②/①	③予測雨量 (mm/10h)	比率 ③/①
HFB_2K_MI_m105_2062090604	240.4	144.1	0.60	221.9	0.92
HFB_2K_HA_m101_2064082419	162.0	99.5	0.61	150.6	0.93
HFB_2K_MP_m105_2078082602	155.9	143.9	0.92	146.9	0.94
HFB_2K_MP_m105_2084082102	205.4	127.8	0.62	186.7	0.91
HFB_2K_MR_m105_2085092318	186.1	152.5	0.82	182.0	0.98
各時間の比率の最大値		0.92		0.98	

No.	洪水 No.	棄却 洪水 (4洪水)
1	5	S49.9.8
2	7	S58.7.23
3	9	S60.7.6
4	16	H30.7.6

No.	洪水 No.	棄却 洪水 (洪水)	玖村上流域平均			加計上流域		加計～可部		可部～玖村	
			実績雨量 (mm/12h)	①対象降雨 の降雨量 (mm/12h)	拡大率	②拡大後 雨量 (mm/12h)	玖村雨量に 対する比率 ②/①	③拡大後 雨量(mm/12h)	玖村雨量に 対する比率 ③/①	④拡大後 雨量(mm/12h)	玖村雨量に 対する比率 ④/①
1	5	S49.9.8	113.7	208	1.830	250.9	1.21	220.9	1.06	166.8	0.80
2	7	S58.7.23	94.5		2.200	297.6	1.43	124.9	0.60	89.9	0.43
3	9	S60.7.6	97.1		2.142	257.4	1.24	149.6	0.72	133.1	0.64
4	16	H30.7.6	123.5		1.684	168.6	0.81	174.9	0.84	293.0	1.41

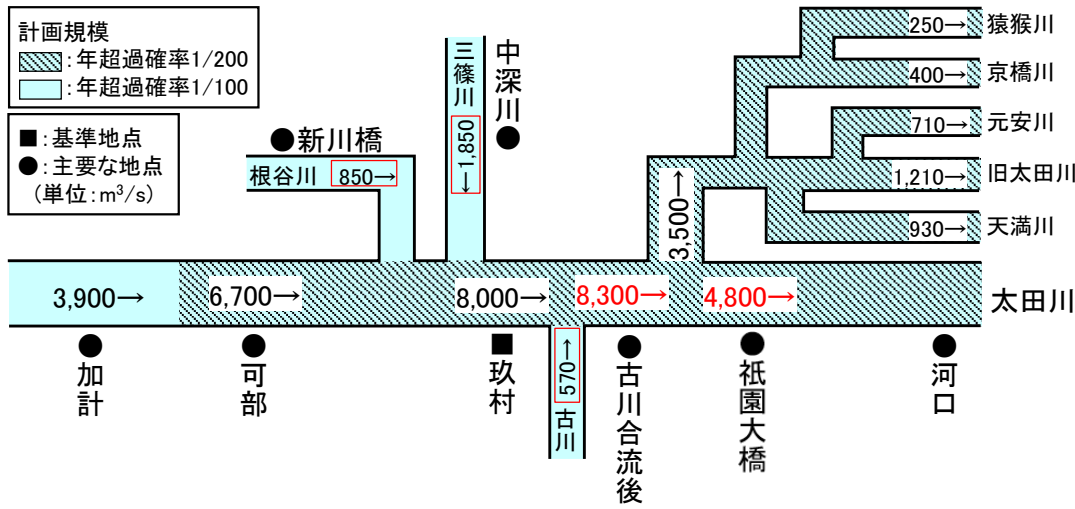
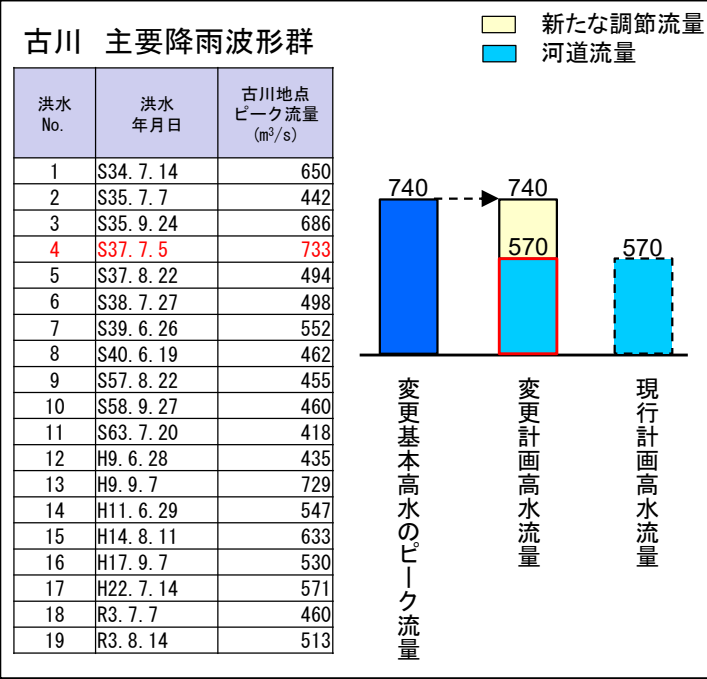
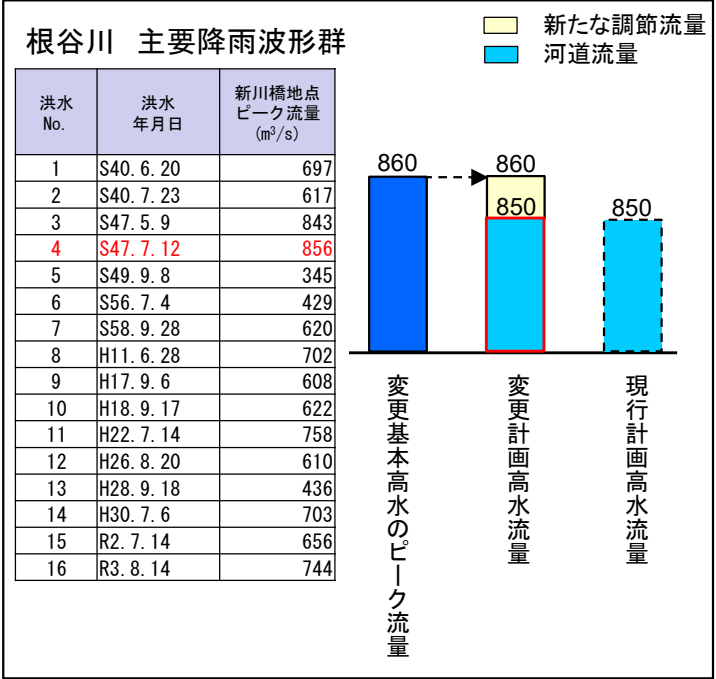
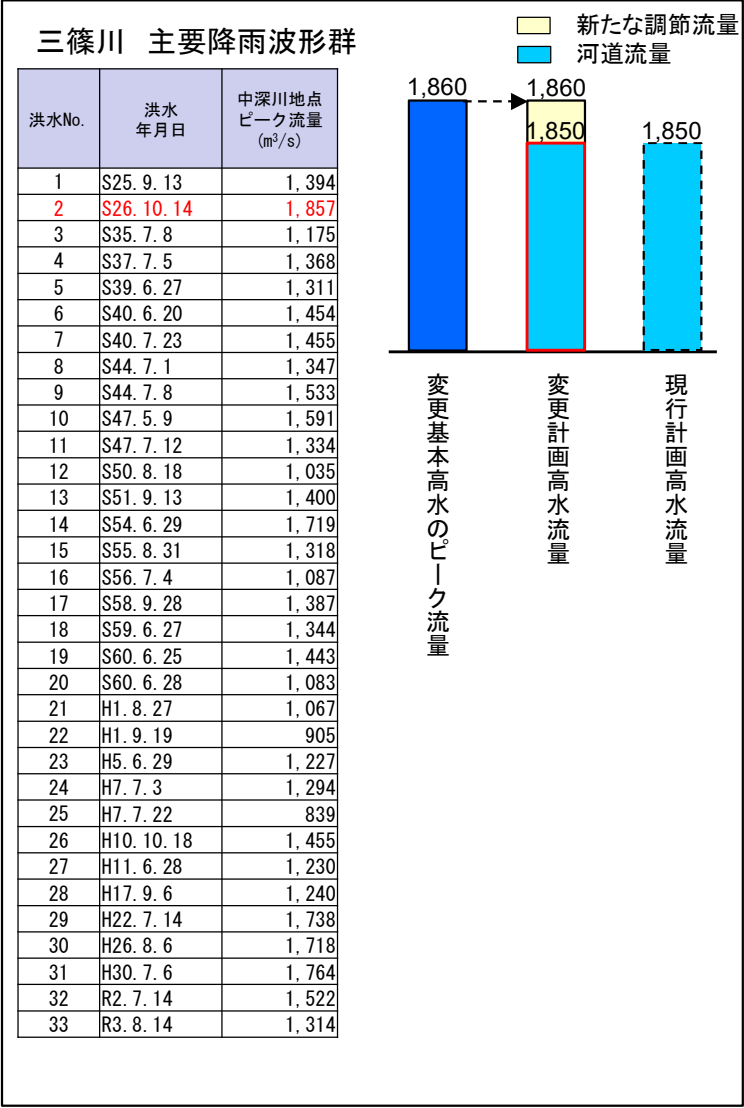
No.	洪水 No.	棄却 洪水 (4洪水)	玖村上流域平均						
			実績雨量 (mm/12h)	①対象降雨 の降雨量 (mm/12h)	拡大率	②拡大後 雨量 (mm/6h)	比率 ②/①	③拡大後 雨量 (mm/10h)	比率 ③/①
1	5	S49.9.8	113.7	208	1.830	126.6	0.61	172.0	0.83
2	7	S58.7.23	94.5		2.200	160.5	0.77	186.2	0.90
3	9	S60.7.6	97.1		2.142	130.7	0.63	176.6	0.85
4	16	H30.7.6	123.5		1.684	127.0	0.61	168.7	0.81

4洪水を参考波形として活用

③計画高水流量の検討

【参考】支川の計画高水流量の設定

- 三篠川・中深川地点は、基本高水のピーク流量は1,860m³/s、計画高水流量は1,850m³/sとなる。
- 根谷川・新川橋地点は、基本高水のピーク流量は860m³/s、計画高水流量は850m³/sとなる。
- 古川地点は、基本高水のピーク流量は740m³/s、計画高水流量は570m³/sとなる。

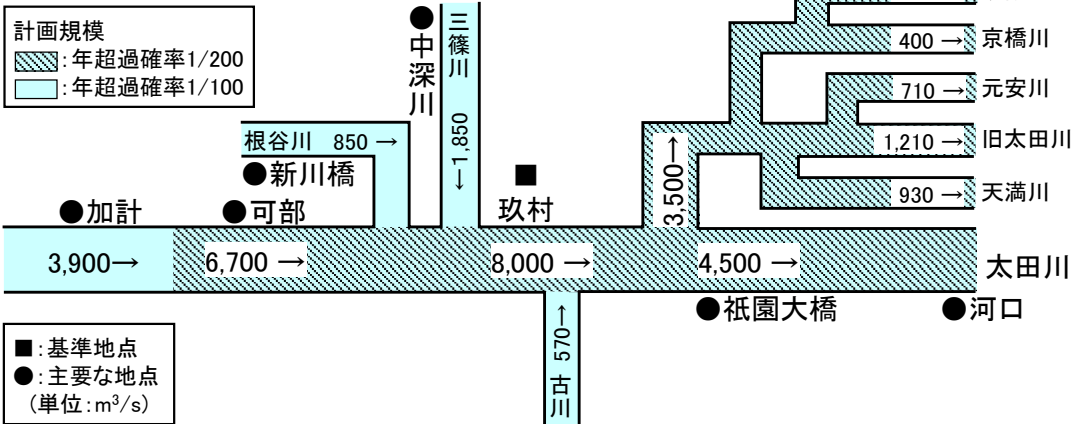


変更河川整備基本方針流量配分(案)

⑤河川環境・河川利用についての検討

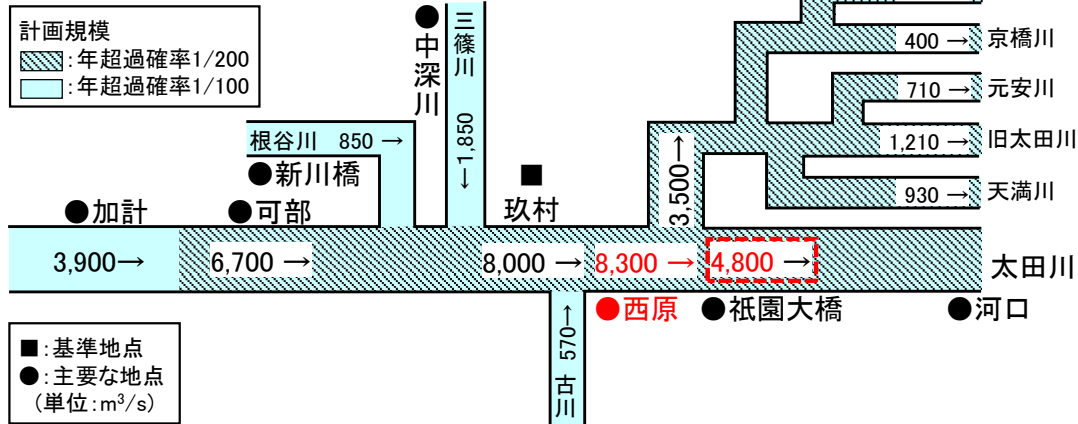
- 太田川においては、河道配分流量が基準地点玖村で増加はないものの、古川＋残流域流入により太田川放水路では300m³/s増加となることから、現行の基本方針の河道に対して、さらなる低水路拡幅等の河道整備が必要となる。
- 河道掘削を実施する区間は、上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応により現状の瀬淵を保全するため高水敷の掘削を基本とし、ワンド設置、緩傾斜掘削等により、良好な湿地環境及び水際環境の創出を図る。

【現行(H19.3策定)】



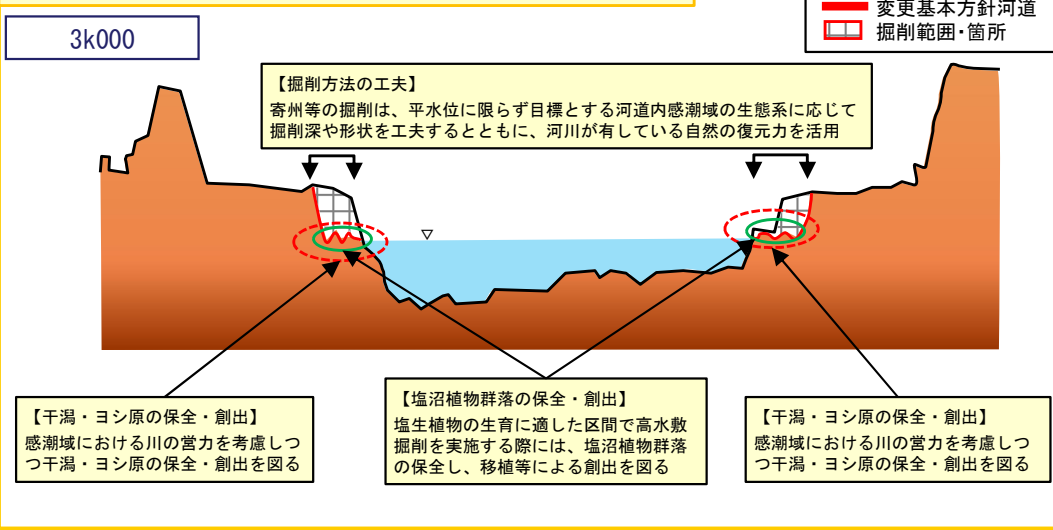
基準地点	基本高水のピーク流量(m³/s)	洪水調節施設による調節流量(m³/s)	河道への配分流量(m³/s)
玖村	12,000	4,000	8,000

【変更(案)】



基準地点	基本高水のピーク流量(m³/s)	洪水調節施設等による調節流量(m³/s)	河道への配分流量(m³/s)
玖村	14,300	6,300	8,000

環境の保全・創出のイメージ横断図(太田川 3.0k付近)



流水の正常な機能を維持するため必要な流量の設定

太田川水系

- 動植物の生息地又は生育地の状況や景観等、9項目の検討により維持流量を設定し、水利流量・流入量を考慮した結果、矢口第1地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、通年で概ね15m³/sとする。
- 水利流量は農業用水3.5m³/s、水道用水:9.7m³/s、工業用水:3.3m³/s 合計:16.5m³/sである。
- 矢口第1地点の平均渇水流量は18.8m³/s、平均低水流量は32.5m³/sである。

正常流量の基準地点

基準地点は、以下の点を勘案して矢口第1地点とする。
①流量把握が可能で、過去の水文資料が十分に備わっている。
②下流部の主要な水利用が行われている地点に近接し、水収支が把握しやすい。

流 況

近年渇水被害は発生しておらず、現況流況で平均渇水流量18.8m³/s、平均低水流量32.5m³/sとなっている。

流 況	太田川 矢口第1 (現況 通年) 1,527km ² 単位 m³/s			W=1/10
	最大値	最小値	平均値	
豊水流量	143.3	44.9	84.9	58.1
平水流量	85.2	29.1	50.9	34.3
低水流量	61.4	10.4	32.5	23.1
渇水流量	38.7	5.3	18.8	12.5
統計期間	昭和48年(1973年)～令和4年(2022年)の50ヶ年			

水利流量の設定

太田川における河川水の利用は農業用水、水道用水、工業用水等多岐に渡る。

農業用水：3.5m³/s 水道用水：9.7m³/s
工業用水：3.3m³/s 本川合計：16.5m³/s

維持流量の設定

項 目	検討内容・決定根拠等
①動植物の生息地又は生育地の状況	代表魚種(アユ、サツキマス(アマゴ)、オイカワ、ウグイ、ヨシノボリ類、カジカ、アカザ)の生息・産卵に必要な流量を設定した。
②景観	アンケート調査結果を踏まえ、良好な景観を確保するために必要な流量を設定した。
③流水の清潔保持	当該河川における河川環境や水利用から各種基準等を参考とし、当該河川における渇水時の水質悪化の実績等を考慮した上で、流量の目標値を水質面から表すことの出来る指標(河川で対象となるBOD)を水質項目として設定した。
④舟運	感潮区間を除けば、物資の輸送や川下り等の観光船は存在しなかったため、「舟運」からの必要流量は正常流量検討対象外とする。
⑤漁業	動植物の生息地又は生育地の状況を満足する流量を設定した。
⑥塩害の防止	過去に塩害は発生していない。
⑦河口閉塞の防止	過去に河口閉塞は発生していない。
⑧河川管理施設の保護	対象とする河川管理施設は存在しない。
⑨地下水位の維持	既往流況を維持すれば、地下水位に与える悪影響はないことから、「地下水位の維持」からの必要流量は設定しない。

①動植物の生息地・生育地の状況

◆5/1～10/20、1/1～1/31
10.9k (クリティカルポイント)
9.5m³/s (サツキマス移動、水深0.20m)
◆10/21～12/31、2/1～4/30
12.5k (クリティカルポイント)
9.68m³/s (アユ、ウグイ産卵、水深0.30m)

小田3号樋管上流

友竹水門付近

10.9K

12.5K

②景観

◆A区間 12.2k 安佐大橋上流
フォトモンタージュを用いたアンケート調査により、最低限満足できる流量を設定：8.84m³/s
・川幅B=323.5m 水面幅W=77.6m W/B=24%

フォトモンタージュ写真 (W/B=24%)

③流水の清潔の保持

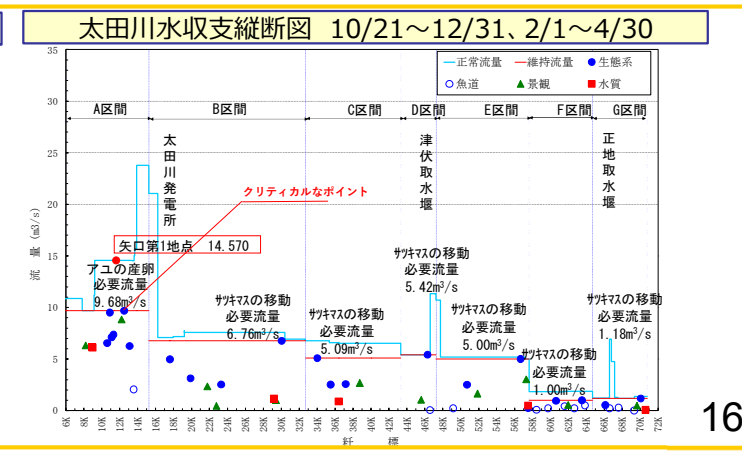
◆A区間 8.95k 戸坂浄水場取水口
流総計画での将来の流出負荷量を設定し、渇水時において環境基準の2倍値を満足するために必要な流量を設定：6.12m³/s

正常流量の設定

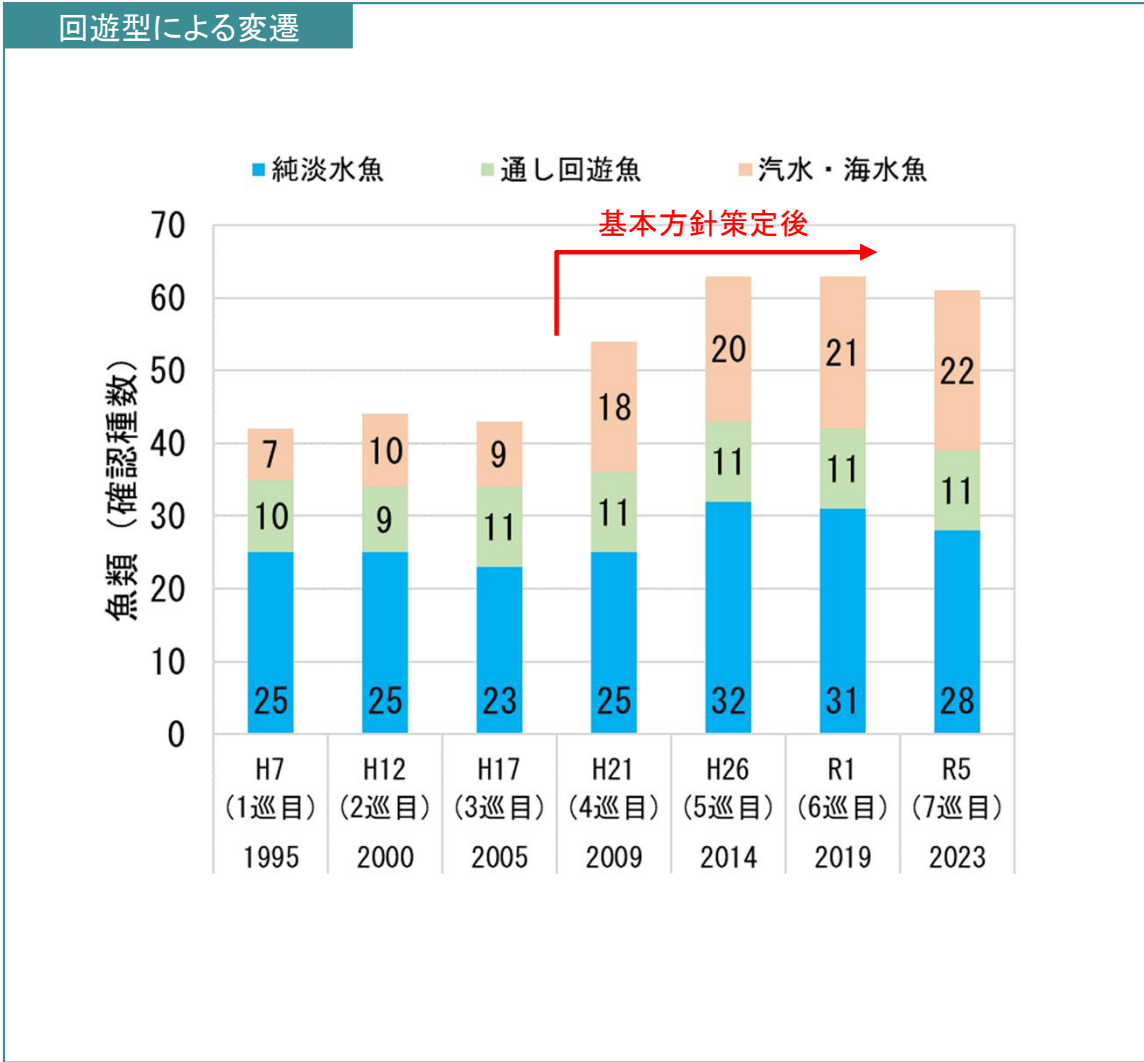
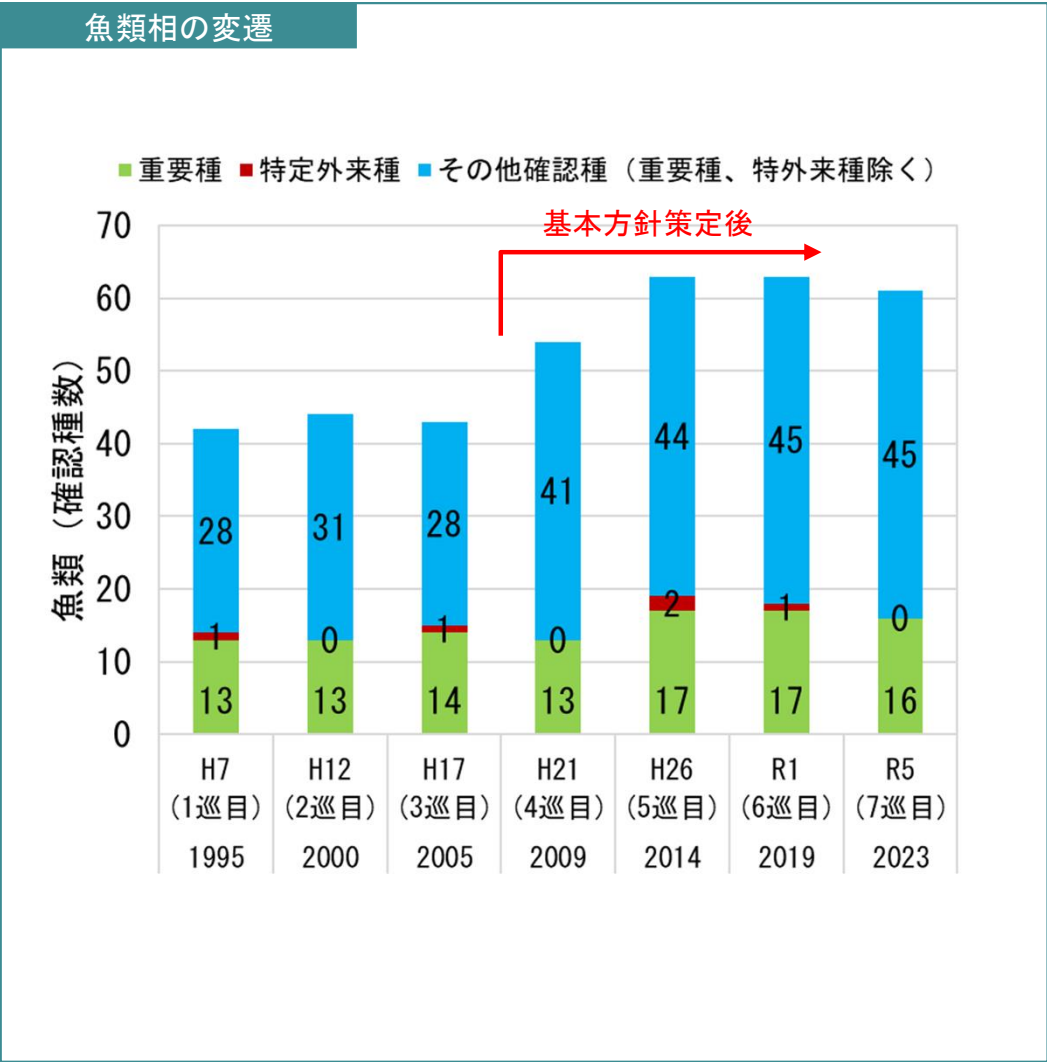
流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、動植物の生息・生育及び漁業、流水の清潔保持等を考慮して、矢口第1地点において、通年概ね15m³/sとする。

代表地点	流域面積 (km²)	正常流量
		通年
矢口第1	1,527	概ね15m³/s

太田川水収支縦断図 6/15～9/30



- 魚類について、重要種・特定外来種等で分類した場合と回遊型による分類を実施。
- 基本方針策定後、若干の増減はあるものの、各分類の種数に経年的に大きな変化は見られず、分類方法による傾向の差異も見られない。



- 太田川区分1 (-3k～8k区間)は、感潮区間であり、海水と淡水が混ざる汽水域となっている。
- 河口域から2kまでほぼ直線的な人工護岸と開放水面から構成されており、1k～6k(祇園水門)までは左右岸共に高水敷が整備されている。
- 7k～9k(安芸大橋)の広い高水敷にはグラウンドやゴルフ場があり、多くの人に利用されている。
- 河口域から6.2k付近まで干潮時に砂泥質の干潟やヨシ原がみられる。右岸1.2k付近に人工干潟が整備されている。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

距離標(空間単位:1km※)		-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
※距離標1:1~2km区間													
略図													
河川環境区分		区分1											
河川区分		河川区域(感潮区間)											
大セグメント区分		セグメント2-2											
小セグメント区分		セグメント2-2											
堤内地の景観 右岸側		平地		市街地									
堤内地の景観 左岸側		平地		市街地									
周辺の地形・地質													
河床勾配 (平均河床高)													
河床材料		粗砂											
川幅 (河道幅・水面幅)													
横断工作物													
支川の合流		旧太田川 古川											
特徴的な狭窄部													
自然再生													
課題													

		距離標 (空間単位: 1km)												
		-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
典型性	陸域	1. 低・中萼草地				△	△	○		△	○	△	○	○
		2. 河辺性の樹林・河畔林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		3. 自然裸地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		4. 外来植物生育地	-	-	-	-	-	△	△	-	△	△	△	△
	水際域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		6. 水際の自然度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△
		7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	○	○	△	○	○	○	△
		8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水域	9. フンド・たまり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10. 湛水域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		汽水	○	○	△	○	○	△	○	○	△	△	-	-
		12. ヨシ原				○	○	○	○	△	△	△	△	
特殊性	磯河原の植生域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	湧水地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	塩沼湿地	-	-	-	○	○	○							
生息場の多様性の評価値		1	1	0	2	3	3	2	1	2	1	3		

注)生息場の多様性の評価値は、全川の中央値を基準として陸域・水際部・水域の物理環境を○・△

		距離標(空間単位:1km)				セゾン別								
		-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
大セゾン区分						セゾン別								
河川環境区分						区分1								
典型性	水陸域性	陸域	1. 低・中草草地	-	-	△	○	△	○	△	○	△	○	△
		2. 河辺性の樹林・河群林	-	-	-	-	-	-	-	△	○	△	○	△
		3. 自然埋地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		4. 外來植物生育地	-	-	-	-	△	△	△	△	△	△	△	△
		5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○
		6. 水陸の自然度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		7. 水陸の複雑さ	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
		8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		9. ワンド・たまり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10. 湛水域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
汽水	11. 干潟	○	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	
	12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
生息場の多様性の評価値		1	1	0	2	3	3	1	2	4	3	3	3	

距離標(空間単位:1km)		-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
大サメゾーン区分							セメント2-2							
河川環境区分							区分1							
重要 種数	魚類(R01)										6			
	底生動物(R02)							16	16					
	植物(H28)							3	3	1				
	鳥類(H30)	1	2	1	2	1	2	1	1	2	1			
	西・鹿・雉(R03)													
	陸上昆虫類(H29)						2							
	重要種保全合計	1	2	1	2	22	21	1	8	2	1	0	0	
特徴的 種数と 依存性 の生態場	ガンテンシヨウジ 干潟									1				
	ゴクラクハゼ									13		-	-	
	連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	キアシシギ 干潟					1	9	1						
	チュウシャクシギ 干潟									14		-	-	
						11	8							
生物との関わりやすさの評価値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
生物との関わりやすさに関するコメント		魚類は、干潟、汽水域に多く、鳥類は、干潟に着目。												

※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数、個体数を示す。

距離標(空間単位:1km)	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
河川環境区分						区分1						
生息地の多様性の評価値		1	1	0	2	3	3	1	1	2	4	3
生物との関わり強さの評価値		3	3	0	3	3	0	0	3	0	0	0
代表区間候補の抽出					B					B		
候補の抽出理由					B: 評価値の片方1単位					もう片方が2位		
橋の有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
代表区間の選定結果					★							
選定理由						区分1を代表する橋梁(千瀬・ヨシ原)が良好で、管理員があり眺望しやすいため、1km区間を代表区間として選定した。						

- 河口域から6.2K付近まで干潮時に砂泥質の干潟やヨシ原がみられる。
- 干潟にはハマサジやフクド等の塩沼植物群落やヨシ原が生育し、チュウシヤクシギが飛来し、ガンテンイシヨウジ等の魚類、絶滅危惧種のハクセンシオマネキ等のカニ類やヤマトシジミ等の貝類が生息・繁殖している。
- また、人工干潟が整備され、塩沼植物群落が成立している。

- チュウシャクシギが飛来し、ガンテンシヨウジ等の魚類、ハクセンシオマネキ等のカニ類の生息・繁殖する干潟・ヨシ原を保全・創出する。
- 広島湾周辺で唯一の生育地となっているハマサジやフクド等が生育する塩沼植物群落を保全する。
- 右岸に整備された人工干潟を保全し、モニタリングを継続する。



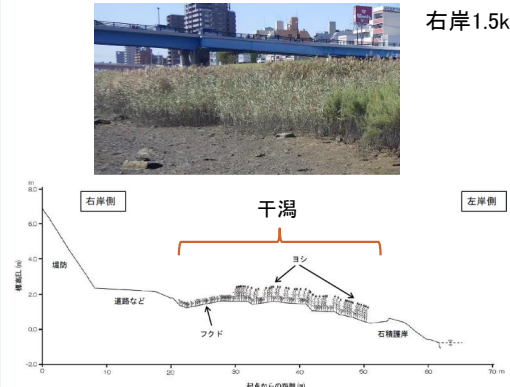
春の渡り時に干潟に飛来
するチュウシャクシギ



干潟に生息・繁殖する
ガンテンイシヨウジ



塩沼植物群落に生育するフクド・ハマサジ



＜塩沼植物はヨシ原の周辺に群生する＞
塩沼湿地ベルト調査(R1環境基図調査)

- 環境の特徴(良い点)
 - ・ 太田川区分1(-3k~8k区間)は、感潮区間であり、海水と淡水が混ざる汽水域となっている。
 - ・ 代表区間である1k区間では1.2k~2.2kの区間に干潟がみられ、干潟にはハマサジやフクド等の塩沼植物群落やヨシ原が生育し、ガンテンイシヨウジ等の魚類、絶滅危惧種のハクセンシオマネキ等のカニ類やヤマトシジミ等の貝類が生息・繁殖している。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
 - ・ -1~0k区間は、干潟・ヨシ原が少なく、水生植物帯・水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
 - ・ チュウシャクシギ等の鳥類が飛来し、ガンテンイシヨウジ等の魚類、絶滅危惧種のハクセンシオマネキ等のカニ類・ヤマトシジミ等の貝類の生息・繁殖する干潟・ヨシ原を保全・創出する。
 - ・ 広島湾で唯一の生育地となっているハマサジやフクド等が生育する塩沼植物群落を保全する。
 - ・ 右岸に整備された人工干潟を保全し、モニタリングを継続する。



太田川:区分1



代表区間

(2.0~3.0k付近)

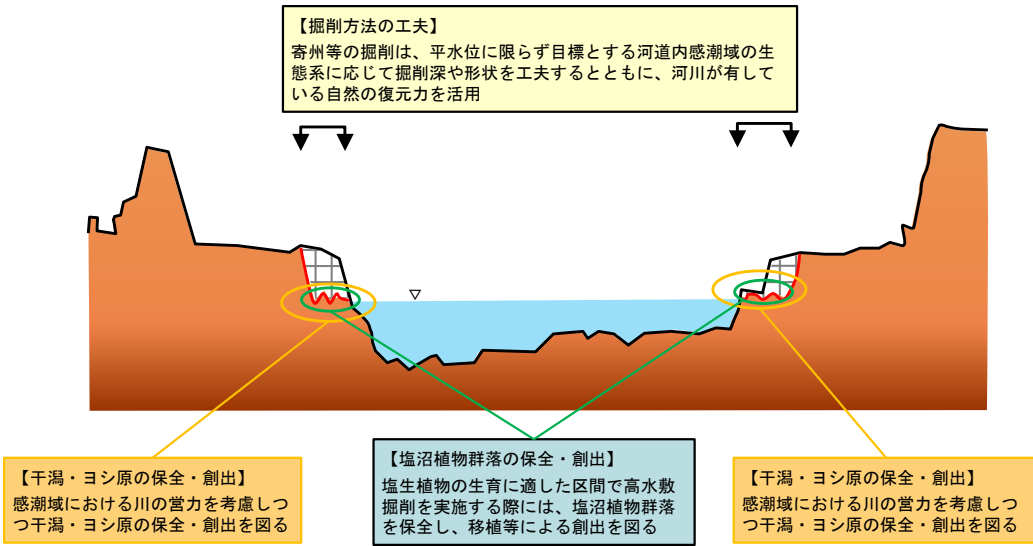


<0.2kから2.2kの干潟創出>

- ・ 高水敷高が潮間帯に位置することから、高水敷に干潟が形成される
 - ・ 干潟前面に敷石護岸を設置して干潟前面を保護
 - ・ 干潟背後を中心に塩生植物やヨシが生育
- (出典:太田川生態工学研究会報告書, 2013)

環境保全・創出のイメージ

河道掘削イメージ ⇒ チュウシャクシギ等の鳥類が飛来し、ガンテンイシヨウジ等の魚類、ハクセンシオマネキ等のカニ類・ヤマトシジミ等の貝類の生息・繁殖する干潟・ヨシ原を保全・創出する。また、ハマサジやフクド等が生育する塩沼植物群落を保全する。



- 太田川区分2(9k～19k区間)は、9k～15kがセグメント2-1、15k～20kがセグメント1に含まれ、緩やかな流れで砂礫の堆積による寄州が発達し、自然裸地(砂質の砂河原)が多くみられる区間である。また、早瀬や平瀬等の流水環境とワンド・たまりの止水環境が点在している。
- 15k付近で大きな支川である三篠川・根谷川が合流し、13k6にある高瀬堰の上下流を中心にアユの産卵場がみられる。この区間の高水敷にはグラウンドが整備され多くの利用者がみられる。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

◆基本情報1：河川環境

距離標(空間単位:1km※)		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
※距離標1:1~2km区間												
略図												
河川環境区分		区分2										
河川区分		下流域										
大セグメント区分		セグメント2-1					セグメント1					
小セグメント区分		セグメント2-1					セグメント1					
堤内地の景観 右岸側		平地										
堤内地の景観 左岸側		平地										
周辺の地形・地質												
河床勾配 (平均河床高)												
河床材料		礫・石										
川幅 (河道幅・水面幅)												
横断工作物		高瀬堰										
支川の合流		三篠川 穂谷川 大毛寺川										
特徴的な狭窄部												
自然再生												
課題												

◆基本情報2-1：生物に基づき評価)

		距離標(空間単位: 1km)											
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
典型性	陸域	1. 低・中茎草地	△	○	△	○	△	○	○	△	△	△	△
		2. 河辺性の樹林・河畔林	△	○	△	○	○	○	○	△	△	△	△
		3. 自然裸地	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○
	水際域	4. 外来植物生育地	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		5. 水生植物帯	△	○	○	○	△	○	△	△	△	△	△
		6. 水際の自然度	△	△	○	△	△	○	△	△	△	○	○
	水域	7. 水際の複雑さ	△	○	△	○	○	○	○	○	○	△	△
		8. 連続する瀬と淵	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		9. ワンド・たまり	△	○	△	○	△	△	○	○			△
	汽水域	10. 湛水域						×					
11. 干潟		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
12. ヨシ原		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特殊性	磯河原の植生域	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
	湧水地						○						
	海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	塩沼湿地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
生息場の多様性の評価値		1	3	6	3	3	2	4	4	2	2	0	

注)生息場の多様性の評価値は、全

② 代表区間・保全区間の選定

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
大セグメント区分		セグメント1			セグメント2-1			セグメント1					
河川環境区分		区分2											
典型性	陸域	1. 低・中草華地	△	○	○	△	○	○	○	△	△	△	
	水陸域	2. 河辺性の樹林・河群林	○	△	○	△	○	○	○	○	△	△	
		3. 自然裸地	○	△	○	△	○	○	○	○	△	△	
		4. 外来植物生育地	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		5. 水生植物帯	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	
	水域	6. 水際の自然度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	
		7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	○	○	○	○	△	
		8. 連続する淵と瀬	○	△	△	△	○	○	○	○	○	△	
		9. ワンド・なまり	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	
	汽水	10. 温水域					×						
	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	12. シソ林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
生息場の多様性の評価値		2	4	5	4	2	5	4	1	4	3		

b) 生物との関わりの強さの評価

調査区		調査区 (空間単位: 1km)																	
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19							
大セグメント区分		セグメント-1						セグメント-2						セグメント-1					
河川環境区分		区分2																	
重要種数	魚類 (R01)		12																
	底生動物 (R02)		7	7				7	7										
	植物 (H28)		1							1									1
	鳥類 (H30)		1			1	3	2			1	1							
	両・爬・哺 (R03)		5	5						4									
	陸上昆虫群 (H29)		3	1	4					4									
重要種全体合計		15	27	16	1	3	16	23	1	1	0	1							
特徴づける種数と依存する種数 (注目種) 魚類	アカザ							2	2										
	連続する瀬と淵	△	○					△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	カジカ中卵型		28																
	連続する瀬と淵									△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	アブラボウ		4							55	95								
	ワンド・たまり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	イカル・ナドリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	自然裸地		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	オオノシキリ		6				2	1		3	4	2							
	水生植物帯	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥類	カウセキ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	水セキ									1								3	
	ワンド・たまり		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連続する瀬と淵		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生物との関わりの強さの評価値		1	5	4	4	2	2	3	3	1	2	1							
生物との関わりの強さに 関するコメント		魚類は、連続する瀬と淵に着目。鳥類は、自然裸地、低干渉に着目。連続する瀬と淵に着目。																	

※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数、個体数を示す。

c) 代表区間の選定

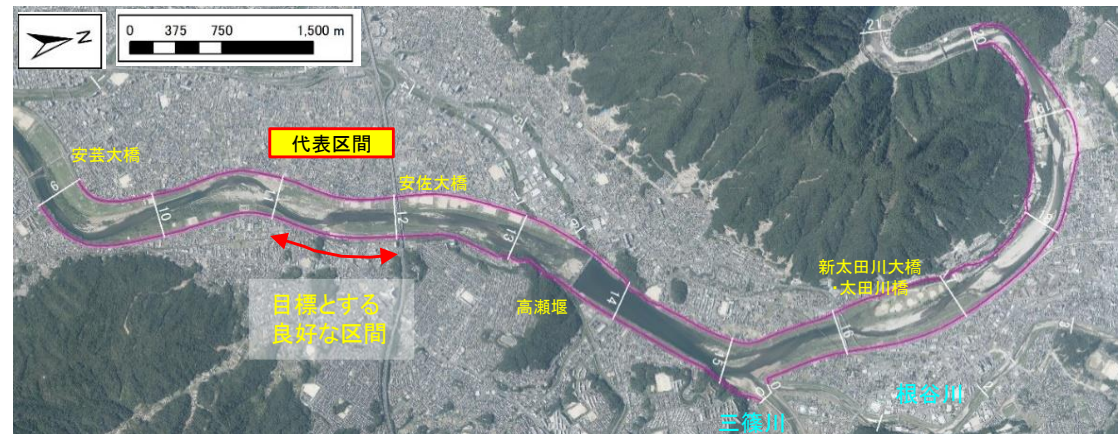
距離標(空間単位:1km)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
河川流域区分											
生息地の多様性の評価値	2	4	5	4	4	2	5	4	1	4	3
生物との関わりやすさの評価値	1	5	4	4	2	2	3	3	1	2	1
代表区間候補の抽出			B	B							
候補の抽出理由			A: 評価値が4以上かつ1位 B: 評価値が4以上かつ1位、もしくは2位								
植の有無											
代表区間の選定結果			★								
選定理由			区分2を代表する環境(水生植物等、連続する瀬淵、自然裸地)が良好で、管理道があり眺望しやすいため、11km区間を代表区間として選定した。								

環境の現状

- 区分2の代表区間である11k区間では緩やかな流れに早瀬・平瀬・自然裸地が発達している。
- 連続する瀬・淵には、絶滅危惧種のアカザが生息・繁殖する。また、高瀬堰の上下流にある河床が浮き石となっている早瀬にはアユの産卵場がみられる。
- ワンド・たまりや緩流域には、アブラボテが生息・繁殖している。
- 自然裸地(砂礫地)には、イカルチドリ等が生息・繁殖している。

保全・創出

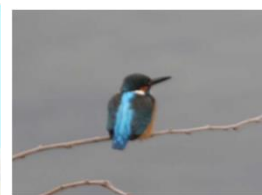
- 絶滅危惧種のアカザが生息・繁殖する連続する瀬・淵を保全する。
- 特に、アユの産卵場として利用される高瀬堰の上下流の河床が浮き石となった早瀬を保全する。
- アブラボテが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全・創出する。
- イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地(砂礫地)を保全・創出する。



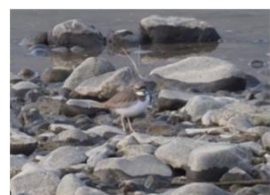
連続する瀬・淵に生息
・繁殖するアカザ



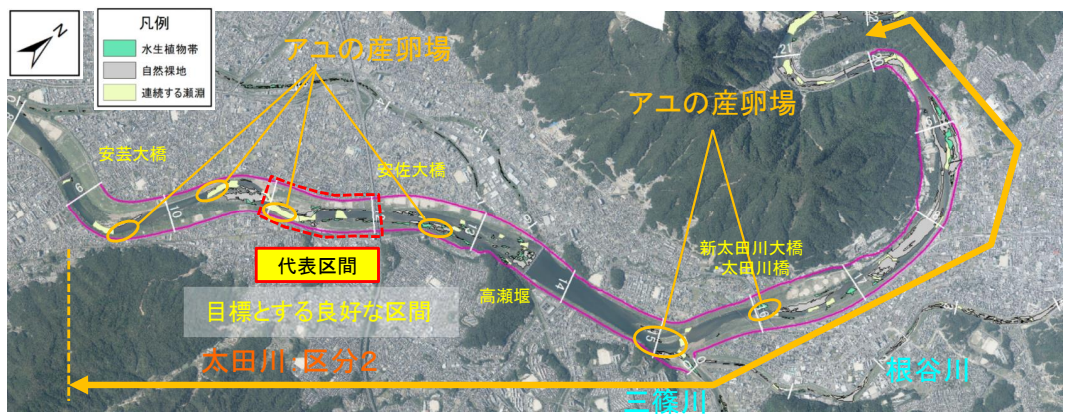
ワンド・たまりに生息・繁殖するアブラボテ



ワンド・たまりで採餌
するカワセミ

砂礫地に生息・繁殖する
イカルチドリ 20

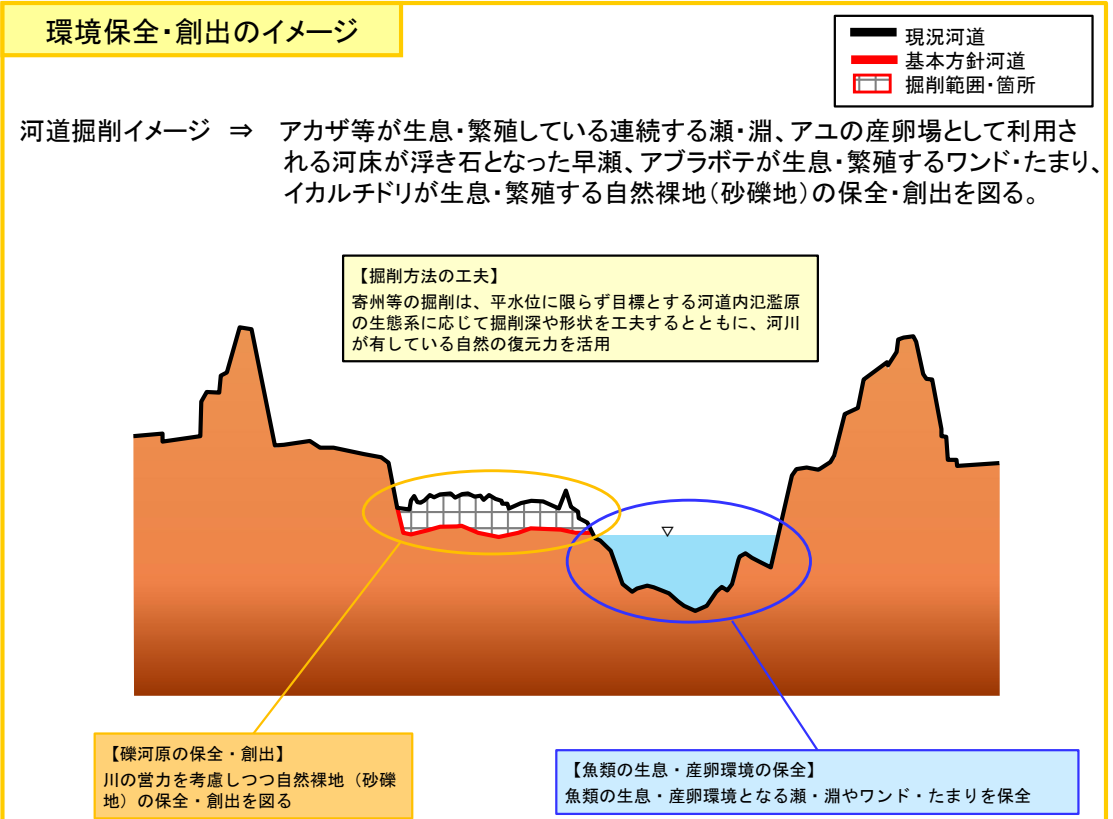
- 環境の特徴(良い点)
- 太田川区分2(9k~19k区間)は、9k~15kがセグメント2-1、15k~20kがセグメント1に含まれ、緩やかな流れで砂礫の堆積による寄州が発達し、自然裸地(砂質の砂河原)が多くみられる区間である。
 - 連続する瀬・淵には、絶滅危惧種のアカザが生息・繁殖する。高瀬堰上下流の河床が浮き石となっている早瀬にはアユの産卵場がみられ、ワンド・たまりや緩流域には、アブラボテが生息・繁殖している。
 - 自然裸地(砂礫地)には、イカルチドリ等が生息・繁殖している。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
- 9~10k区間は、連続する瀬・淵やワンド・たまりが少なく、水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
- 絶滅危惧種のアカザが生息・繁殖する連続する瀬・淵を保全・創出する。特に、アユの産卵場として利用される河床が浮き石となった早瀬を保全・創出する。
 - アブラボテが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全・創出する。
 - イカルチドリの生息地・繁殖地となっている自然裸地(砂礫地)を保全・創出する。



代表区間



11.2k付近におけるアユ産卵場造成と産着卵
(出典: 令和元年度 アユ産卵場調査_広島市)



- 太田川区分3(20k～56k区間)は、全域がセグメントMに含まれ、河道が複雑な形状で蛇行しており、交互砂州が形成されている。また、早瀬と淵が連続し、ワンド・たまり等の止水環境もみられる。低水敷には自然裸地(礫河原)が発達している。
- 連続する瀬・淵には、カジカや絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖しており、自然裸地(礫河原)にはカワラハハコが生育し、イカルチドリが生育・繁殖している。また、岩場の水際にはキシツツジの生育が確認されている。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

環境の現状

- 代表区間である42k区間では流路が蛇行し、寄州は大きな自然裸地(礫河原)となり広がっており、連続する淵や瀬がみられる。
- 連続する瀬・淵には、カジカや絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖する。
- 自然裸地(礫河原)にはカワラハハコが生育し、イカルチドリが生育・繁殖し、岩場の水際にはキシツツジの生育している。

保全・創出

- カジカや絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖する連続する瀬・淵を保全・創出する。
- カワラハハコの生育地であり、イカルチドリが生育・繁殖する自然裸地（礫河原）、キシツツジの生育地である岩場の水際を保全・創出する。



◆基本情報1：河川環境区分（セグメント形成要因）

流域幅(空間単位:1km ²) ※距離標1:1~2km区間		20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56
略図		
河川環境区分		区分3
河川区分	中流域	
大セグメント区分	セグメントM	
小セグメント区分	セグメントM	
堤内地の景観 右岸側	主に山地	
堤内地の景観 左岸側	主に山地	
周辺の地形・地質	平地	
主なセグメント河床勾配 (平均河床高)	1/370 1/260 1/190	
河床材料	石	
川幅 (河道幅・水面幅)		
横断工作物	津伏取水堰堤 久日市堰堤 附地堰堤	
支川の合流	鈴張川 吉山川 小沢内川 西条川 水内川 丁川 滝川	
特徴的な狭窄部	西条川	
自然再生	課題	

◆基本情報2-1：生物

		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
典型性	陸域	1. 低・中草草地	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	陸域	2. 河辺性の樹林・河畔林	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	陸域	3. 自然裸地	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	陸域	4. 外來植物生育地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	水域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	水域	6. 水際の自然度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	水域	7. 水際の覆被さ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	水域	8. 連続する帯と帯	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	水域	9. ワンド・たまり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	水域	10. 湛水域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
自然性	陸域	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	陸域	12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	陸域	陸河原の植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
特殊性	陸域	淡水地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	陸域	海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	陸域	塩沼湿地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
生息場の多様性の評価値		2	2	2	3	3	2	2	1	2	4	3	2	3	2	3	4	2	3	4	3	4	4	4	3	4	2	1	3	3	1	2	3	3	2	3	3	

② 代表区間・保全区間の選定
a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

[illegible]

b) 生物との関わりの強さの評価

[illegible]

c) 代表区間の選定

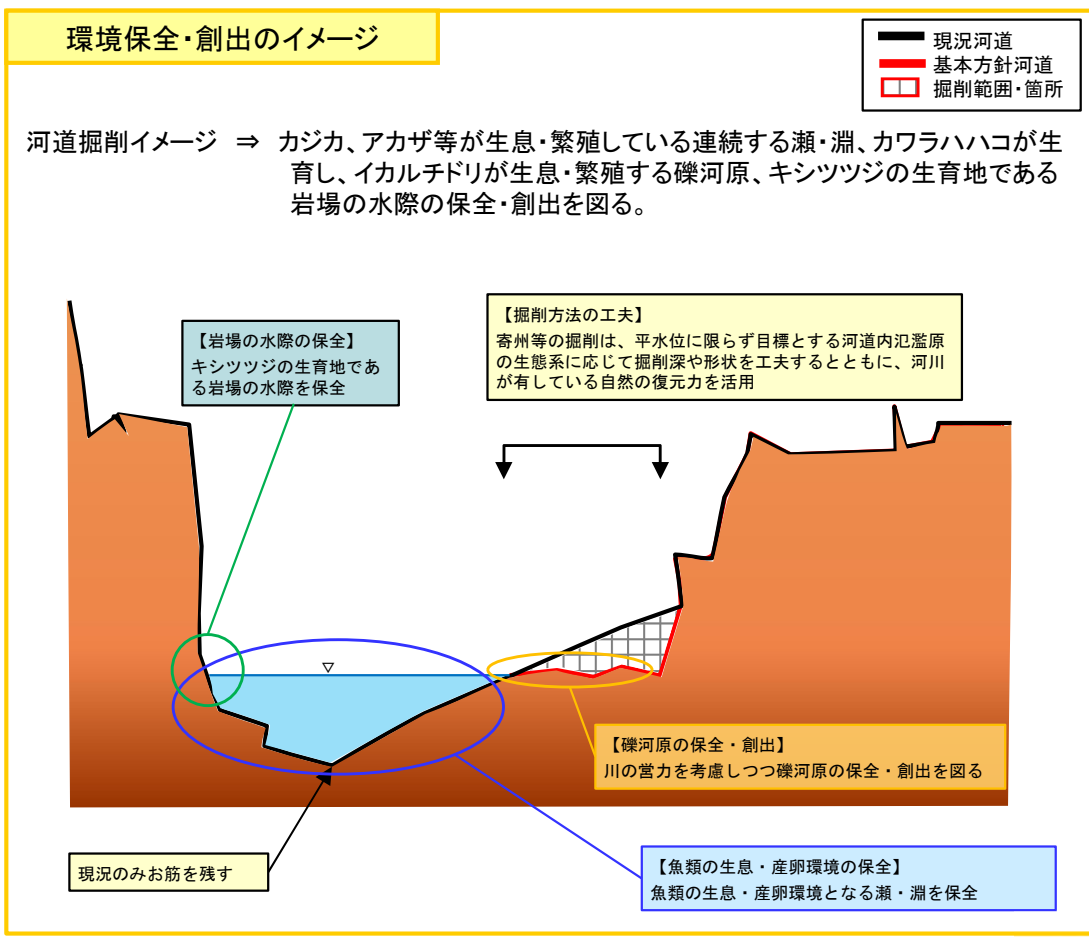
[illegible]

連続する瀬・淵に生息・繁殖する
アカザ・カジカ



磯河原に生育するカワラハハコ

- 環境の特徴(良い点)
 - ・ 太田川区分3(20k~56k区間)は、全域がセグメントMに含まれ、河道が複雑な形状で蛇行しており、交互砂州が形成されている。また、早瀬と淵が連続し、ワンド・たまり等の止水環境もみられる。低水敷には自然裸地(礫河原)が発達している。
 - ・ 連続する瀬・淵には、カジカや絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖する。
 - ・ 自然裸地(礫河原)にはカワラハハコが生育し、イカルチドリが生息・繁殖している。また、岩場の水際にはキシツツジの生育が確認されている。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
 - ・ 27~28k区間は、連続する瀬・淵、自然裸地が少なく、水際の複雑さが低い。46~47k区間、49~50k区間は、湛水域が広がり、連続する瀬・淵が少なく、水際の自然度が低い。
- 環境の保全・創出
 - ・ カジカや絶滅危惧種のアカザ等が生息・繁殖する連続する瀬・淵を保全・創出する。
 - ・ カワラハハコの生育地であり、イカルチドリが生息・繁殖する自然裸地(礫河原)、キシツツジの生育地である岩場の水際を保全・創出する。



- 太田川区分4(57k～70k区間)は、全域がセグメントMとなっている。河道が大きく蛇行し、蛇行部に自然裸地が形成され、水際にツルヨシが生育している。
- 連続する瀬・淵には、サツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)、絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖し、ワンド・たまりには絶滅危惧種のおやニラミが生息・繁殖している。河川沿いの山付区間にはオシドリが生息している。
- また、自然裸地(砂礫地)にはカワラハハコが生育し、イカルチドリが生息・繁殖している。岩場の水際にはキシツツジの生育が確認されている。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

◆基本情報1：河川環境

距離標(空間単位:1km※)		57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
※距離標1:1~2km区間															
略図															
河川環境区分		区分4													
河川 区分	河川区分	中流域													
	大セグメント区分	セグメントM													
	小セグメント区分	セグメントM													
	堤内地の景観 右岸側	平地													
主な セグ メント 形成 要因	堤内地の景観 左岸側	平地													
	周辺の地形・地質	平地													
	河床勾配 (平均河床高)	1/130													
	河床材料	1/110													
	川幅 (河道幅・水面幅)														
	横断工作物	上原堰堤 西調子頭首工 正地堰取水堤													
	支川の合流	寺領川 柴木川													
	特徴的な狭窄部														
自然再生															
課題															

◆基本情報2-1：生物

距離標(空間単位:1km)		57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	
典型性	陸域	1. 低・中葦草地	○	○	-	-	-	-	-	○	○	△	△	-	○	○
		2. 河辺性の樹林・河畔林	○	○	△	△	△	○	△	○	○	△	△	○	△	○
		3. 自然裸地	△	△	△	△	△			△	○	△	△	△	△	
		4. 外来植物生育地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水際域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		6. 水際の自然度	△	○	△	○	△	○	△	△	○	○	△	○	△	△
		7. 水際の複雑さ	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
		8. 連続する瀬と淵	△	△	△	○	△	○	△	△	○	○	○	○	△	△
	水域	9. ワンド・たまり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10. 湛水域		△	×		×		△	△			△	△		
汽水	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特殊性	陸河原の植生域	○	○				○					○		○		
	湧水地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	塩沼湿地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
生息場の多様性の評価値		2	3	0	2	1	3	1	2	5	3	2	4	1		

② 代表区間・保全区間の選定

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離(空間単位: 1km)		57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
大セグメント区分		セグメントM													
河川環境区分		区分A													
典型性	陸域	1. 低・中草草地													
		2. 河辺性の樹林・河畔林	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△	○	△	△
		3. 自然裸地													
		4. 外来植物生育地													
	水際域	5. 水生植物帯													
		6. 水際の自然度				△	△	△	○	△	△	△	△	△	△
		7. 水際の複雑さ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	水域	8. 連続する潟と潮									△	○	○	○	○
		9. ワンド・たまり													
		10. 湛水域			×	×	×	×	×	×	△				
	汽水	11. 干潟													
		12. ヨシ原													
生態場の多様性の評価値		2	1	0	3	1	2	2	2	3	2	2	4	1	

b) 生物との関わりの強さの評価

		距離幅 (空間単位: 1km)										セグメント									
		45	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70					
大セグメント区分												セグメント区分									
河川環境区分												区分									
重要種数	魚類 (R01)																				
	底生動物 (R02)											6 6									
	植物 (H28)											4									
	鳥類 (H30)	2										1 5									
	両・爬・哺 (R03)	2										2 2 1									
	陸上昆虫類 (H29)											7									
重要種全体合計		0 2 2 0 0 0 1 2 7 0										0 6 19 11 6 4									
特徴づけられる生物体数と依存する生物種数 (注目生物)	魚類	アカザ										5 5									
	連続する瀬と淵	△ △																			

※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数、個体数を示す。

c) 代表区間の選定

距離標 (空間単位: 1km)	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
河川環境区分	区分4													
生息場の多様性の評価値	2	1	0	3	1	2	1	2	5	2	2	4	1	2
生物との関わりの方さの評価値	0	0	0	4	3	0	0	0	4	3	3	3	0	4
代表区間候補の抽出	A: 評価値が両方とも1位													
候補の抽出理由														
格の有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
代表区間の選定結果	★													
選定理由	区分4を代表する環境(連続する瀬と淵)が良好で、全体を見逃せる種(轟轟、轟轟場)もあため、69km区間を代表区間として選定した。													

環境の現状

- 区分4の代表区間である65k区間では生息場の多様性の評価の高い連続する瀬・淵、ワンド・たまり、自然裸地が多くみられる。
- 連続する瀬・淵には、サツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)、絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖し、ワンド・たまりには絶滅危惧種のおやニラミが生息・繁殖している。
- 河川沿いの山付区間にはオシドリが生息している。
- 自然裸地にはカワラハハコが生育し、イカルチドリが生育・繁殖している。岩場の水際にはキシツツジが生育している。

保全・創出

- サツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)、絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全・創出する。
- 絶滅危惧種のおやニラミが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全・創出する。オシドリが生息する山付き区間を保全する。
- カワラハハコが生育し、イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地、キシツツジの生育地である岩場の水際を保全する。



連続する瀬・淵に生息・繁殖する
アカザ・サツキマス(同種で生活
史が異なるアマゴを含む)

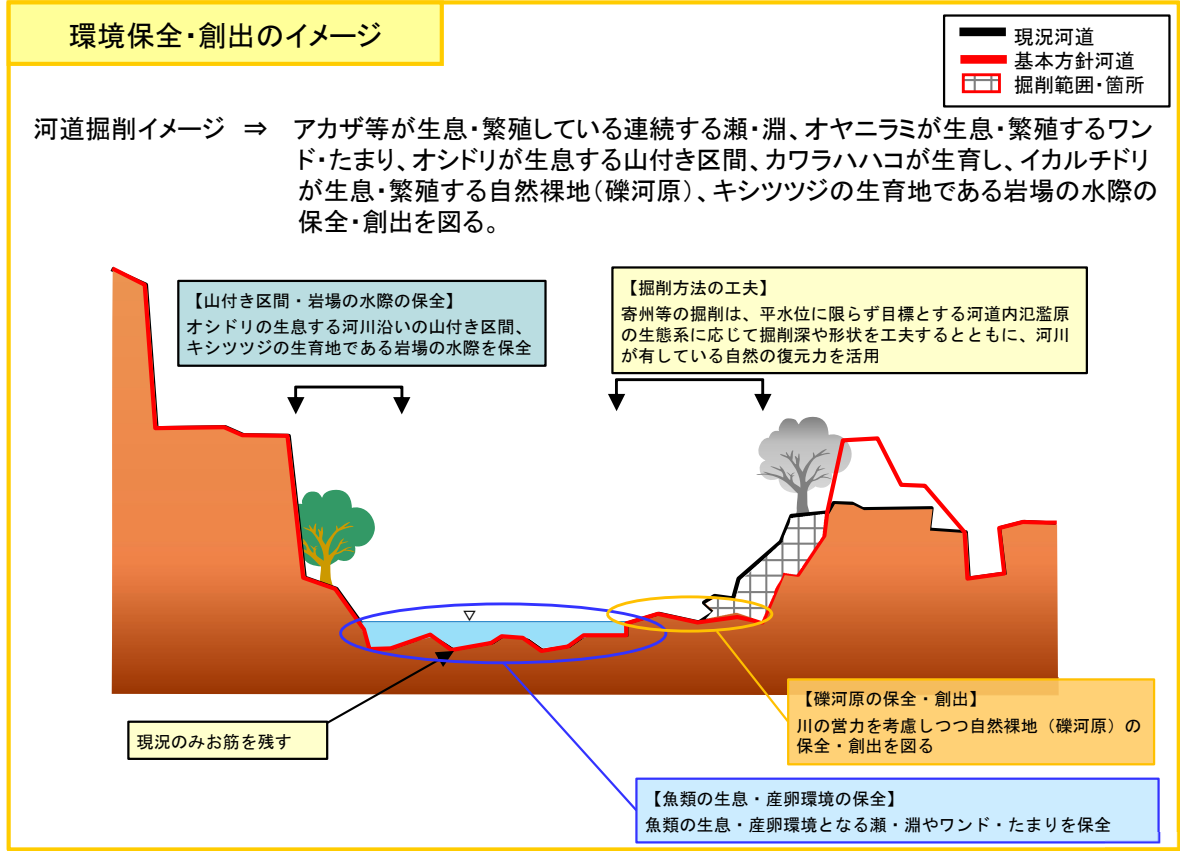


ワンド・たまりに
生息・繁殖する
オヤニラミ



砂礫地に生育する
カワラハハコ

- 環境の特徴(良い点)
- 太田川区分4(57k~70k区間)は、全域がセグメントMとなっている。河道が大きく蛇行し、蛇行部に河川敷が形成され、ツルヨシが生育している。
 - 連続する瀬・淵には、サツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)、絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖しており、ワンド・たまりには絶滅危惧種のおヤニラミが生息・繁殖している。河川沿いの山付区間にはオシドリが生息している。
 - 自然裸地(砂礫地)にはカワラハハコが生育し、イカルチドリが生息・繁殖している。また、岩場の水際にはキシツツジの生育が確認されている。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
- 59~60k区間は、連続する瀬・淵、自然裸地(砂礫地)が少なく、水際の自然度が低い。
- 環境の保全・創出
- サツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)、絶滅危惧種のアカザ等が生息・繁殖する連続する瀬・淵を保全・創出する。オシドリが生息する山付き区間を保全する。
 - 絶滅危惧種のおヤニラミが生息・繁殖であるワンド・たまりを保全・創出する。
 - カワラハハコの生育地であり、イカルチドリが生息・繁殖する自然裸地、キシツツジの生育地である岩場の水際を保全する。



- 派川旧太田川(-2k～6k区間)は全域が感潮域となっており、干潮時には砂泥質の干潟がみられる。
- 連続する瀬・淵には絶滅危惧種のニホンウナギが生息するほか、絶滅危惧種のシロウオ、カジカ中卵型が生息・繁殖し、ワンド・たまりにはスミウキゴリ等の魚類が生息・繁殖している。また、干潟にはイソシギが生息している。
- 代表区間である5k区間では水際の自然度、水際の複雑さが高く、干潟・ヨシ原がみられる。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

◆基本情報1：河川環境区分（セグメント形成要因）

	距離標(空間単位:1km※) ※距離標1:1~2km区間	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
	略図									
	河川環境区分	区分1								
河川 区分	河川区分	汽水域								
	大セグメント区分	セグメント3							グメント2-	
	小セグメント区分	セグメント3							グメント2-	
	堤内地の景観 右岸側	市街地								
	堤内地の景観 左岸側	平地	市街地							
主なセグメント形成要因	周辺の地形・地質									
	河床勾配 (平均河床高)	1/5,010							1/1,530	
	河床材料									
	川幅 (河道幅・水面幅)	 河道幅								
	横断工作物									
	支川の合流									
	特徴的な狭窄部									
自然再生										
課題										

◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況（全川の中央値に基づき

		距離標(空間単位:1km)	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
典型性	陸域	1. 低・中茅草地				○					
		2. 河辺性の樹林・河鮮林	-	-	-		-		-		-
		3. 自然裸地	-	-	-		-		-		-
		4. 外来植物生育地									
	水域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-		-		-
	水際域	6. 水際の自然度	△	△	△	○	○	○	○	○	○
		7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	○	○	○	△
		8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水域	9. ワンド・たまり									
		10. 湛水域		-	-	-	-	-	-	-	-
	汽水	11. 干潟		○	○	△	△	△	○	○	△
	水	12. ヨシ原						○	△	○	
特殊性	礫河原の植生域		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	湧水地		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	海浜植生帯										
	塩沼湿地										
生息場の多様性の評価値			0	1	2	2	3	3	4	4	1

② 代表区間・保全区間の選定

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき)

距離標(空間単位:1km)		-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
大セグメント区分		セグメント3				セグメント2		セグメント1		
河川流域区分						区分1				
典型性	陸域	1. 低・中茅草地				○				
		2. 河辺性の樹林・河畔林								
		3. 自然裸地								
		4. 外来植物生育地								
	水際域	5. 水生植物帯								
		6. 水際の自然度	△	△	△	○	○	○	○	○
		7. 水際の複雑性					△	△	△	△
		8. 連続する瀬と淵								
	水域	9. ワンド・たまり								
		10. 湛水域								
汽水	11. 干潟				○	○	△	△	△	△
	12. ヨシ原									
生息場の多様性の評価値		0	1	1	2	2	3	3	4	4

b) 生物との関わりの強さの評価

路線種 (空間単位: 1km)		2	1	0	1	2	3	4	5	6
大セグメント区分		セグメント3 セグメント4 セグメント5								
河川流域区分		区分1								
重要 種数	魚類 (R01)									6
	底生動物 (R02)									5
	植物 (H28)						2		2	
	植物 (H30)	2								
	両・爬・哺 (R23)							2	1	
	陸上昆虫類 (H35)									
重要種全体合計		2	0	0	0	2	2	3	11	0
情欲づける 種体数と 体積づける 種 (注目生 息生物の 種)	シロウオ								2	
	連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	魚類									16
	カンガロ原型									2
	連続する瀬と淵									2
	スズキギョ									2
	ワツナ									2
	マサゴ									2
	連続する瀬と淵	3			1					
	鳥類									3
	イソシギ	2	1					1	3	
	自然裸地									
生物との関わり の強さの評価値		0	0	0	0	0	0	0	0	0
生物との関わりの中級 に関するコメント		魚類は、連続する瀬と淵、ワニ に著目。鳥類は、干涸に著目。								

c) 代表区間の選定

距離標(空間単位:1km)	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
河川環境区分	区分1								
生息場の多様性の評価値	0	1	1	2	2	3	3	4	1
生物との関わり(強さ)の評価値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
代表区間候補の抽出									A
候補の抽出理由	A: 評価値が両方とも1位								
網の有無		○	○	○	○	○	○		○

代表区間の選定結果

	区分1を代表する環境(干潟)が良好で、全体を見渡せる橋(大芝橋)もあるため、5km区間を代表区間として選定した。
--	--

選定理由

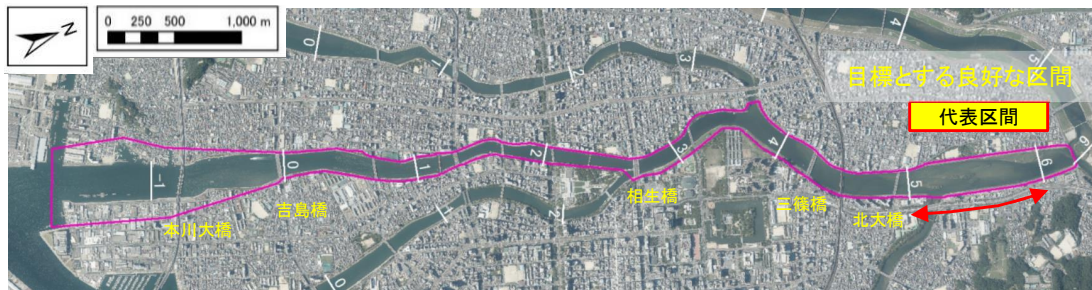
[illegible]

環境の現状

- 派川旧太田川(-2k～6k区間)の代表区間である5k区間では水際の自然度、水際の複雑さが高く、干潟・ヨシ原がみられる。
- 連続する瀬・淵には、絶滅危惧種のニホンウナギが生息するほか、絶滅危惧種のシロウオ、カジカ中卵型が生息・繁殖し、ワンド・たまりにはスミウキゴリ等の魚類が生息・繁殖している。
- 干潟にはイソシギが生息している。

保全・創出

- 絶滅危惧種のニホンウナギ等の魚類が生息し、絶滅危惧種のシロウオ、カジカ中卵型等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全する。
- スミウキゴリが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全する。
- イソシギが生息している干潟を保全する。



連続する瀬・淵に生息する
カジカ中卵型・ニホンウナギ



ワンド・たまりに生息・繁殖
するスミウキゴリ



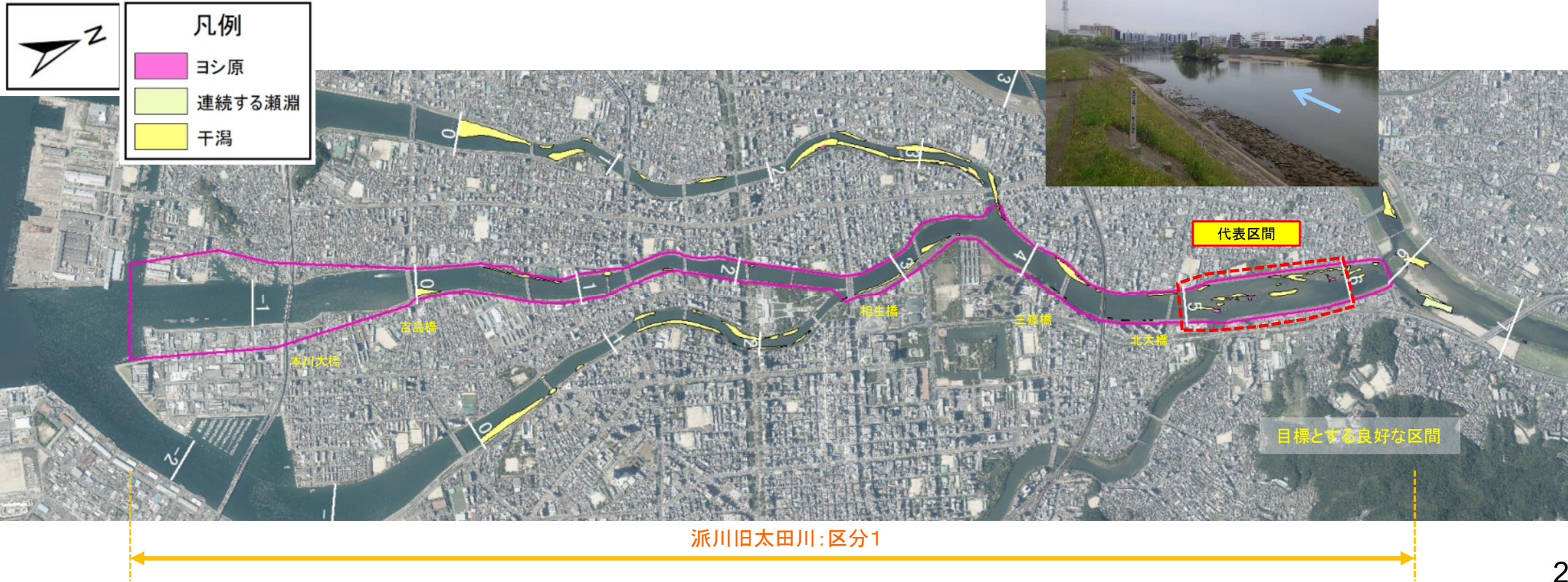
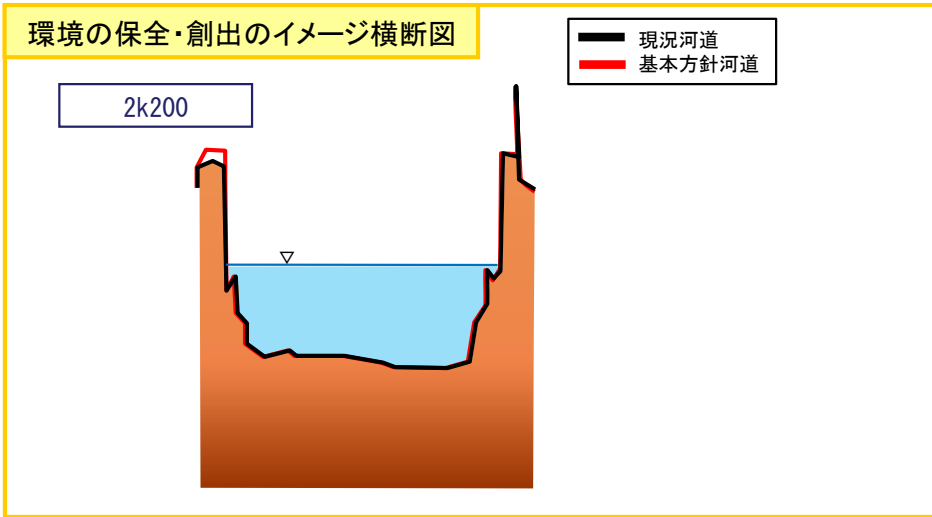
干潟に生息する
イソシギ



汽水域を遡上し産卵するシロウオとその卵



- 環境の特徴(良い点)
- ・ 派川旧太田川(-2k~6k区間)は全域が感潮域となっており、干潮時には砂泥質の干潟がみられる。 代表区間である5k区間には、干潟・ヨシ原がみられる。
 - ・ 連続する瀬・淵には、絶滅危惧種のニホンウナギが生息するほか、絶滅危惧種のシロウオ、カジカ中卵型が生息・繁殖し、ワンド・たまりにはスミウキゴリ等の魚類が生息・繁殖している。また、干潟にはイソシギが生息している。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
- ・ -2~-1k区間は干潟がみられず、水際の自然度・水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
- ・ 絶滅危惧種のニホンウナギ等の魚類が生息し、絶滅危惧種のシロウオ、カジカ中卵型等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全する。
 - ・ スミウキゴリが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全する。
 - ・ イソシギが生息している干潟を保全する。



- 派川天満川は旧太田川と3.7kで分派して広島湾に下る派川である。派川天満川(-3k~3k区間)は全域がセグメント3となっており、全域で感潮域となっている。また、天満川は全域にわたって人工的な護岸で構成されており、上流側を中心に干潮時には護岸の前に砂泥質の干潟やヨシ原がみられる。
- 代表区間である3k区間では水際の自然度、水際の複雑さが高く、干潟やヨシ原が多くみられる。
- 干潟ではイソシギが確認されている。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

◆基本情報1：河川環境区分（セグメント形成要因）

距離標(空間単位:1km※)
※距離標1:1~2km区間

略図

河川環境区分

河川区分

大セグメント区分

小セグメント区分

堤内地の景観 右岸側

堤内地の景観 左岸側

周辺の地形・地質

河床勾配(平均河床高)

河床材料

川幅(河道幅・水面幅)

横断工作物

支川の合流

特徴的な狭窄部

自然再生課題

◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況（全川の中央値）

距離標(空間単位:1km)	-3	-2	-1	0	1	2	3
陸域	1. 低・中草草地	-	-	△	○	-	-
水際域	2. 河辺性の樹林・河鮮林	-	-	-	-	-	-
水域	3. 自然裸地	-	-	-	-	-	-
水	4. 外来植物生育地	-	-	-	-	-	-
汽	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-
水	6. 水際の自然度	△	△	△	△	○	○
	7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	○
	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-
	9. ワンド・たまり	-	-	-	-	-	-
	10. 湛水域	-	-	-	-	-	-
	11. 干潟	-	-	○	○	△	○
	12. ヨシ原	-	-	-	-	△	○
特殊性	裸河原の植生域	-	-	-	-	-	-
	湧水地	-	-	-	-	-	-
	海浜植生帯	-	-	-	-	-	-
	塩沼湿地	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値	0	0	1	1	2	3	3

② 代表区間・保全区間の選定

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)	-3	-2	-1	0	1	2	3
大セグメント区分	セグメント3						
河川環境区分	区分1						
陸域	1. 低・中草草地	-	-	△	○	-	-
水際域	2. 河辺性の樹林・河鮮林	-	-	-	-	-	-
水域	3. 自然裸地	-	-	-	-	-	-
水	4. 外来植物生育地	-	-	-	-	-	-
汽	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-
水	6. 水際の自然度	△	△	△	△	○	○
	7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	○
	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-
	9. ワンド・たまり	-	-	-	-	-	-
	10. 湛水域	-	-	-	-	-	-
	11. 干潟	-	-	○	○	△	○
	12. ヨシ原	-	-	-	-	△	○
生息場の多様性の評価値	0	0	1	1	2	3	3

b) 生物との関わり強さの評価

距離標(空間単位:1km)	-3	-2	-1	0	1	2	3
大セグメント区分	セグメント3						
河川環境区分	区分1						
魚類(R01)	-	-	-	-	-	-	-
底生動物(R02)	-	-	-	-	-	-	-
植物(H28)	-	-	-	-	-	-	-
鳥類(H30)	-	-	-	-	-	-	-
両・爬・哺(R03)	-	-	-	-	-	-	-
陸上昆虫類(H29)	-	-	-	-	-	-	-
重要種全体合計	0	0	0	0	0	0	0

c) 代表区間の選定

距離標(空間単位:1km)	-3	-2	-1	0	1	2	3
河川環境区分	区分1						
生息場の多様性の評価値	0	0	1	1	2	3	3
生物との関わり強さの評価値	0	0	0	0	0	0	0
代表区間候補の抽出	A A						
候補の抽出理由	A. 評価値が両方とも1位						
候補の有無	○	○	○	○	○	○	○
代表区間の選定結果	★						
選定理由	区分1を代表する環境(人工的な護岸・干潟)が良好で、全体を見渡せる橋(横川新橋)もあるため、3km区間を代表区間として選定した。						

環境の現状

- 派川天満川(-3k~3k区間)の全域にわたって人工的な護岸で構成されており、上流側を干潮時には護岸の前に中心に砂泥質の干潟やヨシ原がみられる。
- 代表区間である3k区間では水際の自然度、水際の複雑さが高く、干潟やヨシ原が多くみられる。
- 干潟にはイソシギが生息している。

保全・創出

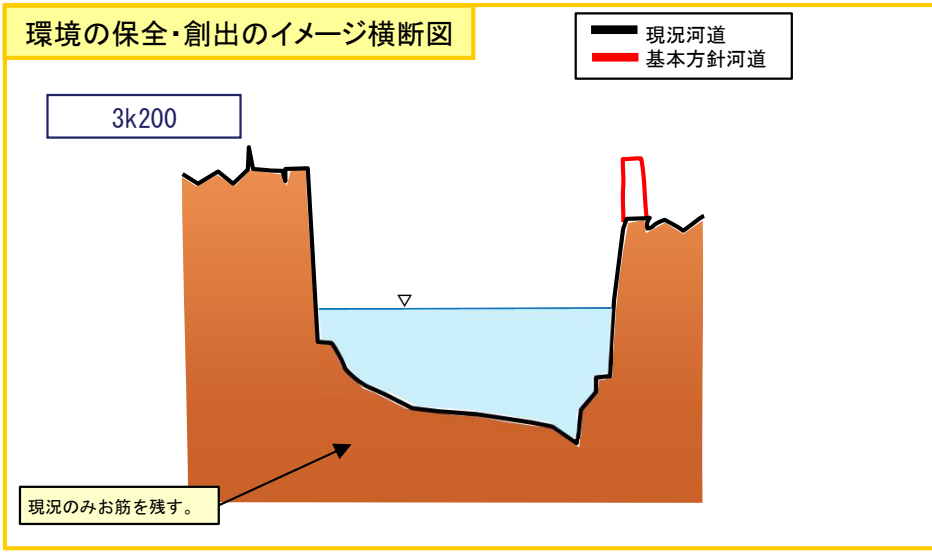
- イソシギが生息している干潟を保全する。
- 感潮域の水生物等の生息地・繁殖地となるヨシ原を保全する。



旧太田川にみられる干潟・ヨシ原の様子(2.8k下流・3.5k下流)

干潟に生息するイソシギ

- 環境の特徴(良い点)
- ・ 派川天満川(-3k~3k区間)は全域がセグメント3となっており、全域で感潮域となっている。
 - ・ また、天満川は全域にわたって人工的な護岸で構成されており、上流側を中心に干潮時には護岸の前に砂泥質の干潟やヨシ原がみられる。
 - ・ 干潟ではイソシギが確認されている。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
- ・ -3~-1k区間は、干潟やヨシ原がみられず、水際の自然度・水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
- ・ イソシギが生息している干潟を保全する。
 - ・ 感潮域の水生生物等の生息地・繁殖地となるヨシ原を保全する。



- 派川元安川(-3k~2k区間)は全域がセグメント3となっており、全域で感潮域となっている。また、全域にわたって人工的な護岸で構成されており、上流側を中心に干潮時には護岸の前に砂泥質の干潟がみられる。
- 元安川と旧太田川の間には、原爆ドームや平和記念公園等、国際平和都市「広島」を象徴する空間であり、世界中から多くの人々が訪れる場所となっている。
- 干潟ではイソシギの生息が想定される。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

◆基本情報1：河川環境区分（セグメント形成要因）											
距離標(空間単位:1km※) ※距離標1:1~2km区間											
略図											
河川環境区分											
河川区分											
大セグメント区分											
小セグメント区分											
堤内地の景観 右岸側											
堤内地の景観 左岸側											
周辺の地形・地質											
河床勾配 (平均河床高)											
河床材料											
川幅 (河道幅・水面幅)											
横断工物											
支川の合流											
特徴的な狭窄部											
自然再生											
課題											

◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況（全川の中央値に基づき評価）								
		距離標(空間単位:1km)	-3	-2	-1	0	1	2
典型性	陸域	1. 低・中茅草地					○	
		2. 河辺性の樹林・河畔林	-	-	-	-		-
		3. 自然裸地	-	-	-	-		-
		4. 外来植物生育地						
	水際域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-
		6. 水際の自然度	△	△	△	△	○	○
		7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	○
		8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-
	水域	9. ワンド・たまり	-	-	-	-	-	-
		10. 湛水域	-	-	-	-	-	-
		11. 干潟			○	△	○	△
		12. ヨシ原						
特殊性	裸河原の植生帯	-	-	-	-	-	-	
	湧水地	-	-	-	-	-	-	
	海浜植生帯							
	塩沼湿地							
生息場の多様性の評価値			0	0	1	0	4	2

② 代表区間・保全区間の選定												
a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値)												
距離標(空間単位:1km)												
大セグメント区分												
河川環境区分												
典型性	1. 低・中茅草地	-3	-2	-1	0	1	2					
	2. 河辺性の樹林・河畔林	-	-	-	-	-	-					
	3. 自然裸地	-	-	-	-	-	-					
	4. 外来植物生育地	-	-	-	-	-	-					
	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-					
	6. 水際の自然度	△	△	△	△	○	○					
	7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	○					
	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-					
	9. ワンド・たまり	-	-	-	-	-	-					
	10. 湛水域	-	-	-	-	-	-					
	11. 干潟	-	-	-	○	△	△					
	12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-					
生息場の多様性の評価値							0	0	1	0	2	
b) 生物との関わりやすさの評価												
距離標(空間単位:1km)												
大セグメント区分												
河川環境区分												
重要種数	魚類(R01)	-3	-2	-1	0	1	2					
	底生動物(R02)	-	-	-	-	-	-					
	植物(H28)	-	-	-	-	-	-					
	鳥類(H30)	-	-	-	-	-	-					
	両・爬・哺(R03)	-	-	-	-	-	-					
	陸上昆虫類(H29)	-	-	-	-	-	-					
	重要種全体合計	0	0	0	0	0	2					
特徴づける種(生息場の保存・創出に貢献する種)	魚類	-	-	-	-	-	-					
	鳥類	-	-	-	-	-	-					
生物との関わりやすさの評価値							0	0	0	0	0	0
生物との関わりやすさに関するコメント							「河川水辺の国の魚類調査」および「河川水辺の国の鳥類調査」の結果を基に、調査地点が設定されている区間の評価値を算出した。					
※河川水辺の国の調査で確認された重要種数、個体数を示す。												
c) 代表区間の選定												
距離標(空間単位:1km)												
河川環境区分												
生息場の多様性の評価値							0	0	1	0	2	
生物との関わりやすさの評価値							0	0	0	0	0	
代表区間候補の抽出							A					
候補の抽出理由							A. 評価値が高かった					
候補の有無							○	○	○	○	○	
代表区間の選定結果												
選定理由							区分3を代表する環境(人工的な灌漑、干潟)が良好で、全体を見渡せる緑(岸和の大木、万代橋、明治橋)もあるため、1km区間を代表区間として選定した。					

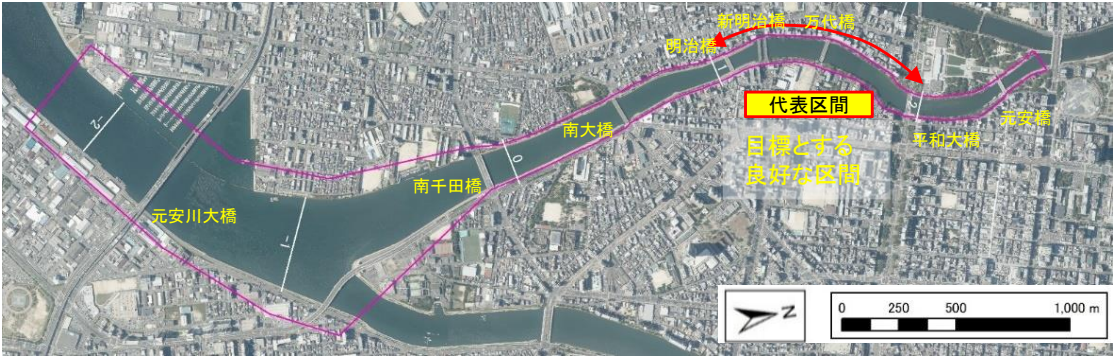
環境の現状

○ 派川元安川(-3k~2k区間)は全域にわたって人工的な護岸で構成されており、上流側の護岸前には干潮時に砂泥質の干潟がみられる。

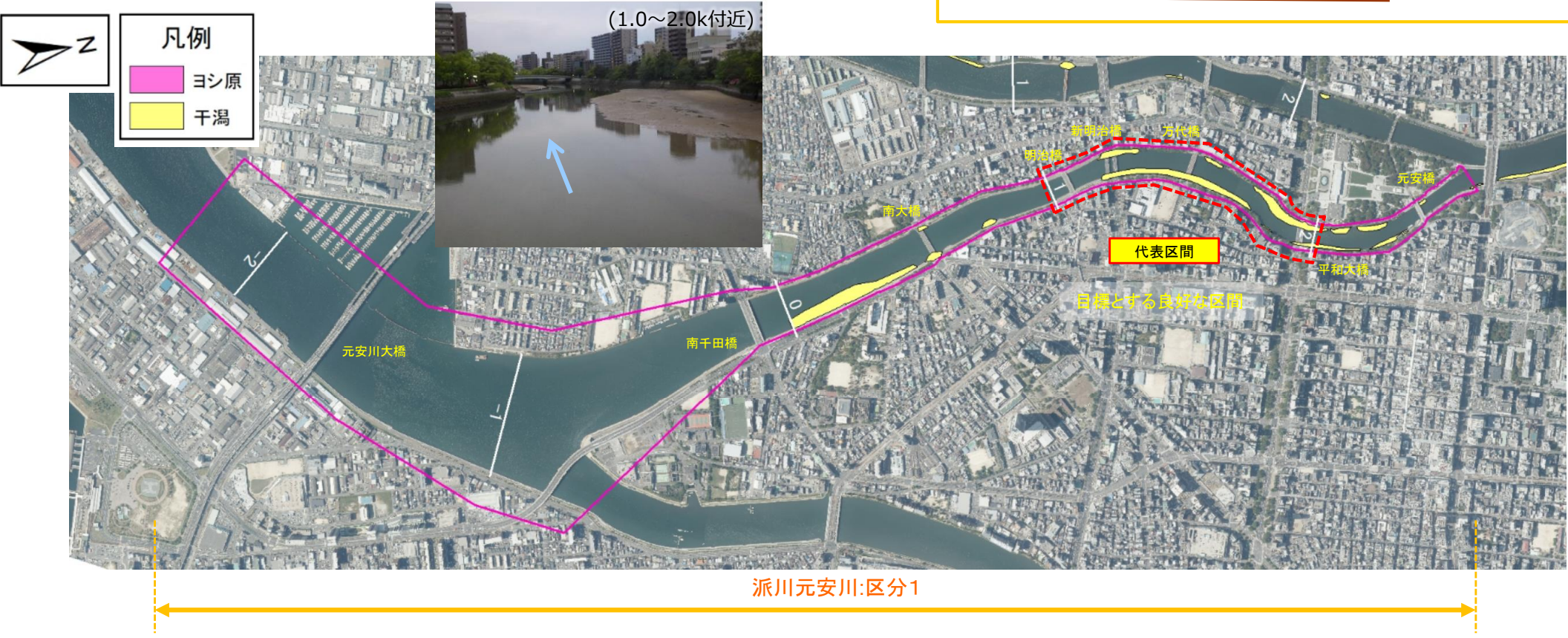
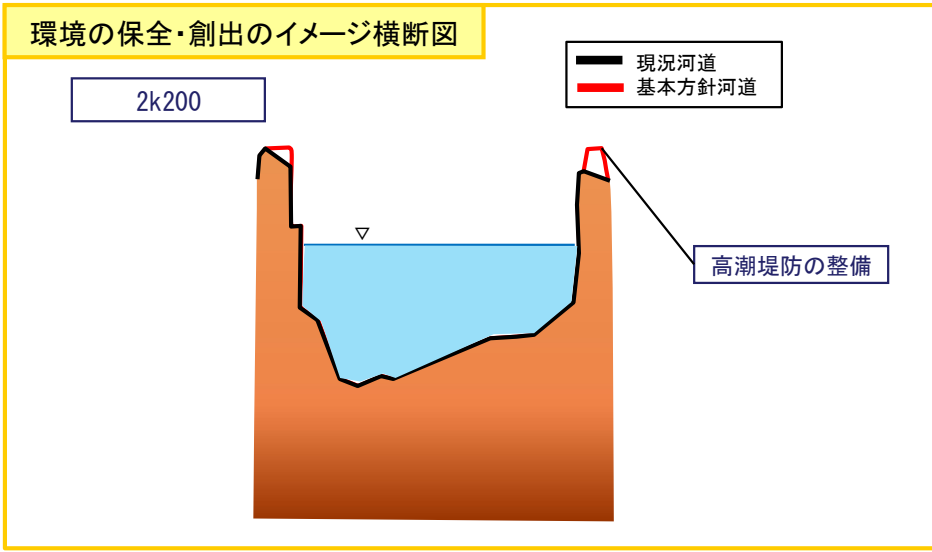
○ 元安川と旧太田川の間には原爆ドームや平和記念公園等、国際平和都市「広島」を象徴する空間があり、世界中から多くの人々が訪れる場所となっている。

保全・創出

○ イソシギが生息する環境の干潟を保全する。



- 環境の特徴(良い点)
- ・ 派川元安川(-3k~2k区間)は全域にわたって人工的な護岸で構成されており、上流側の護岸前には干潮時に砂泥質の干潟がみられる。
 - ・ 元安川と旧太田川の間には、原爆ドームや平和記念公園等、国際平和都市「広島」を象徴する空間があり、世界中から多くの人々が訪れる場所となっている。
 - ・ 干潟ではイソシギの生息が想定されている。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
- ・ -3~-1k区間、0~1k区間は、干潟がみられず、水際の自然度・水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
- ・ イソシギの生息が想定される干潟を保全する。



- 支川古川(第一古川:0k~6k区間、第二古川:0k~1k区間)は全域がセグメント2-2となっている。第一古川の4.4kから上流端及び第二古川の全区間は多自然型川づくり事業として親水護岸が整備されており、地域住民の憩いの場所として利用されている。
- 区分1の代表区間である第一古川の0k区間では連続する瀬・淵、ワンド・たまりがみられる。
- 早瀬にはアユの産卵場がみられる。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

◆基本情報1：河川環境区分(セグメント形成要因)

距離標(空間単位:1km※)
※距離標1:1~2km区間

略図

河川環境区分	区分1(第一古川)	区分1(第二古川)
河川区分	支川古川	支川古川
大セグメント区分	セグメント2-2	セグメント2-2
小セグメント区分	セグメント2-2	セグメント2-2
堤内地の景観 右岸側	平地	平地
堤内地の景観 左岸側	平地	平地
周辺の地形・地質	平地	平地
河床勾配 (平均河床高)	1/910	1/560
河床材料	礫	石
川幅 (河道幅・水面幅)		河道幅
横断工作物		
支川の合流		
特徴的な狭窄部		
自然再生 課題		

◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況(全川の中央値に基づき)

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	0	1
1. 低・中茎草地	○	○	○	○	△	○	△	△	△
2. 河辺性の樹林・河鮮林	○	○	△	○	○	○	△	△	△
3. 自然裸地	○	○	△	○	○	○	△	△	△
4. 外來植物生育地	△	×	×	△	×	×	△	△	△
5. 水生植物帯	○	○	○	○	△	△	△	△	△
6. 水際の自然度	○	△	○	△	○	○	○	○	△
7. 水際の複雑さ	○	○	○	○	○	△	△	△	△
8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9. ワンド・たまり	-	○	△	-	-	-	-	-	-
10. 渾水域	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13. 磯原の植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14. 湧水地	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15. 海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16. 塩沼湿地	-	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値	6	4	3	4	2	2	1	1	0

2. 代表区間・保全区間の選定

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	0	1
大セグメント区分	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2
河川環境区分	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)
典型性	1. 低・中茎草地	○	○	○	○	○	○	○	○
陸域	2. 河辺性の樹林・河鮮林	○	○	○	○	○	○	○	○
水域	3. 自然裸地	○	○	○	○	○	○	○	○
水際	4. 外來植物生育地	△	×	×	△	×	×	△	△
水	5. 水生植物帯	○	○	○	○	△	△	△	△
域	6. 水際の自然度	○	△	○	△	○	○	○	△
	7. 水際の複雑さ	○	○	○	○	○	△	△	△
	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-
	9. ワンド・たまり	-	○	△	-	-	-	-	-
	10. 渾水域	-	-	-	-	-	-	-	-
	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-
	12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値	6	4	3	4	2	2	1	1	0

b) 生物との関わりやすさの評価

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	0	1
大セグメント区分	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2	セグメント2-2
河川環境区分	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)
重要種数	魚類(R01)	8	6	3	0	0	0	0	0
底動物(R02)	6	3	0	0	0	0	0	0	0
植物(H28)	3	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥類(H30)	3	0	0	0	0	0	0	0	0
両・肥・喃(R03)	3	0	0	0	0	0	0	0	0
陸上昆虫類(H29)	3	0	0	0	0	0	0	0	0
重要種多様性	8	6	3	0	0	0	0	0	0
個体数	ゴクラクハゼ	2	2	2	2	2	2	2	2
種数	連続する瀬と淵	2	2	2	2	2	2	2	2
種数	カジカ中卵型	20	20	20	20	20	20	20	20
種数	連続する瀬と淵	2	2	2	2	2	2	2	2
種数	スミウキゴリ	8	8	8	8	8	8	8	8
種数	ワンド・たまり	○	△	△	△	△	△	△	△
種数	鳥類	○	○	○	○	○	○	○	○
種数	生物との関わりやすさの評価値	0	1	0	0	0	0	0	0
種数	生物との関わりやすさに関するコメント	魚類は、連続する瀬と淵、ワンド・たまりに着目。							

c) 代表区間の選定

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	0	1
河川環境区分	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)	区分1(第一古川)
生息場の多様性の評価値	6	4	3	4	2	2	1	1	0
生物との関わりやすさの評価値	0	1	0	0	0	0	0	0	0
代表区間候補の抽出	B	B	B	B	B	B	B	B	B
候補の抽出理由	3. 重要種の数が1位、もう1箇所が2位								
種の有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○
代表区間の選定結果	★								
選定理由	区分1を代表する環境(河辺性の樹林・河鮮林)が良好で、全体を見渡せる橋(大正橋)もあるため、第一古川0k区間を代表区間として選定した。								

環境の現状

○ 支川古川(第一古川:0k~6k区間、第二古川:0k~1k区間)は全域がセグメント2-2となっている。第一古川の4.4kから上流端及び第二古川の全区間は多自然型川づくり事業として親水護岸が整備されており、地域住民の憩いの場所として利用されている。

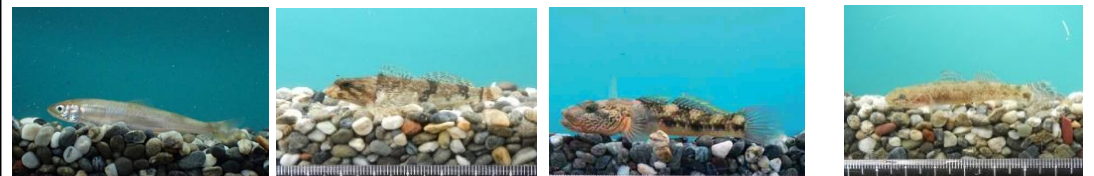
○ 区分1の代表区間である第一古川の0k区間では連続する瀬・淵、ワンド・たまりがみられる。

保全・創出

○ ゴクラクハゼや絶滅危惧種のカジカ中卵型等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全・創出する。

○ スミウキゴリ、絶滅危惧種のおやニラミが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全・創出する。

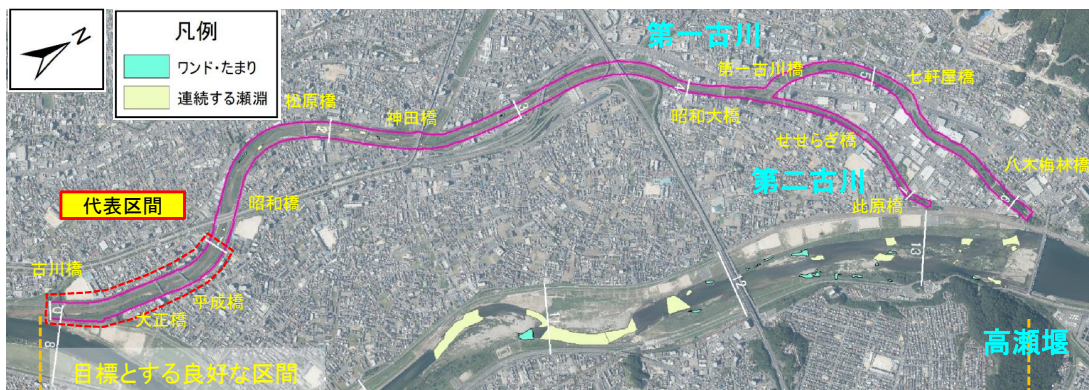
○ アユの産卵場として利用されている早瀬を保全・創出する。



連続する瀬・淵に生息するアユ・カジカ中卵型・ゴクラクハゼ

ワンド・たまりに生息・繁殖するスミウキゴリ

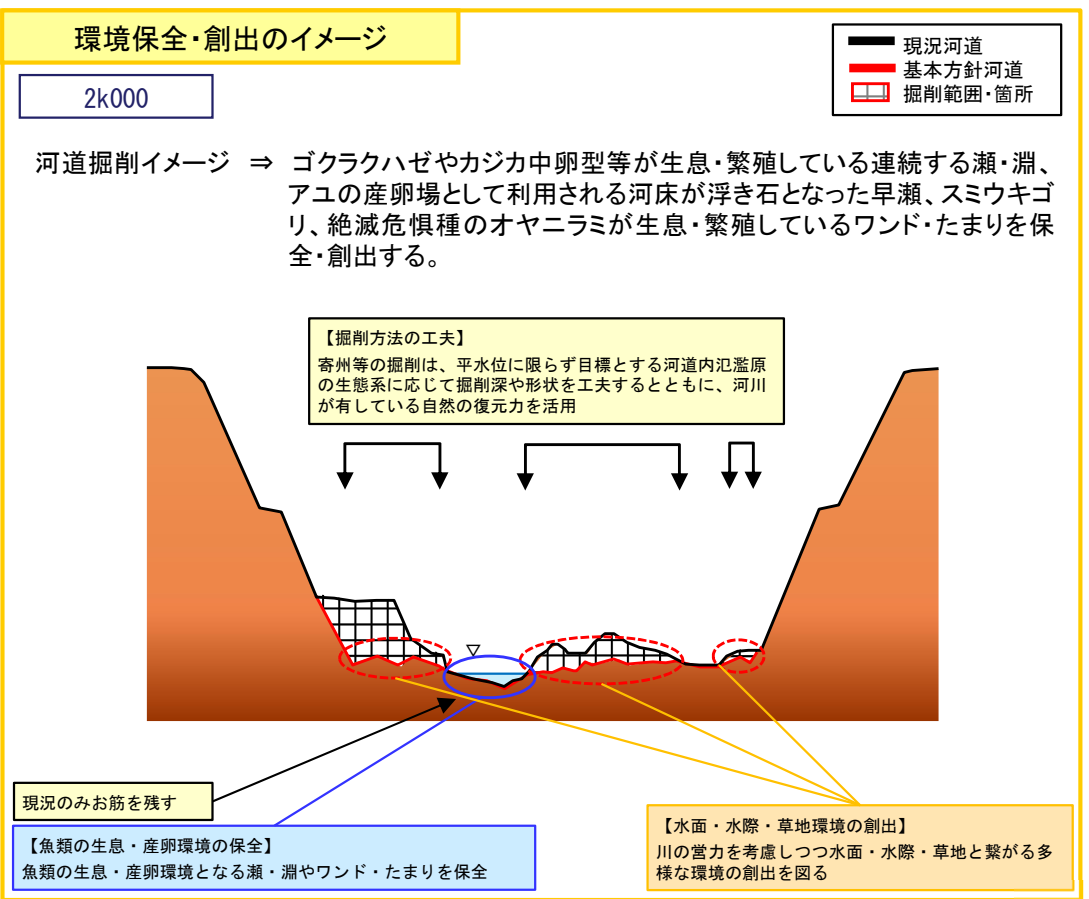
- 環境の特徴(良い点)
- 支川古川は全域がセグメント2-2となっている。第一古川の4.4kから上流端及び第二古川の全区間は多自然型川づくり事業として親水護岸が整備されており、地域住民の憩いの場所として利用されている。
 - 代表区間である第一古川の0k区間では連続する瀬・淵、ワンド・たまりがみられる。
 - 早瀬に、アユの産卵場がみられる。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
- 第二古川の0~1k区間は、ワンド・たまりがみられず、水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
- ゴクラクハゼや絶滅危惧種のカジカ中卵型等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全・創出する。特に、アユの産卵場として利用されている早瀬を保全・創出する。
 - スミウキゴリ、絶滅危惧種のおヤニラミが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全・創出する。



代表区間



【第一古川上流部・第二古川】
親水護岸が整備され、憩いの場所として利用されている



- 支川三篠川(0k~9k区間)は全域がセグメント1となっており、連続する瀬・淵がみられる。また、三篠川には尾和井堰、下深川井堰、一ノ瀬堰、庄原井堰、友光井堰の横断工作物が設置されており、堰の上流には湛水域がみられる。
- 連続する瀬・淵には絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖し、ヤマセミ等の鳥類が餌場として利用している。ワンド・たまりにはドジョウ等が生息している。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

◆基本情報1：河川環境区分(セグメント形成要因)

距離標(空間単位:1km※)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

※距離標1:1~2km区間

略図

河川環境区分

河川区分	支川三篠川
大セグメント区分	セグメント1
小セグメント区分	セグメント1
堤内地の景観 右岸側	平地
堤内地の景観 左岸側	平地
周辺の地形・地質	平地
河床勾配(平均河床高)	1/320
河床材料	粗礫
川幅(河道幅・水面幅)	
横断工作物	尾和井堰 下深川井堰 一ノ瀬堰
支川の合流	
特徴的な狭窄部	
自然再生課題	

2 代表区間・保全区間の選定

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

大セグメント区分

河川環境区分

典型性	1. 低・中葦草地	△	○								
陸域	2. 河辺性の樹林・河畔林	△	△	○	△	○	△	○	△	△	
水際域	3. 自然裸地	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
水域	4. 外来植物生育地	×	×	△	△	×	△	×	△	△	
	5. 水生植物帯	○	○	△	△	△	△	○	○	○	
	6. 水際の自然度	○	○	△	△	△	△	○	○	○	
	7. 水際の複雑さ	△	○	△	○	○	△	△	△	△	
	8. 連続する瀬と淵	○	△	△	○	○	△	○	△	△	
	9. ワンド・たまり	○	△	△	○	△	△	△	△	△	
	10. 湛水域	△	△	×				×			
汽水	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
水	12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
生息場の多様性の評価値		2	4	1	3	3	4	3	6	0	4

b) 生物との関わりやすさの評価

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

大セグメント区分

河川環境区分

重要種数	魚類(R01)										
	底生動物(R02)										
	植物(H28)										
	鳥類(H30)										
	両・爬・嚙(R03)										
	陸上昆虫類(H29)										
	重要種全体合計	2	1	16	1	2	0	1	10	4	3
特徴づける種・個体数と依存する種(注目種)の場	ドジョウ										
	ワンド・たまり										
	アカザ										
	連続する瀬と淵										
	イカルチドリ										
	自然裸地										
	ヤマセミ										
	連続する瀬と淵										
生物との関わりやすさの評価値		2	1	0	2	4	3	3	3	0	2
生物との関わりやすさに関するコメント											

c) 代表区間の選定

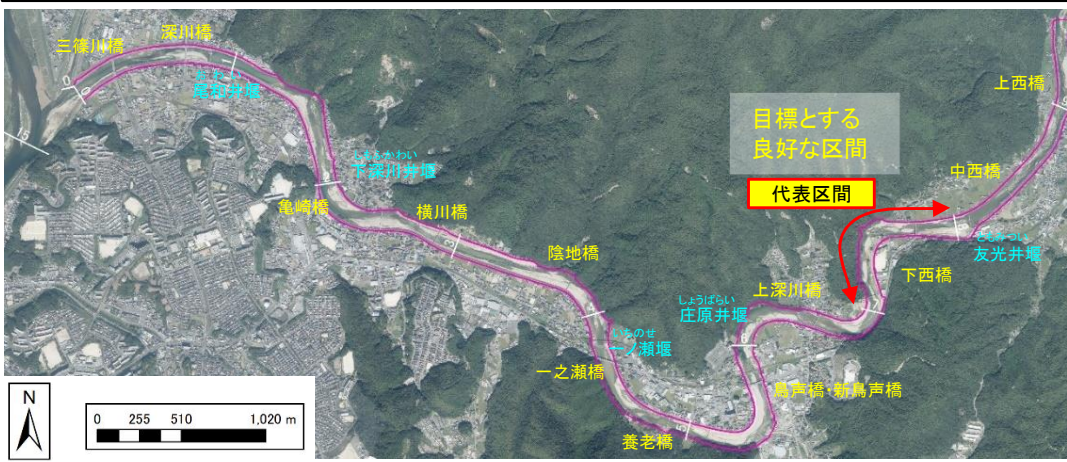
距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

大セグメント区分

河川環境区分

生息場の多様性の評価値	2	4	1	3	3	4	3	6	0	4
生物との関わりやすさの評価値	2	1	0	2	4	3	3	3	0	2
代表区間候補の抽出										
候補の抽出理由										
観測場の有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
代表区間の選定結果										
選定理由										

- 環境の現状
- 全域がセグメント1となっており、連続する瀬・淵がみられる。また、尾和井堰、下深川井堰、一ノ瀬堰、庄原井堰、友光井堰の横断工作物が設置されており、堰の上流には湛水域がみられる。
 - 連続する瀬・淵には絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖し、ヤマセミ等の鳥類が餌場として利用している。また、ワンド・たまりにはドジョウ等の魚類が生息している。
 - 自然裸地(砂礫地)には、イカルチドリ等が生息・繁殖している。
- 保全・創出
- ヤマセミ等の鳥類が餌場として利用し、絶滅危惧種のアカザ等の魚類や生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全・創出する。
 - ドジョウが生息しているワンド・たまりを保全・創出する。
 - イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地(砂礫地)を保全・創出する。



- 環境の特徴(良い点)
- ・ 全域がセグメント1となっており、連続する瀬・淵がみられる。また、^{おわい}尾和井堰、^{しもふかわい}下深川井堰、^{いちのせ}一ノ瀬堰等の横断工作物が設置されており、堰上流には湛水域がみられる。
 - ・ 連続する瀬・淵には絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖し、ヤマセミ等の鳥類が餌場として利用している。また、ワンド・たまりにはドジョウ等の魚類が生息している。
 - ・ 自然裸地(砂礫地)には、イカルチドリ等が生息・繁殖している。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
- ・ 8~9k区間は、連続する瀬・淵、ワンド・たまりが少なく、水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
- ・ ヤマセミ等の鳥類が餌場として利用し、絶滅危惧種のアカザ等の魚類や生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全・創出する。
 - ・ ドジョウが生息しているワンド・たまりを保全・創出する。
 - ・ イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地(砂礫地)を保全・創出する。



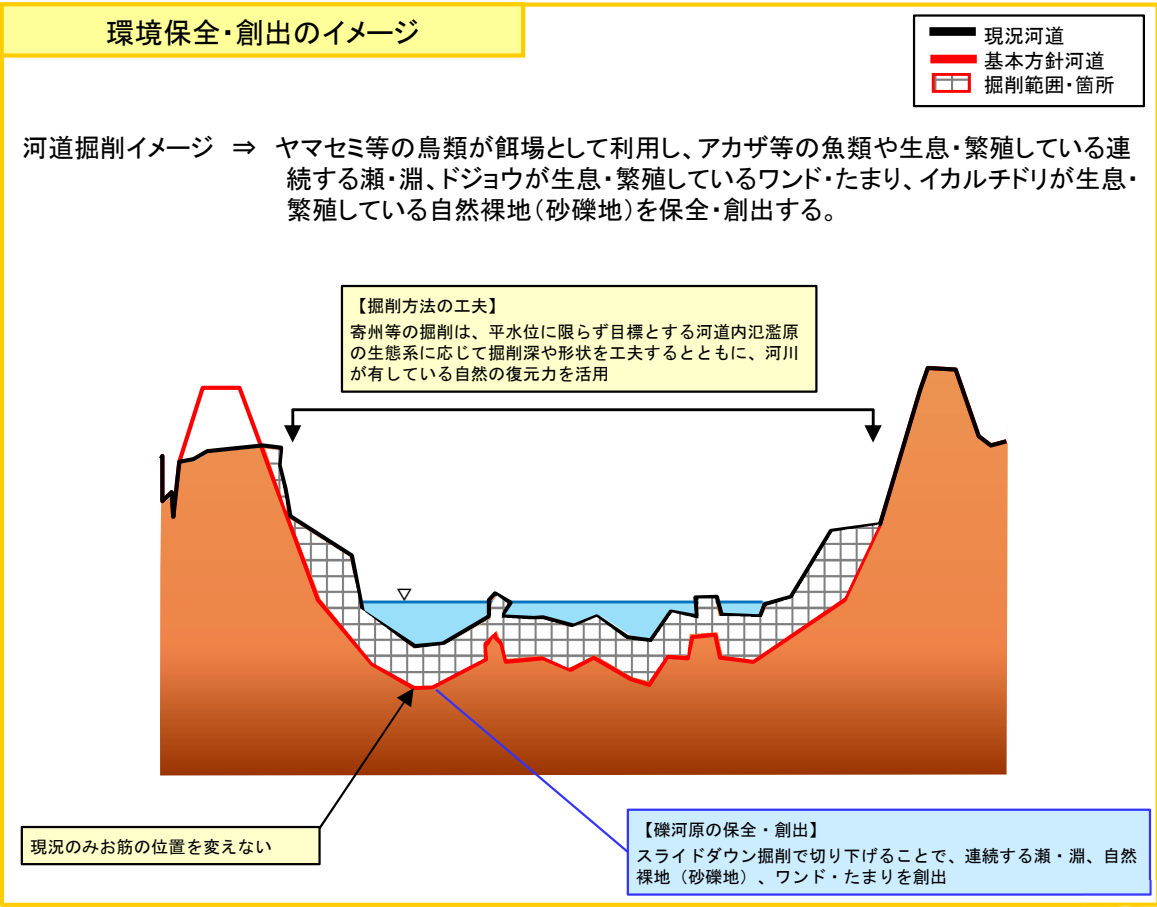
支川三篠川: 区分1



代表区間



河川改修が進む6.4k付近
(令和5年4月撮影)



- 支川根谷川(0k~4k区間)は全域がセグメント1となっている。根谷川は上流側を中心に河道掘削や引堤、堰改築が進められている。令和元年度に実施された基図作成調査時には、工事中の箇所もみられた。
- 連続する瀬・淵には絶滅危惧種のアカザ等の魚類が、ワンド・たまりには絶滅危惧種のおヤニラミ等の魚類が生息・繁殖している。
- 自然裸地(砂礫地)には、イカルチドリ等が生息・繁殖している。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

◆基本情報1：河川環境区分(セグメント形成要因)

距離標(空間単位:1km※)		0	1	2	3	4
※距離標1:1~2km区間						
略図						
河川環境区分		区分1				
河川区分	河川区分			支川根谷川		
	大セグメント区分			セグメント1		
	小セグメント区分			セグメント1		
	堤内地の景観 右岸側			平地	市街地	
	堤内地の景観 左岸側			平地	山地	
主なセグメント形成要因	周辺の地形・地質					
	河床勾配 (平均河床高)					
	河床材料			粗礫		
	川幅 (河道幅・水面幅)					
	横断工作物			東原井堰		
	支川の合流					
	特徴的な狭窄部					
	自然再生					
課題						

◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況(全川の中央値)

距離標(空間単位:1km)		0	1	2	3	4
典型性	陸域					
	1. 低・中葦草地	○	○	△	△	○
	2. 河辺性の樹林・河畔林	○	○	○	○	△
	3. 自然裸地	△	○	○	○	△
	4. 外来植物生育地	△	×	×	×	△
	水域					
	5. 水生植物帯	○	△	○	○	△
	6. 水際の自然度	○	○	○	○	△
	7. 水際の複雑さ	○	○	△	○	△
	8. 連続する瀬と淵	△	○	○	△	△
	9. ワンド・たまり		△		○	
	10. 湛水域					
特殊性	汽水	-	-	-	-	-
	水	-	-	-	-	-
	磯河原の植生域	○				
	湧水地					
	海浜植生帯	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		5	5	2	3	1

② 代表区間・保全区間の選定

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中)

距離標(空間単位:1km)		0	1	2	3	4
大セグメント区分			セグメント1			
河川環境区分			区分1			
典型性	陸域					
	1. 低・中葦草地	○	○	△	△	○
	2. 河辺性の樹林・河畔林	○	○	○	○	△
	3. 自然裸地	△	○	○	○	△
	4. 外来植物生育地	△	×	×	×	△
	水域					
	5. 水生植物帯	○	△	○	○	△
	6. 水際の自然度	○	○	○	○	△
	7. 水際の複雑さ	○	○	△	○	△
	8. 連続する瀬と淵	△	○	○	△	△
	9. ワンド・たまり		△		○	
	10. 湛水域					
汽水	11. 干潟	-	-	-	-	-
	12. ヨシ原	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		5	5	2	3	1

b) 生物との関わりやすさの評価

距離標(空間単位:1km)		0	1	2	3	4
大セグメント区分			セグメント1			
河川環境区分			区分1			
重要種数	魚類(R01)			3	3	
	底生動物(R02)				9	
	植物(H28)					
	鳥類(H30)		2			
	両・爬・哺(R03)					
	陸上昆虫類(H29)					
	重要種全体合計	2	0	3	12	0
特徴づける種(注目種)の個体数と依存する生息場の生物との関わりやすさ	アカザ			3	4	
	連続する瀬と淵	△	○	△	△	
	オヤニラミ			4	3	
	ワンド・たまり		△	○		
	鳥類					
生物との関わりやすさの評価値		0	1	0	1	0
生物との関わりやすさに関するコメント		魚類は、連続する瀬と淵、ワンド・たまりに着目。				

※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数、個体数を示す。

c) 代表区間の選定

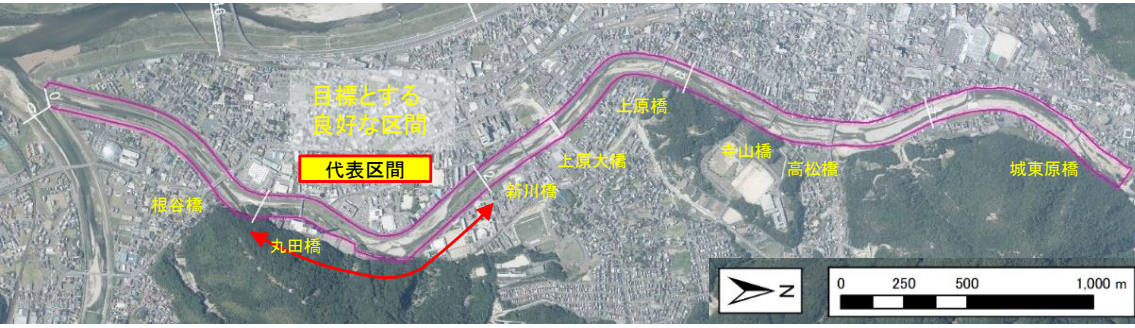
距離標(空間単位:1km)		0	1	2	3	4
河川環境区分			区分1			
生息場の多様性の評価値		5	5	2	3	1
生物との関わりやすさの評価値		0	1	0	1	0
代表区間候補の抽出		B	A		B	
候補の抽出理由		A: 評価が両方とも1位 B: 評価の片方が1位、もう一方が2位				
候補の有無		○	○	○	○	○
代表区間の選定結果			★			
選定理由		区分1を代表する環境(自然裸地、連続する瀬・淵等)が良好で、全体を見渡せる橋(丸田橋)もあるため、1km区間を代表区間として選定した。				

環境の現状

- 支川根谷川(0k~4k区間)は全域がセグメント1となっている。根谷川は上流側を中心に河道掘削や引堤、堰改築が進められている。
- 連続する瀬・淵には絶滅危惧種のアカザが、ワンド・たまりには絶滅危惧種のおヤニラミ等の魚類が生息・繁殖している。
- 自然裸地(砂礫地)には、イカルチドリ等が生息・繁殖している。

保全・創出

- 絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全・創出する。
- 絶滅危惧種のおヤニラミが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全・創出する。
- イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地(砂礫地)を保全・創出する。



連続する瀬・淵に生息・繁殖するアカザ



ワンド・たまりに生息・繁殖するオヤニラミ

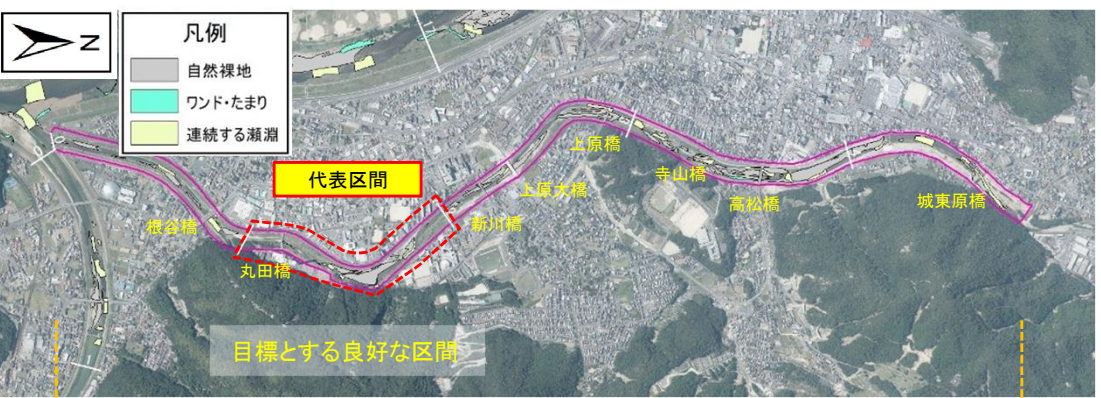


砂礫地に生息・繁殖するイカルチドリ

- 環境の特徴(良い点)
 - ・ 支川根谷川(0k~4k区間)は全域がセグメント1となっている。根谷川は上流側を中心に河道掘削や引堤、堰改築が進められている。
 - ・ 連続する瀬・淵には絶滅危惧種のアカザが、ワンド・たまりには絶滅危惧種のおやニラミ等の魚類が生息・繁殖している。
 - ・ 自然裸地(砂礫地)には、イカルチドリ等が生息・繁殖している。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
 - ・ 4~4.8k区間は、ワンド・たまりが少なく、水際の自然度・水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
 - ・ 絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵を保全・創出する。
 - ・ 絶滅危惧種のおやニラミが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全・創出する。
 - ・ イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地(砂礫地)を保全・創出する。



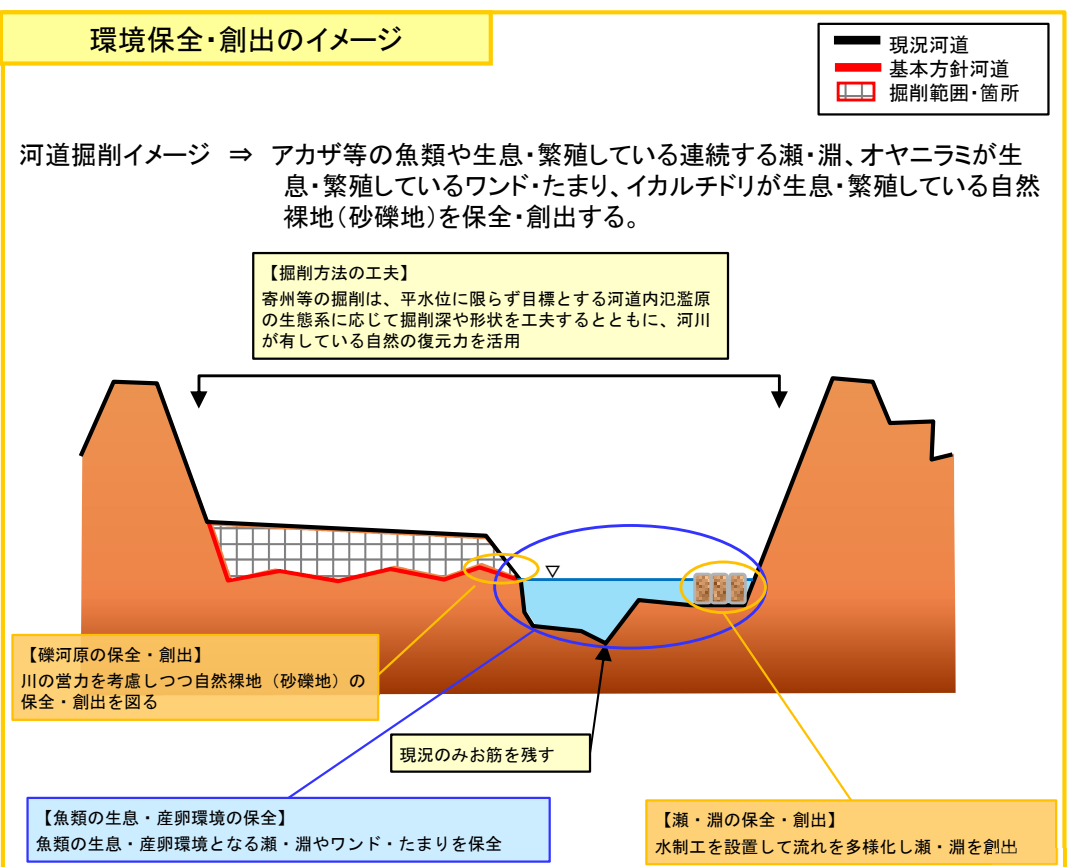
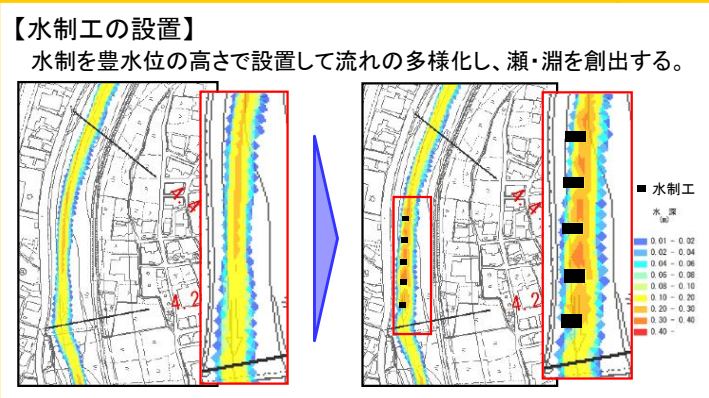
高水敷盤下後の2.0k付近(令和5年9月撮影)



支川根谷川: 区分1



代表区間



- 支川滝山川(0k～4k区間)は全域がセグメントMとなっており、全域に連続する瀬・淵がみられる。また、1.8kに滝本ダムがあり2.4k付近まで湛水域が広がる。
- 連続する瀬・淵にはカジカ、絶滅危惧種のインドジョウ等の魚類が、ワンド・たまりには絶滅危惧種のオヤニラミ等の魚類が生息・繁殖している。また、連続する瀬・淵にはカワガラス等の鳥類が生息している。
- 基本方針本文には、河川環境管理シートに基づき「河川環境の現状および保全・創出」について明確化する。

② 代表区間・保全区間の選定

a)生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基		距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4
大セグメント区分		セグメントM					
河川環境区分		区分1					
典型性	陸域	1. 低・中葦草地	-	-	-	-	-
		2. 河辺性の樹林・河野林	△	○	○	△	○
		3. 自然裡地	-	-	-	-	-
		4. 外来植物生育地	-	-	-	-	-
	水際域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-
		6. 水際の自然度	○	△	△	△	○
		7. 水際の複雑さ	○	○	△	△	○
		8. 連続する池と淵	△	△	△	○	○
	水域	9. ワンド・たまり	-	-	-	-	-
		10. 渚水域	-	△	×	-	-
	汽水	11. 干潟	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		2	2	1	3	4	

b) 生物との関わりの強さの評価

距離種(空間単位: 1km)		0	1	2	3	4
大サメ区分区		セグメントM				
河川流域区分		区分1				
重要種数	魚類(R01)		3	3		
	底生動物(R02)				2	2
	植物(H28)			5	4	
	鳥類(H30)	1				
	両・爬・哺(R03)				9	9
	陸上昆虫類(H29)					8
重要種全体合計		1	0	3	19	23
特異な種を 個体数で表 せる種(注目種) の	カシガ		1	1		
	連続する潮と淵	△	△	△	○	○
	オヤニラミ			5	5	
	ワンド・たまり	-	-	-	-	-
魚類	カワガラス	1	2	1	2	
	連続する潮と淵	△	△	△	○	○
鳥類						

c) 代表区間の選定

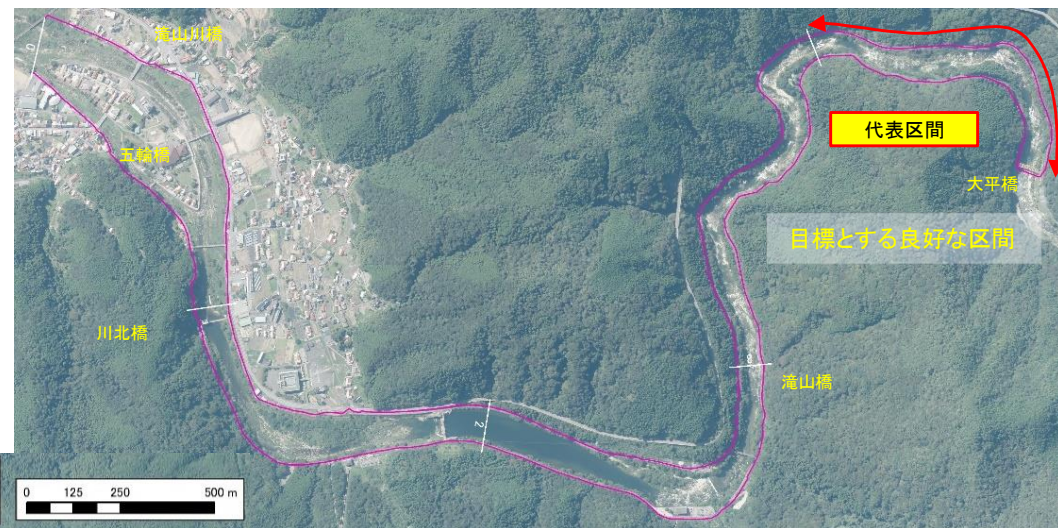
距離標(空間距離:1km)	0	1	2	3	4
河川環境区分	区分1				
生息場の多様性の評価値	2	2	1	3	4
生物との関わりの強さの評価値	0	0	0	2	2
代表区間候補の抽出					B A
候補の抽出理由	A: 評価値が両方とも1位 B: 評価値の片方が1位、片方が2位				
標の有無	☐	☐	☐	☐	☐
代表区間の選定結果					★
選定理由	区分1を代表する環境(河辺性の樹林・河畔林、自然裸地等)が良好で、全体を見選べる標(太平橋)もあるため、4km区間を代表区間として選定した。				

○ 支川滝山川(0k～4k区間)は全域がセグメントMとなっており、全域に連続する瀬・淵がみられる。

○ 連続する瀬・淵にはカジカ、絶滅危惧種のインドジョウ等の魚類が、ワンド・たまりには絶滅危オヤニラミ等の魚類が生息・繁殖している。また、連続する瀬・淵にはカワガラス等の鳥類が生息種の息している。

○ カジカや絶滅危惧種のインドジョウ等の魚類が生息・繁殖し、カワガラス等の鳥類が生息している連続する瀬・淵を保全する。

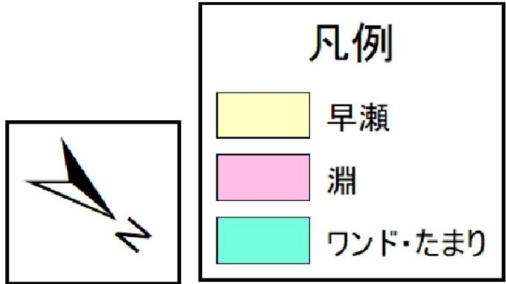
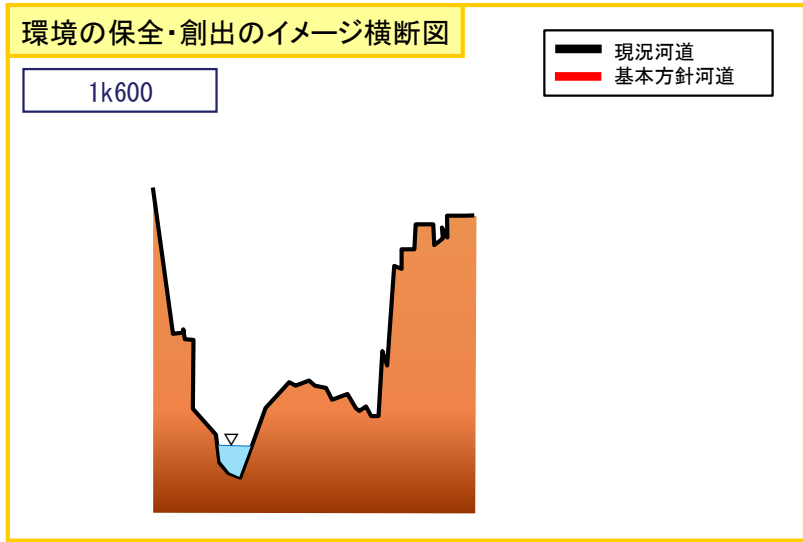
○ 絶滅危惧種のオヤニラミが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全する。



連続する瀬・淵に生息するアカザ・イシドジョウ、カワガラス

ワンド・たまりに生息・繁殖する
オヤニラミ 38

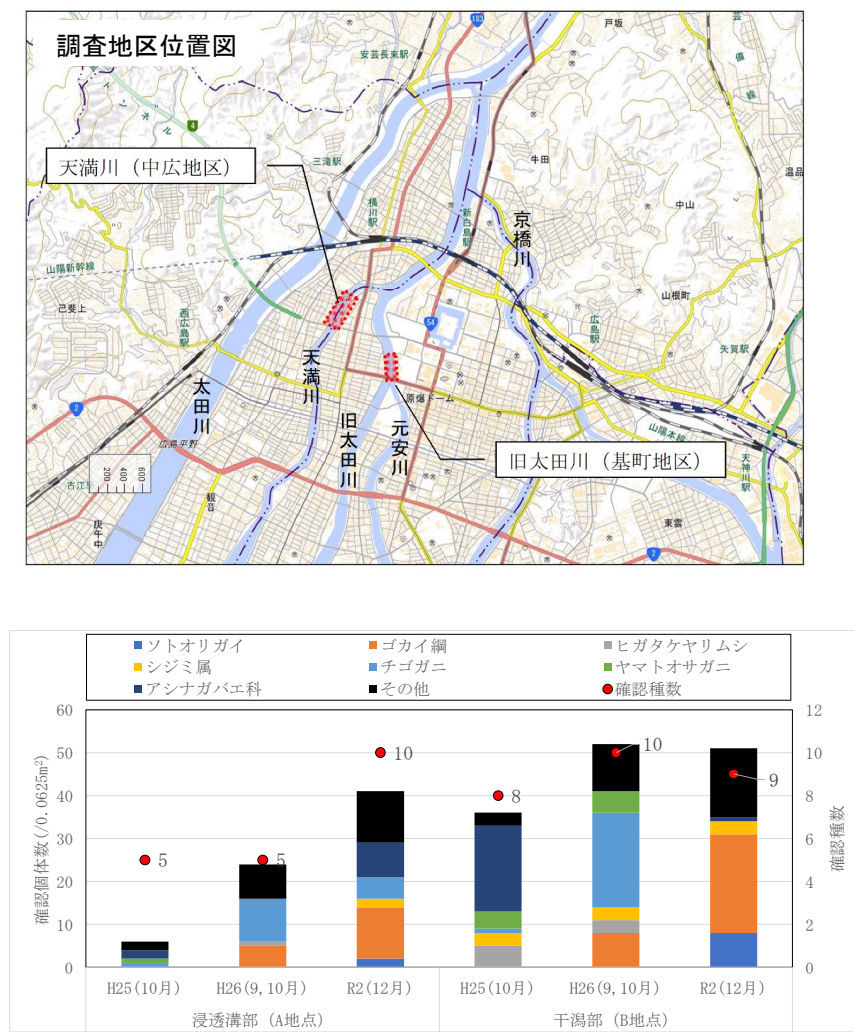
- 環境の特徴(良い点)
 - ・ 支川滝山川(0k~4k区間)は全域がセグメントMとなっており、全域に連続する瀬・淵がみられる。
また、1.8kに滝本ダムがあり2.4k付近まで湛水域が広がる。
 - ・ 連続する瀬・淵にはカジカ、絶滅危惧種のイシドジョウ等の魚類が、ワンド・たまりには絶滅危惧種のオヤニラミ等の魚類が生息・繁殖している。また、連続する瀬・淵にはカワガラス等の鳥類が生息している。
- 環境の特徴(改善が必要な点)
 - ・ 8~9k区間は、連続する瀬・淵、ワンド・たまりが少なく、水際の複雑さが低い。
- 環境の保全・創出
 - ・ カジカや絶滅危惧種のイシドジョウ等の魚類が生息・繁殖し、カワガラス等の鳥類が生息している連続する瀬・淵を保全する。
 - ・ 絶滅危惧種のオヤニラミが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全する。



支川滝山川: 区分1

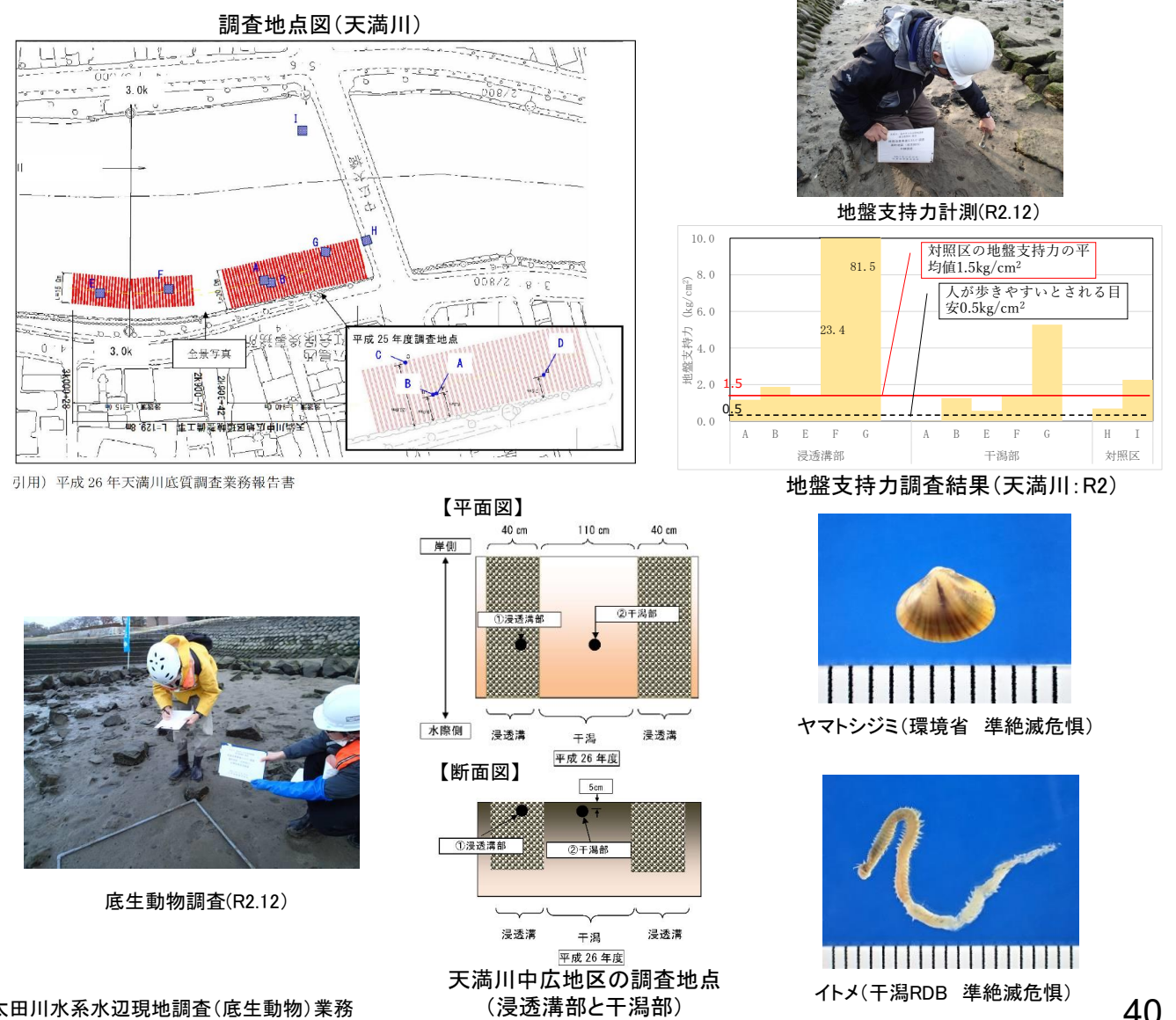
- 太田川派川において、底質改善を目的として環境改善事業が旧太田川(基町地区:H20~H23)・天満川(中広地区:H24~H26)に実施されている。
- 天満川(中広地区)の地盤支持力調査では、整備前は長靴がヘドロで埋まったが、令和2年度には地盤支持力が向上し、快適に歩けるように改善された。
- 令和2年度の生物生息状況調査の結果、底生動物は11科12種が確認され、重要種としてはヤマトシジミ・イトメの2種が確認された。また、整備前(H25)より確認種数が増大し、確認個体数も増加傾向にあったことから、底質改善箇所(浸透溝部)の貝類・カニ類の生息環境は維持されていると考えられた。

底質改善事業モニタリング調査結果



生物の確認種数、確認個体数の経年変化(天満川)

令和2年度太田川水系水辺現地調査(底生動物)業務



- 古川は全国に先駆けて昭和49年に多自然型川づくりを開始した(第二古川せせらぎ公園整備:S49~S56)。平成2年に「多自然型川づくり」の推進の通知が示された後、平成7年から11年にかけて第一古川多自然型川づくり事業が整備された。
- 整備前の第一古川は工場等の裏を流れる川であり人の利用のない河川だったが、多自然川型づくりが整備されると、自然豊かな川と人々のふれあえる場(親水空間)へと変わった。

古川における多自然型川づくり

	古川全域	安川合流点上流域
流域面積	67.5km ²	9.5km ²
流路延長	6.1km	3.5km

第一古川上流部(平成5年頃:施工前)

第一古川上流部(平成12年頃:施工直後)

第一古川上流部(令和5年:現在)

第一古川多自然型川づくりの整備内容

断面図

既存樹木の保全

管理用通路

散策路

中州工

土壌改良

空石積み

植生ロール

護岸防流面

コンクリートの見えない工法

法面の緩傾斜化

水敷と土壌の利用

空石積み

低々水路

既存樹木の保全と移植

中州工

落盤工

丸木橋

wand

八木梅林橋

上組橋

第二古川橋

国道4号線

七軒茶屋橋

第一古川橋

第一古川散策路

第二古川散策路

高瀬堰

第二古川(平成5年頃)

第二古川(令和5年:現在)

第一古川散策路(施工直後:平成12年頃)

第一古川散策路(令和5年:現在)

41

河川名	本文(一部抜粋)	区分	分類	掲載種等	環境省RL※1	広島県RL※2	根拠資料
太田川	源流から柴木川合流点までの上流部は山地部を流れる渓谷となっている。山地はブナ天然生林やミズナラ等からなる二次林となっており、ヤマセミや、溪畔林沿いにはオオルリやキビタキ等の鳥類が生息している。一方、瀬と淵が連続する溪流には、サツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)や絶滅危惧種であるゴギ等の魚類が生息・繁殖している。	上流部	植物	ブナ天然生林	—	—	「吉和郷ダム環境影響評価調査業務報告書(本編)」(国土交通省中国地方整備局太田川工事事務所)H10
				ミズナラ	—	—	「吉和郷ダム環境影響評価調査業務(本編)」(国土交通省中国地方整備局太田川工事事務所)H9 「吉和郷ダム環境影響評価調査業務報告書(本編)」(国土交通省中国地方整備局太田川工事事務所)H10
			鳥類	ヤマセミ	—	VU	「吉和郷ダム環境影響評価調査業務(本編)」(国土交通省中国地方整備局太田川工事事務所)H9 「吉和郷ダム環境影響評価調査業務報告書(本編)」(国土交通省中国地方整備局太田川工事事務所)H10
				オオルリ	—	—	「吉和郷ダム環境影響評価調査業務報告書(本編)」(国土交通省中国地方整備局太田川工事事務所)H10
				キビタキ	—	—	「吉和郷ダム環境影響評価調査業務報告書(本編)」(国土交通省中国地方整備局太田川工事事務所)H10
			魚類	サツキマス(アマゴ)	NT	NT	自然環境保全基礎調査H14
				ゴギ	VU	CR+EN	自然環境保全基礎調査H14
	柴木川合流点から谷が開ける可部市街地に至るまでの中流部は蛇行を繰り返しており、川沿いの谷底平野は狭いが、流路の内岸側には水害防御のために植えられた竹林が今でも多く残っている。連続する瀬・淵には、瀬戸内海を回遊し太田川へ戻ってくるサツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)、カジカや絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖しており、山付き区間にはオシドリが生息しワンド・たまりには絶滅危惧種のオヤニラミが生息・繁殖している。また、礫河原にはカワラハハコが生育し、イカルチドリが生息・繁殖している。岩場の水際にはキシツツジの生育が確認されている。	中流部	魚類	サツキマス(アマゴ)	NT	NT	河川水辺の国勢調査H12,H26,R1
				カジカ	NT	VU	河川水辺の国勢調査H26,R1
				アカザ	VU	NT	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H21,H26,R1
				オヤニラミ	EN	VU	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H21,H26,R1
			鳥類	オシドリ	DD	LP	河川水辺の国勢調査H3,H8,H13,H20,H30
				イカルチドリ	—	NT	河川水辺の国勢調査H20,H30
			植物	カワラハハコ	—	VU	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
				キシツツジ	—	—	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
	可部市街地から市内派川分派点までの下流部は河川沿いに平野が広がり、高水敷が形成されている。連続する瀬・淵には、絶滅危惧種のアカザが生息・繁殖するほかアユの産卵場がみられ、ワンド・たまりにはアブラボテが生息・繁殖している。自然裸地にはイカルチドリが生息・繁殖している。	下流部	魚類	アカザ	VU	NT	河川水辺の国勢調査H17,H26,R1
				アユ	—	—	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H21,H26,R1
				アブラボテ	NT	NT	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H21,H26,R1
			鳥類	イカルチドリ	—	NT	河川水辺の国勢調査H30

河川水辺の国勢調査で確認されていない場合のみ他の文献を記載している。
※1環境省レッドリスト2020
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
※2広島県版レッドリスト2021
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

河川名	本文（一部抜粋）	区分	分類	掲載種等	環境省RL※1	広島県RL※2	根拠資料
太田川	市内派川分派点から河口までの下流デルタ域は感潮区間となっている。太田川放水路の河岸沿いには干潟が比較的安定してみられる。干潟にはハマサジやフクド等からなる塩沼植物群落やヨシ原が生育し、チュウシャクシギが飛来し、ガンテンイシヨウジ等の魚類、汽水域を好むハクセンシオマネキ等のカニ類やヤマトシジミ等の貝類が生息・繁殖している。	下流 デルタ域	植物	ハマサジ	NT	NT	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
				フクド	NT	NT	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
			鳥類	チュウシャクシギ	—	—	河川水辺の国勢調査H3,H8,H13,H20,H30
			魚類	ガンテンイシヨウジ	—	—	河川水辺の国勢調査H21,H26
			底生動物	ハクセンシオマネキ	VU	NT	河川水辺の国勢調査R2
				ヤマトシジミ	NT	—	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H22,H27,R2
古川	支川古川は多自然川づくりとしてせせらぎ公園等の親水護岸が整備され、市街地の中を緩やかに流れる川である。河川内には連続する瀬・淵やワンド・たまりがみられ、連続する瀬・淵にはカジカ中卵型やゴクラクハゼ等の魚類が生息している。ワンド・たまりにはスミウキゴリ、絶滅危惧種のおヤニラミが生息・繁殖している。また、早瀬はアユの産卵場として利用している。	全域	魚類	カジカ中卵型	EN	VU	河川水辺の国勢調査H12,H17,H21,H26,R1
				ゴクラクハゼ	—	—	河川水辺の国勢調査R1
				スミウキゴリ	—	—	河川水辺の国勢調査H17,H21,H26,R1
				オヤニラミ	EN	VU	広島市の生物H12
				アユ	—	—	河川水辺の国勢調査H12,H17,H21,H26,R1
三篠川	支川三篠川は下流では平瀬が続くが、上流側は山間を流れ、屈曲を繰り返している。太田川下流域の代表的な支川である。全域に連続する瀬・淵がみられ、尾和井堰、下深川井堰、一ノ瀬堰等、堰の上流には湛水域がみられる。連続する瀬・淵には絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖し、ヤマセミ等の鳥類が餌場として利用している。ワンド・たまりにはドジョウ等の魚類が生息している。また、砂礫地にはイカルチドリ等が生息・繁殖している。	全域	魚類	アカザ	VU	NT	河川水辺の国勢調査H17,H26,R1
				ドジョウ	NT	NT	河川水辺の国勢調査H12,H21,H26,R1
			鳥類	ヤマセミ	—	VU	河川水辺の国勢調査H20,H30
				イカルチドリ	—	NT	河川水辺の国勢調査H30
根谷川	支川根谷川は河川内では平瀬が多くなっており、沿川は住宅地となっている。連続する瀬・淵に絶滅危惧種のアカザが、ワンド・たまりには絶滅危惧種のおヤニラミ等の魚類が生息・繁殖している砂礫地には、イカルチドリ等が生息・繁殖している。	全域	魚類	アカザ	VU	NT	河川水辺の国勢調査R1
				オヤニラミ	EN	VU	河川水辺の国勢調査H12,H17,H26,R1
			鳥類	イカルチドリ	—	NT	根谷川河道モニタリング外検討業務H29
滝山川	支川滝山川は温井ダムの下流に位置し、沿川は山地となっている。河川内には全域に連続する瀬・淵がみられ、連続する瀬・淵にはカジカや絶滅危惧種のイシドジョウ等の魚類が生息・繁殖し、カワガラス等の鳥類が生息している。ワンド・たまりには絶滅危惧種のおヤニラミ等の魚類が生息・繁殖している。	全域	魚類	カジカ	NT	VU	河川水辺の国勢調査H7,H12,R1
				イシドジョウ	EN	CR+EN	河川水辺の国勢調査R1
				オヤニラミ	EN	VU	河川水辺の国勢調査R1
			鳥類	カワガラス	—	—	河川水辺の国勢調査H20,H30
太田川 支川	また、太田川本川や支川では、特定外来生物として、魚類ではブルーギルやオオクチバス、カダヤシ、植物ではアレチウリ、オオキンケイギク等が確認されており、在来種の生息・生育・繁殖環境への影響が懸念されている。	全域	魚類	ブルーギル(特定外来種)	—	—	河川水辺の国勢調査H17,H26,R1
				オオクチバス(特定外来種)	—	—	河川水辺の国勢調査H26
				カダヤシ(特定外来種)	—	—	河川水辺の国勢調査H7
			植物	アレチウリ(特定外来種)	—	—	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
				オオキンケイギク(特定外来種)	—	—	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28

河川水辺の国勢調査で確認されていない場合のみ他の文献を記載している。
※1環境省レッドリスト2020
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
※2広島県版レッドリスト2021
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

河川名	本文(一部抜粋)	区分	分類	掲載種等	環境省RL※1	広島県RL※2	根拠資料
太田川	源流から柴木川合流点までの上流部では、サツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)、絶滅危惧種のゴギ等が生息・繁殖している瀬と淵が連続する溪流の保全・創出を図る。	上流部	魚類	サツキマス(アマゴ)	NT	NT	自然環境保全基礎調査H14
				ゴギ	VU	CR+EN	自然環境保全基礎調査H14
	柴木川合流点から谷が開ける可部市街地に至るまでの中流部では、カジカやサツキマス(同種で生活史が異なるアマゴを含む)、絶滅危惧種のアカザ等が生息・繁殖している連続する瀬・淵、絶滅危惧種のオヤニラミが生息・繁殖するワンド・たまり、オシドリが生息する山付き区間、カワラハハコが生育し、イカルチドリが生息・繁殖する礫河原、キシツツジの生育地である岩場の水際の保全・創出を図る。支川においては国の特別天然記念物のオオサンショウウオが生息・繁殖する溪流環境の保全・創出を図る。	中流部	魚類	カジカ	NT	VU	河川水辺の国勢調査H26,R1
				サツキマス(アマゴ)	NT	NT	河川水辺の国勢調査H7,H26,R1
				アカザ	VU	NT	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H21,H26,R1
				オヤニラミ	EN	VU	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H21,H26,R1
			鳥類	オシドリ	DD	LP	河川水辺の国勢調査H3,H8,H13,H20,H30
				イカルチドリ	-	NT	河川水辺の国勢調査H20,H30
			植物	カワラハハコ	-	VU	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
				キシツツジ	-	-	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
		中流部(支川)	両生類	オオサンショウウオ	VU	VU	自然環境保全基礎調査H13
	可部市街地から市内派川分派点までの下流部では、絶滅危惧種のアカザが生息・繁殖し、アユの産卵場がある連続する瀬・淵、アブラボテが生息・繁殖しているワンド・たまりを保全・創出する。また、イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地(砂礫地)の保全・創出を図る。	下流部	魚類	アカザ	VU	NT	河川水辺の国勢調査H17,H26,R1
				アユ	-	-	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H21,H26,R1
				アブラボテ	NT	NT	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H21,H26,R1
			鳥類	イカルチドリ	-	NT	河川水辺の国勢調査H30
	市内派川分派点から河口までの下流デルタ域では、ハマサジやフクド等が生育する塩沼植物群落、チュウシャクシギ等の渡り鳥の中継地となっているほか、ガンテンイシヨウジ等の魚類、ヤマトシジミ、絶滅危惧種のハクセンシオマネキが生息・繁殖する干潟の保全・創出を図る。	下流デルタ域	植物	ハマサジ	NT	NT	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
				フクド	NT	NT	河川水辺の国勢調査H4,H9,H13,H18,H28
			鳥類	チュウシャクシギ	-	-	河川水辺の国勢調査H3,H8,H13,H20,H30
			魚類	ガンテンイシヨウジ	-	-	河川水辺の国勢調査H21,H26
			底生動物	ヤマトシジミ	NT	-	河川水辺の国勢調査H7,H12,H17,H22,H27,R2
				ハクセンシオマネキ	VU	NT	河川水辺の国勢調査R2

河川水辺の国勢調査で確認されていない場合のみ他の文献を記載している。
※1環境省レッドリスト2020
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
※2広島県版レッドリスト2021
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

河川名	本文（一部抜粋）	区分	分類	掲載種等	環境省RL※1	広島県RL※2	根拠資料
古川	支川古川は、ゴクラクハゼや絶滅危惧種のカジカ中卵型等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵、スミウキゴリ、絶滅危惧種のおヤニラミが生息・繁殖しているワンド・たまり、アユの産卵場として利用されている早瀬の保全・創出を図る。	全域	魚類	ゴクラクハゼ	—	—	河川水辺の国勢調査R1
				カジカ中卵型	EN	VU	河川水辺の国勢調査H12,H17,H21,H26,R1
				スミウキゴリ	—	—	河川水辺の国勢調査H17,H21,H26,R1
				おヤニラミ	EN	VU	広島市の生物H12
				アユ	—	—	河川水辺の国勢調査H12,H17,H21,H26,R1
三篠川	支川三篠川は、ヤマセミ等の鳥類が餌場として利用し、絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵、ドジョウが生息しているワンド・たまり、イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地（砂礫地）の保全・創出を図る。	全域	魚類	アカザ	VU	NT	河川水辺の国勢調査H17,H26,R1
				ドジョウ	NT	NT	河川水辺の国勢調査H12,H21,H26,R1
			鳥類	ヤマセミ	—	VU	河川水辺の国勢調査H20,H30
				イカルチドリ	—	NT	河川水辺の国勢調査H30
根谷川	支川根谷川は、絶滅危惧種のアカザ等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵、絶滅危惧種のおヤニラミが生息・繁殖しているワンド・たまり、イカルチドリが生息・繁殖している自然裸地（砂礫地）の保全・創出を図る。	全域	魚類	アカザ	VU	NT	河川水辺の国勢調査R1
				おヤニラミ	EN	VU	河川水辺の国勢調査H12,H17,H26,R1
			鳥類	イカルチドリ	—	NT	根谷川河道モニタリング外検討業務H29
滝山川	支川滝山川は、カワガラス等の鳥類が生息し、カジカ、絶滅危惧種のエンドジョウ等の魚類が生息・繁殖している連続する瀬・淵、絶滅危惧種のおヤニラミが生息・繁殖しているワンド・たまりの保全・創出を図る。	全域	魚類	カジカ	NT	VU	河川水辺の国勢調査H7,H12,R1
				エンドジョウ	EN	CR+EN	河川水辺の国勢調査R1
				おヤニラミ	EN	VU	河川水辺の国勢調査R1
			鳥類	カワガラス	—	—	河川水辺の国勢調査H20,H30

河川水辺の国勢調査で確認されていない場合のみ他の文献を記載している。
※1環境省レッドリスト2020
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
※2広島県版レッドリスト2021
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

⑥総合的な土砂管理

- 太田川流域を含む広島県内は、土砂災害の恐れのある土砂災害警戒区域が全国最多であり、激甚化・頻発化が懸念される土砂災害から人家や重要交通網等を保全するために砂防堰堤を整備するなど土砂災害対策を推進している。
- 国有林等においては、洪水緩和機能の適切な発揮を目的に、本数調整伐や溪間工、山腹工等の治山施設の整備が実施されている。

太田川流域内の砂防事業

事業実施箇所（R3年度～）

市区		箇所
広島市	安佐北区	上原
		あさひが丘
		城北
		飯室上島
		大林
	安佐南区	口田南※1
		緑井・八木
		伴中畑
		山本（一部※2含む）
	西区	己斐上※2
		田方※2
	東区	上温品
		戸坂新町南
		馬木※1

上島1号砂防堰堤
(広島市安佐北区)

九品寺5号砂防堰堤
(広島市安佐北区)

山本6号砂防堰堤
(広島市安佐南区)

戸坂新町南2号砂防堰堤
(広島市東区)

事前防災対策(R3～7年度)

市 町	砂防事業	急傾斜事業	合 計
広島市	23(23)	26(22)	49(45)
中区		1(0)	1(0)
東区	4(4)	4(4)	8(8)
西区	1(1)	6(6)	7(7)
安佐南区	5(5)	9(7)	14(12)
安佐北区	11(11)	6(5)	17(16)
佐伯区	2(2)		2(2)
廿日市市	2(2)		2(2)
府中町		1(0)	1(0)
安芸太田町	6(4)	4(4)	10(8)
北広島町	1(1)	1(1)	2(2)
合計	32(30)	32(27)	64(57)

※()は、事前防災対策箇所のうち、事業実施箇所数【令和5年度末時点】

落久保右支3 (広島市東区)

山根町5地区 (広島市東区)

※1；平成30年7月豪雨災害対応箇所
※2；令和3年8月大雨災害対応箇所
【広島西部山系砂防事務所】砂防堰堤の整備

【広島県】事前防災対策

公的関与※による森林整備の推進

土砂流出防止のための施工

※公益的機能(水源涵養機能や山地災害防止機能など)が高い森林について、森林所有者との契約(分収林契約等)により、市が代わって山の手入れを行い、健全な森林の育成を推進している。

【広島市】「広島市森林（もり）づくりプラン21」に基づく森林整備

治山ダム(コンクリート)
V=599.5m3

広島市ため池

国有林境界

牛田山国有林

Google Earth

工事進捗状況：令和4年12月完成

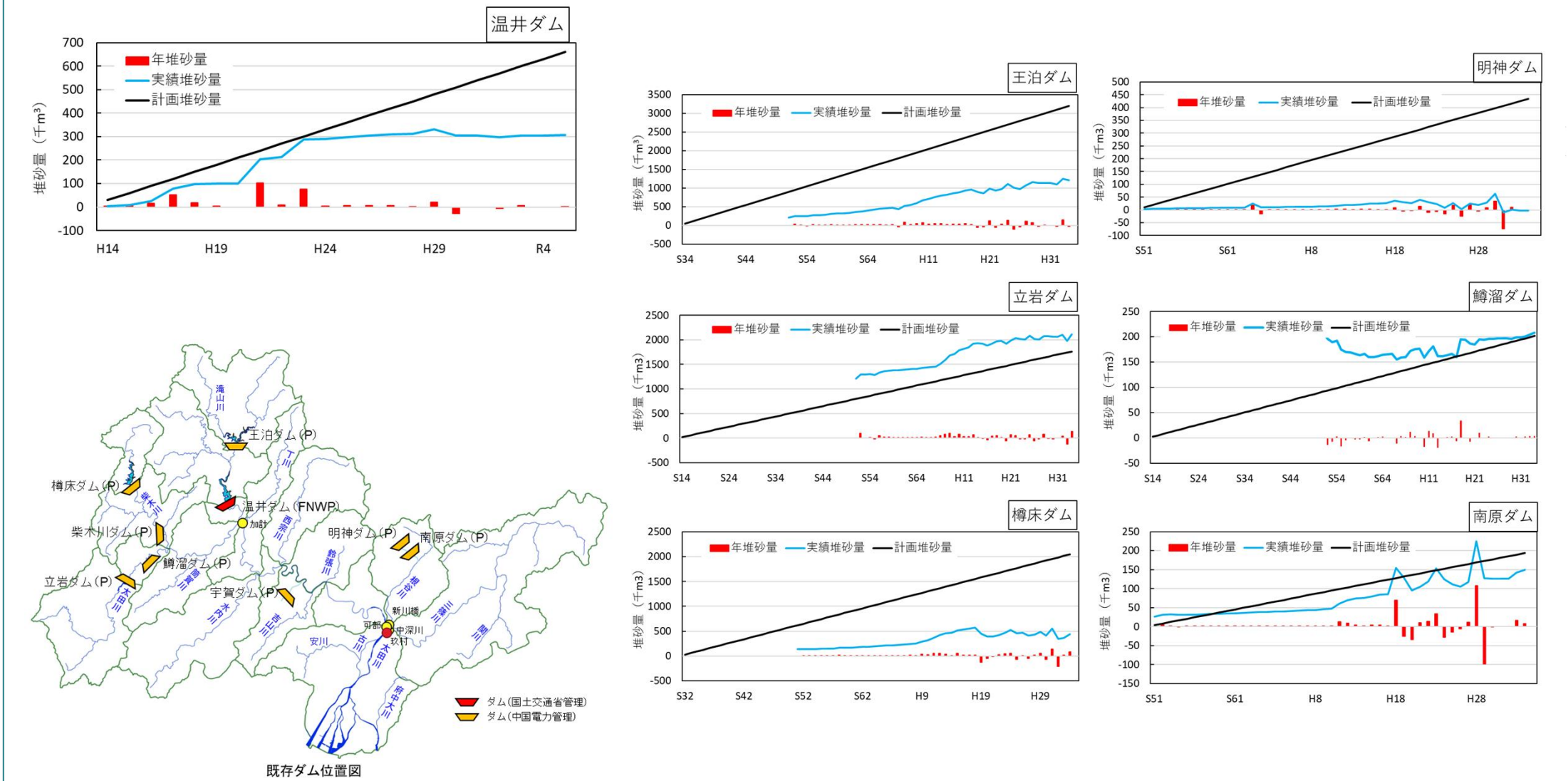
【近畿中国森林管理局】溪間工事（広島市東区 牛田山国有林）

工事前写真

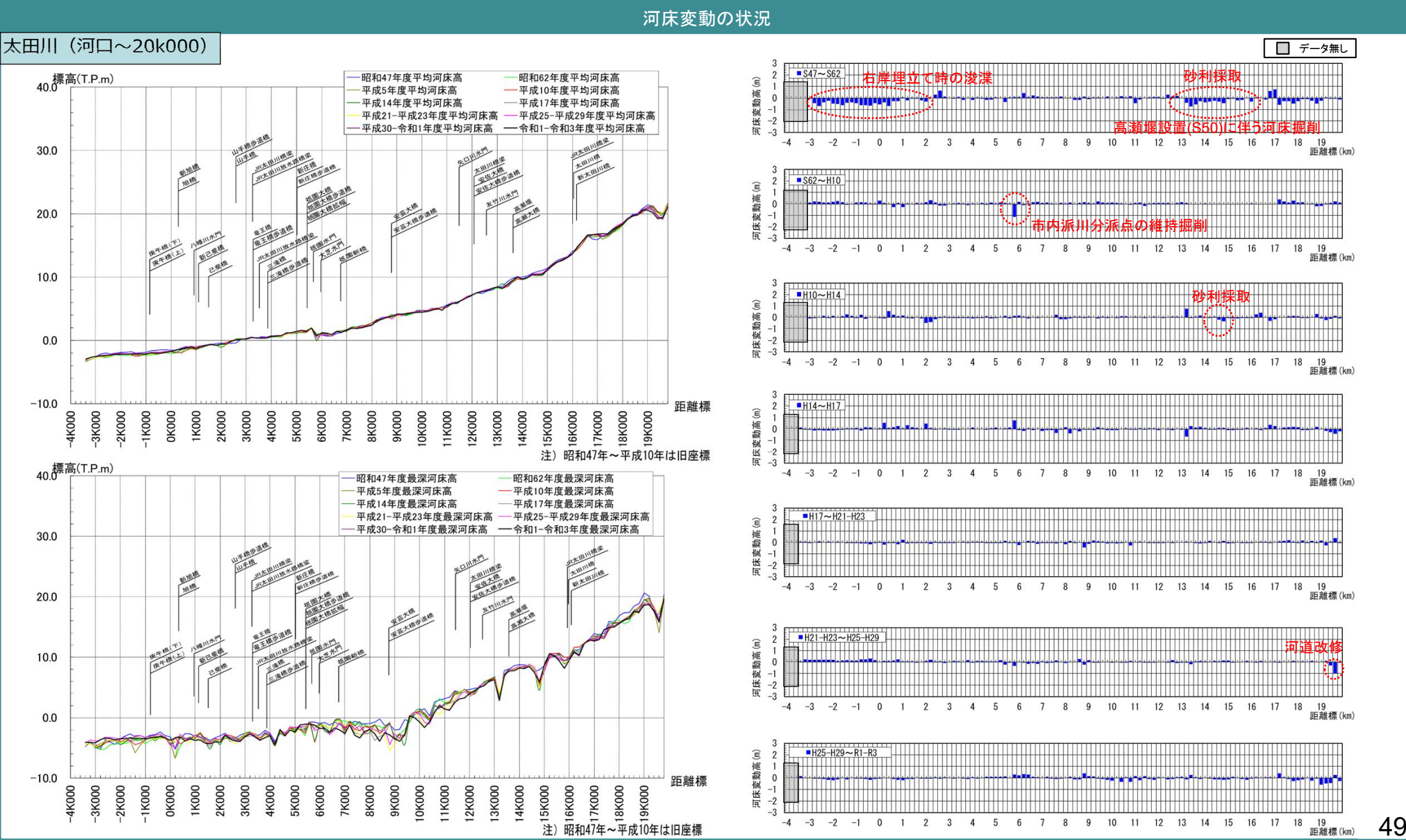
工事完成写真

- 太田川流域には、国土交通省が管理する温井ダムおよび、8基の発電用のダムが存在する。
- 一部のダムを除き、各ダムの堆砂量は計画堆砂量を下回っている。

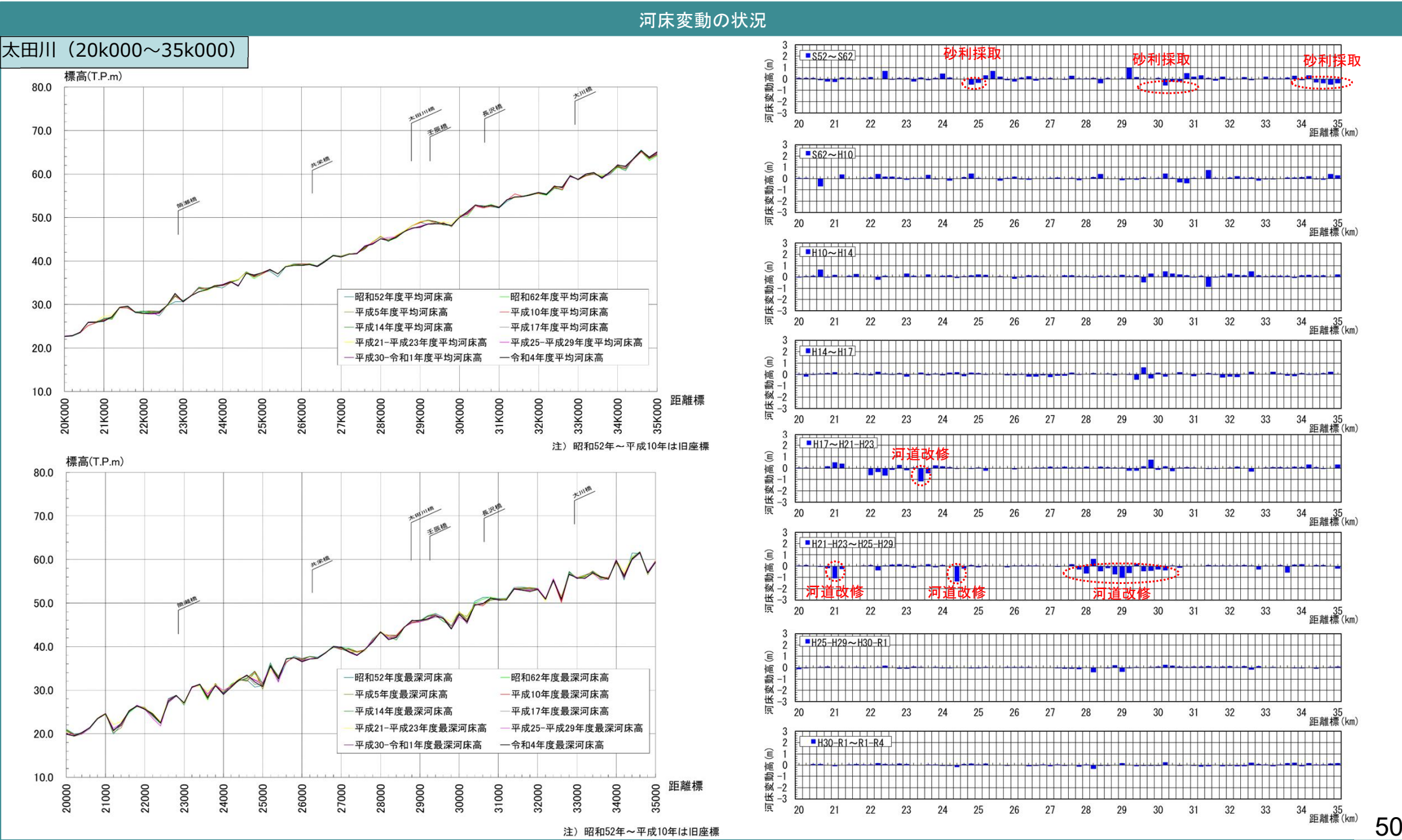
ダム堆砂量の経年変化



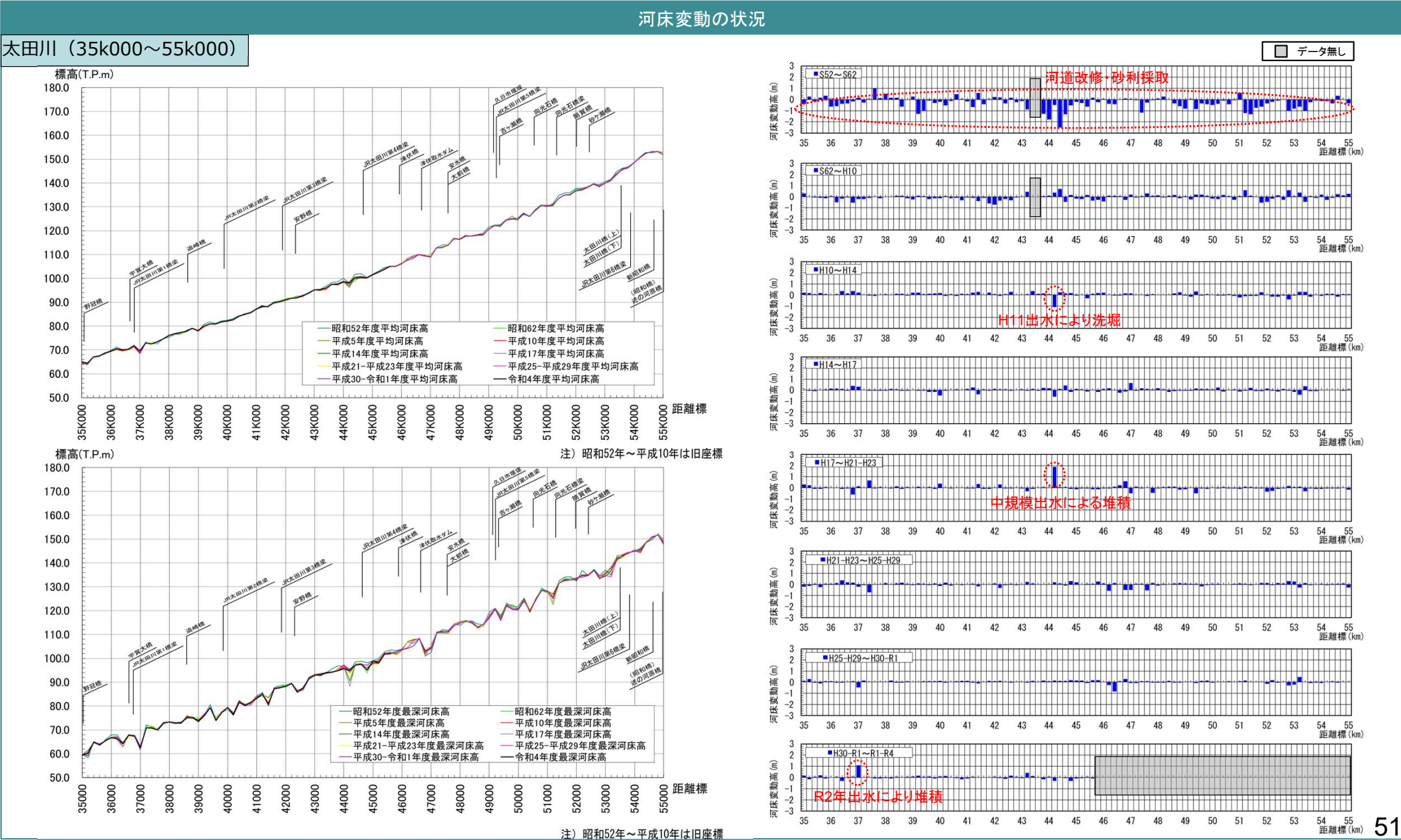
○ 太田川(河口～20k000)は、昭和47年から昭和62年にかけて、砂利採取等により河床低下が見られたが、それ以降は概ね安定している。



○ 太田川(20k000～35k000)は、昭和52年から昭和62年にかけて、砂利採取や河道改修等により河床低下が見られたが、それ以降は概ね安定している。



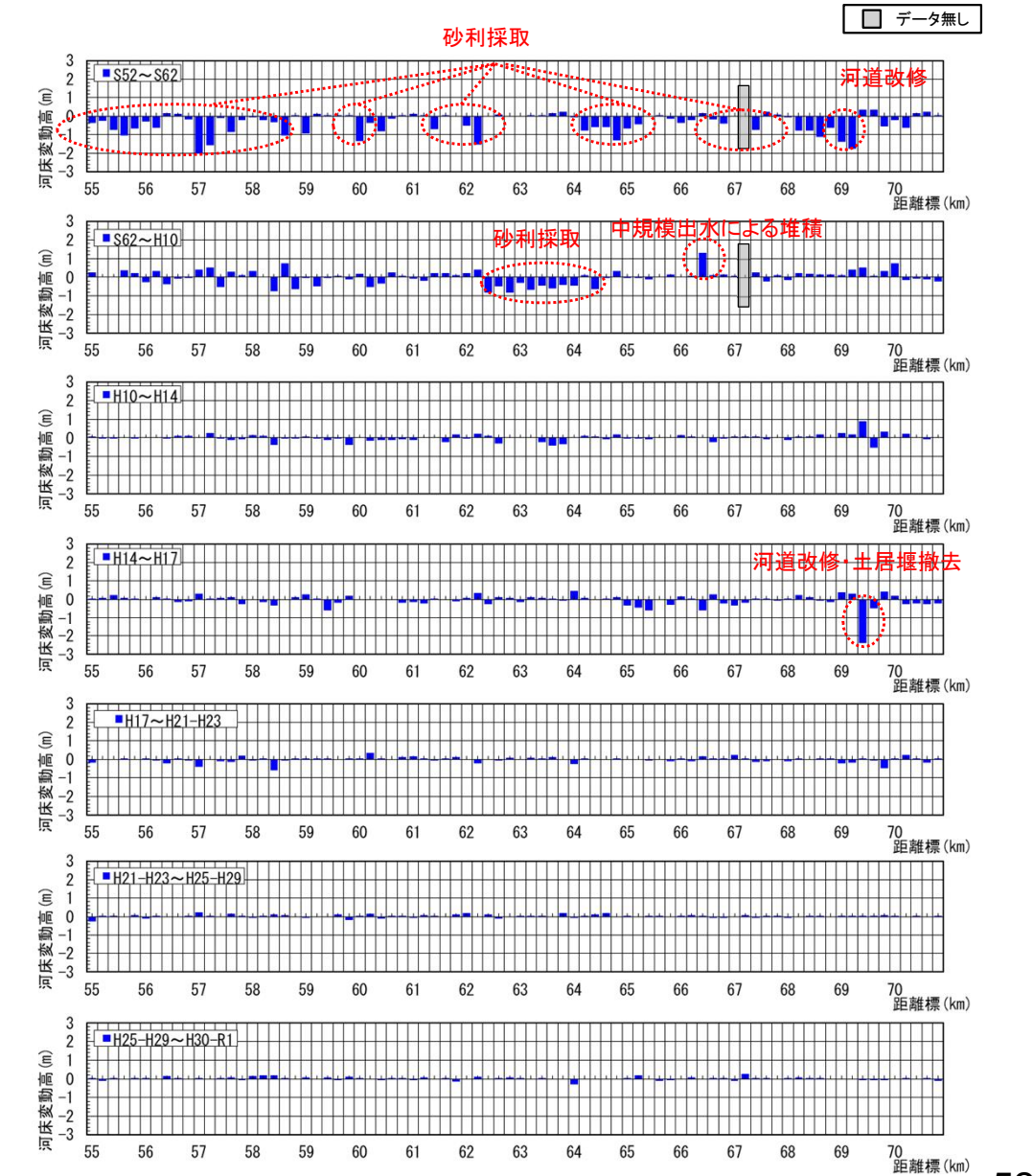
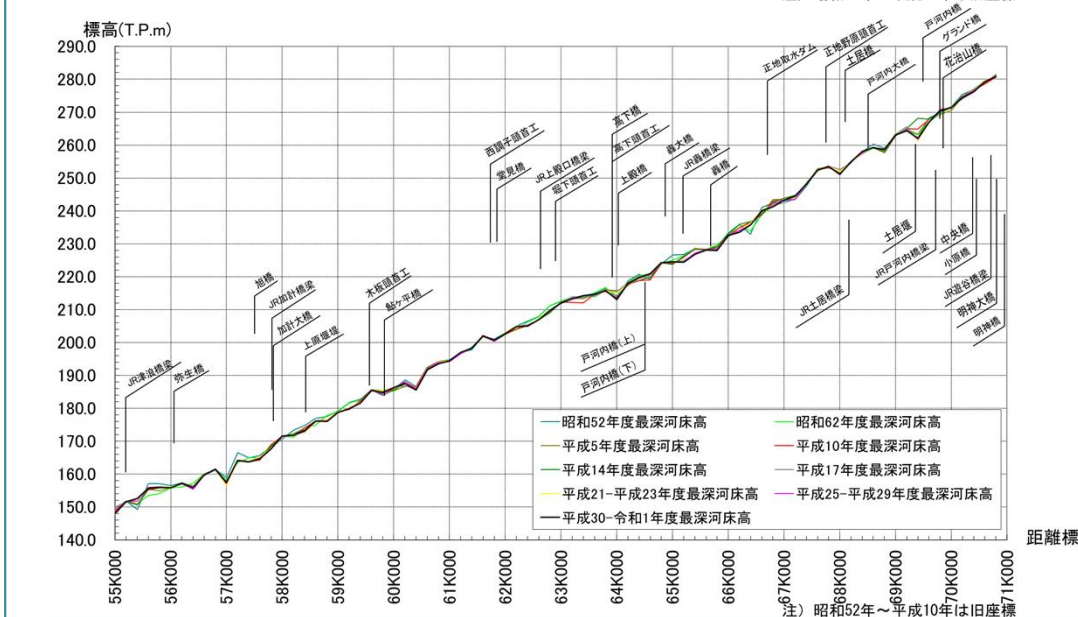
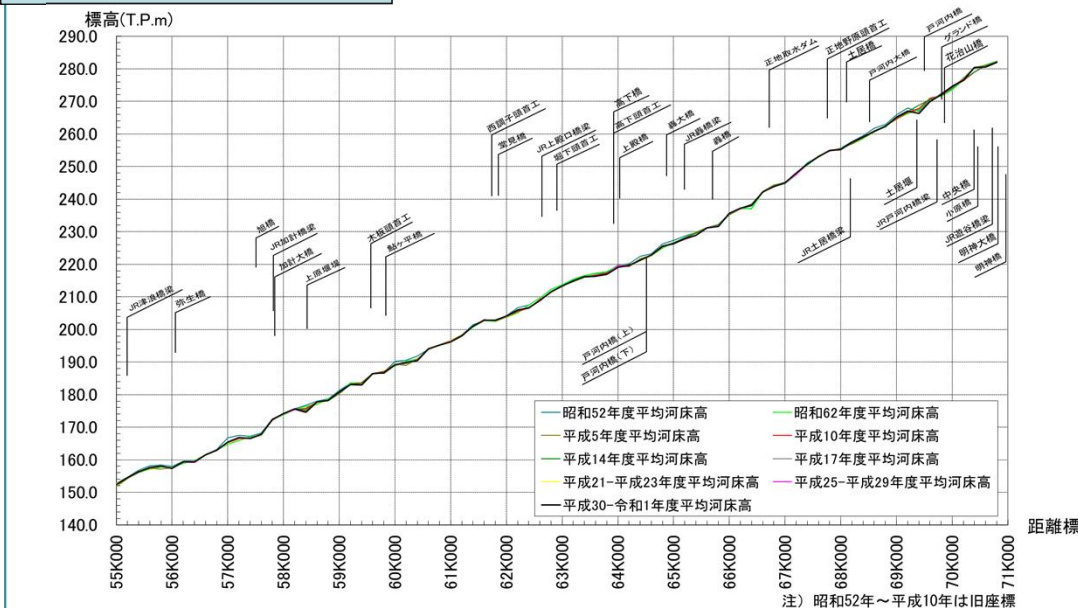
○ 太田川(35k000～55k000)は、昭和52年から昭和62年にかけて、砂利採取や出水等により河床低下が見られたが、それ以降は概ね安定している。



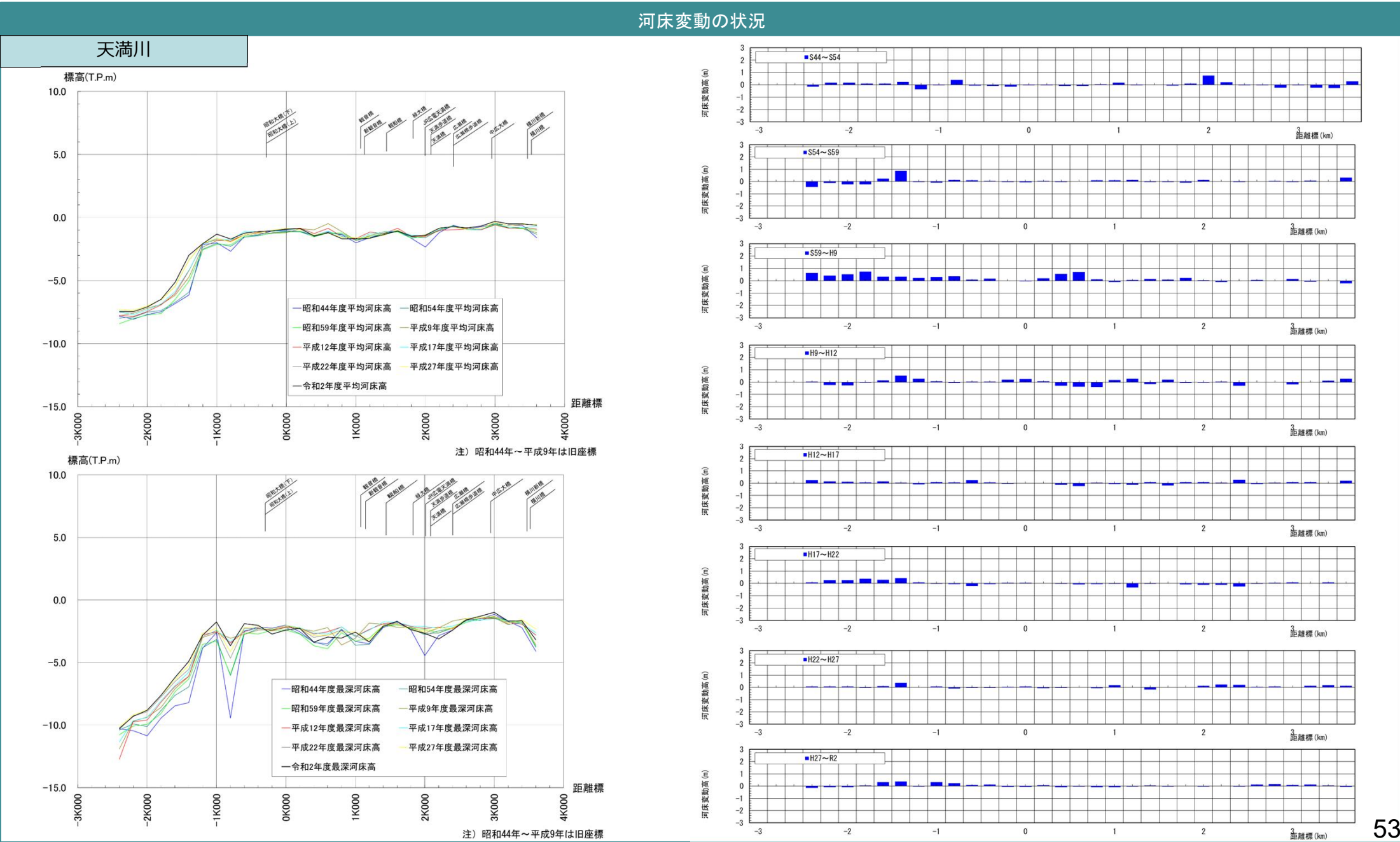
○ 太田川(55k000~71k000)は、昭和52年から昭和62年にかけて、砂利採取や出水等により河床低下が見られたが、それ以降は概ね安定している。

河床変動の状況

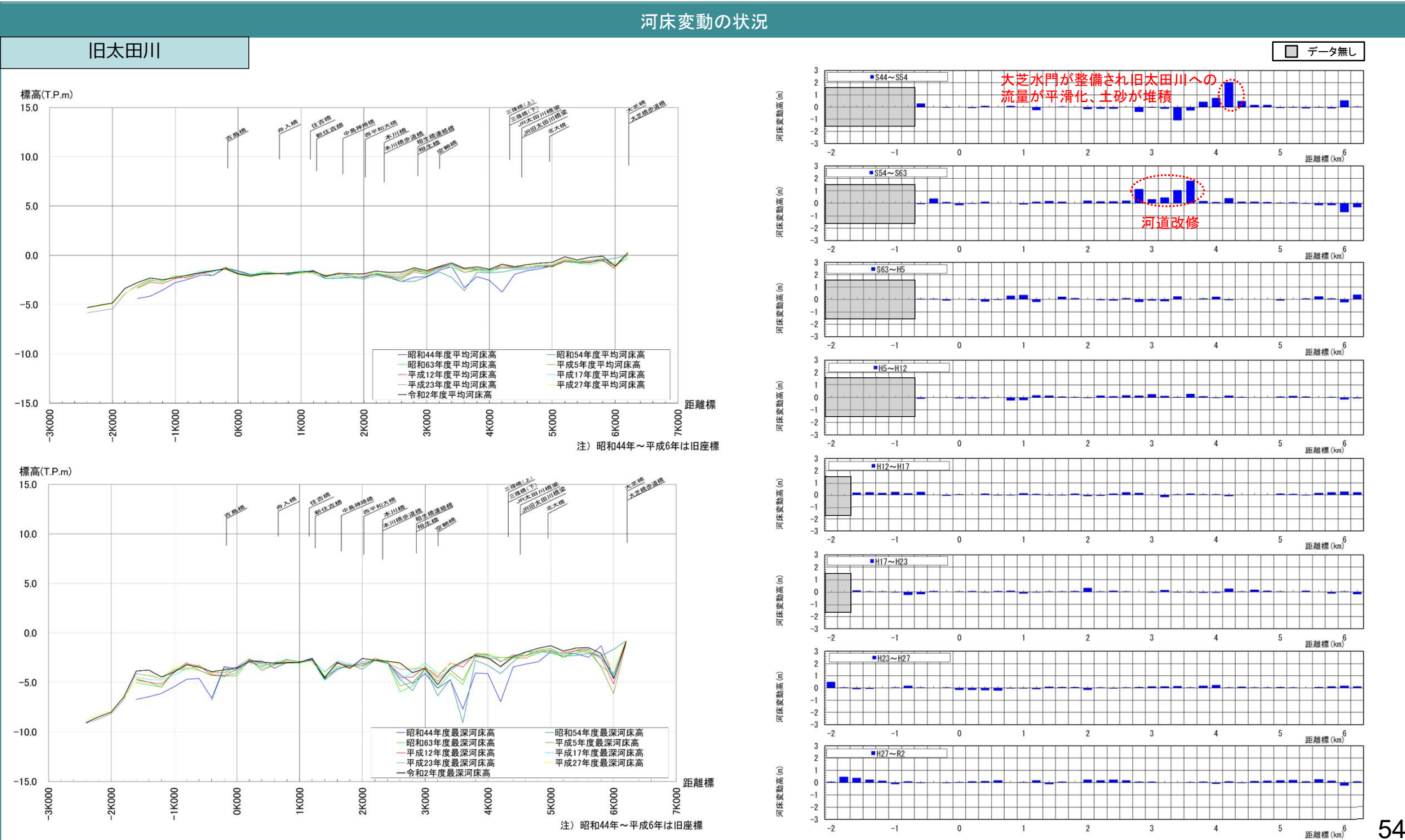
太田川 (55k000~71k000)



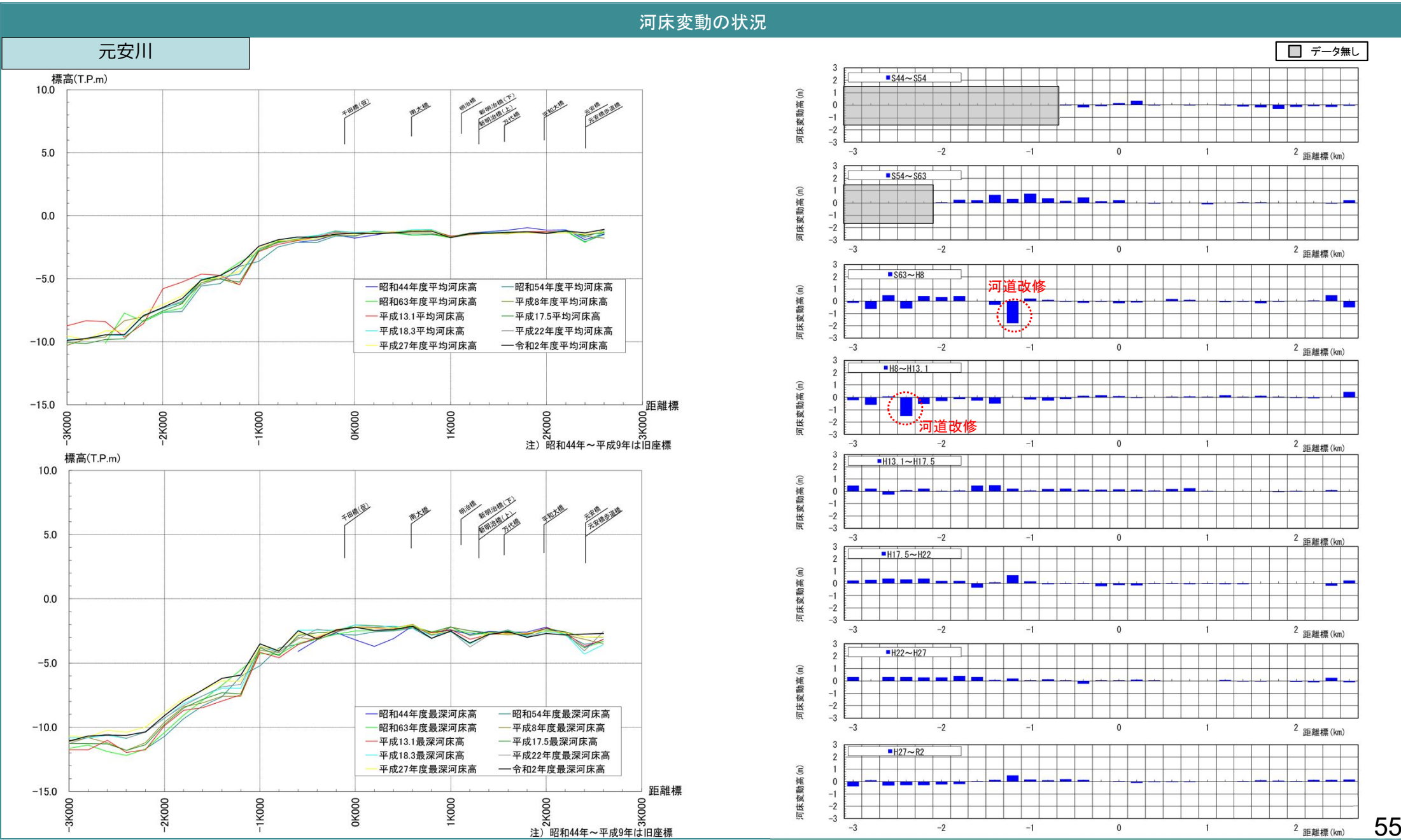
○ 天満川の河床は、概ね安定している。



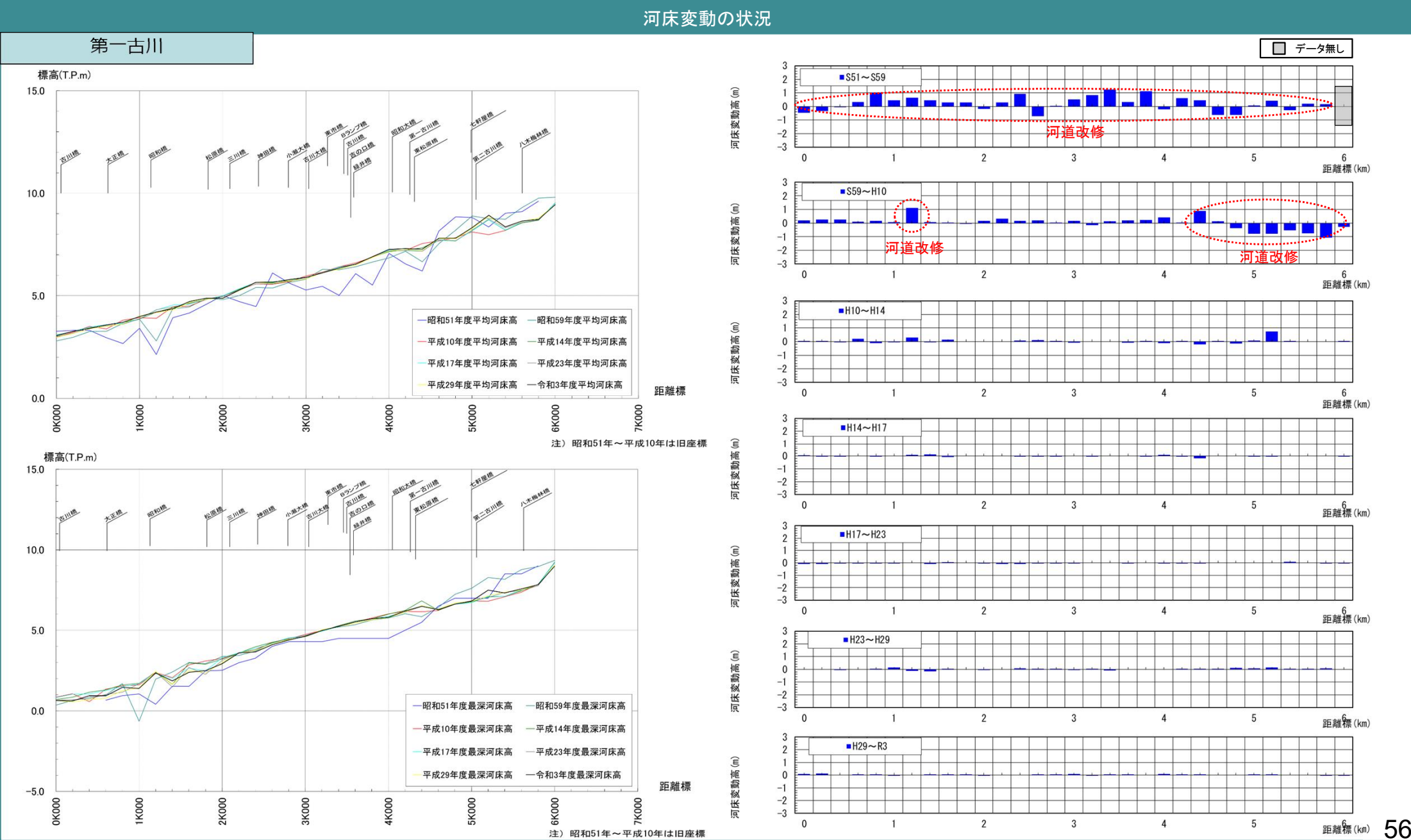
○ 旧太田川は、河道改修等による堆積が一部で見られたが、河床は概ね安定している。



○ 元安川は、河道改修による河床低下が一部で見られたが、河床は概ね安定している。



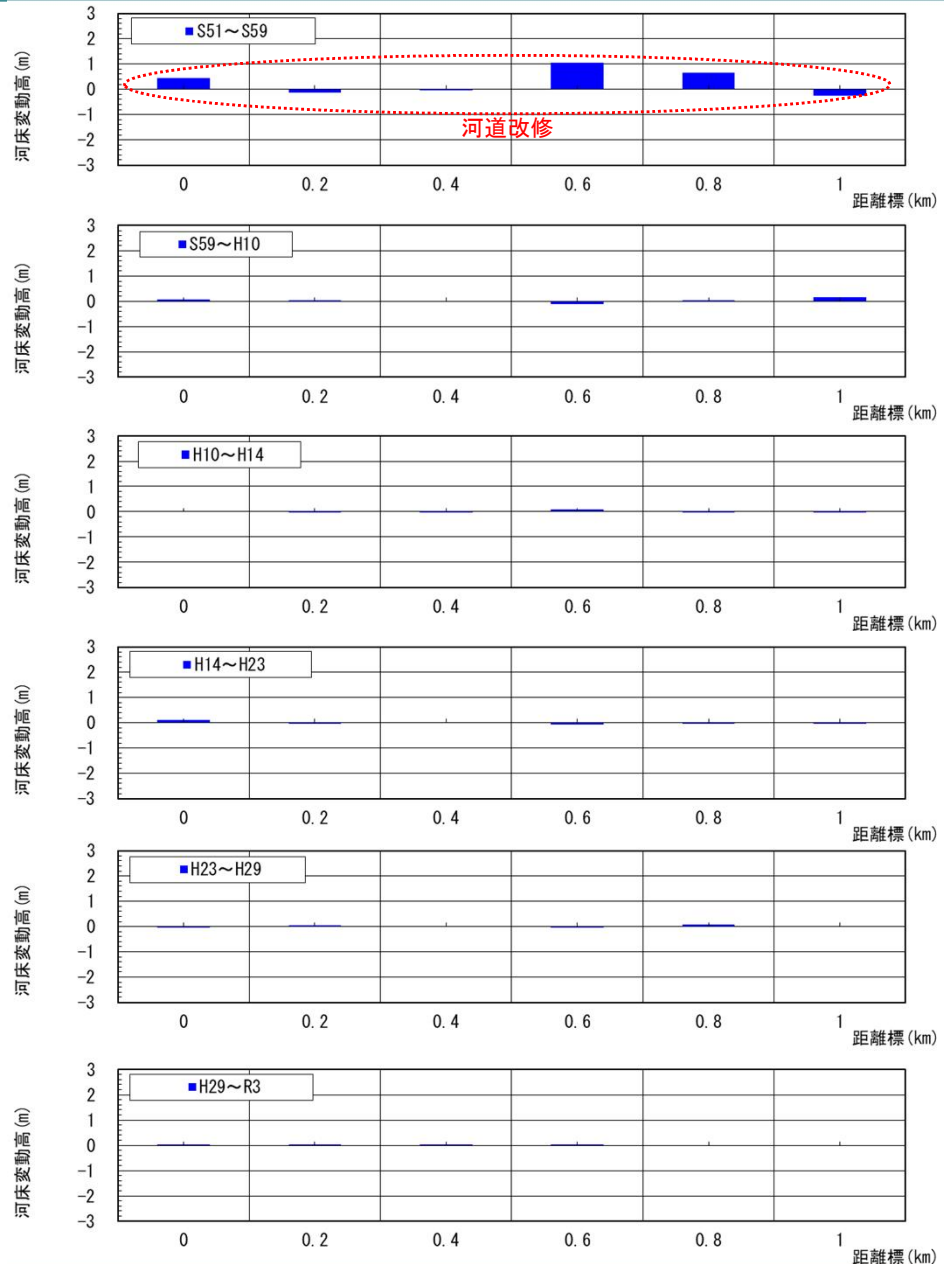
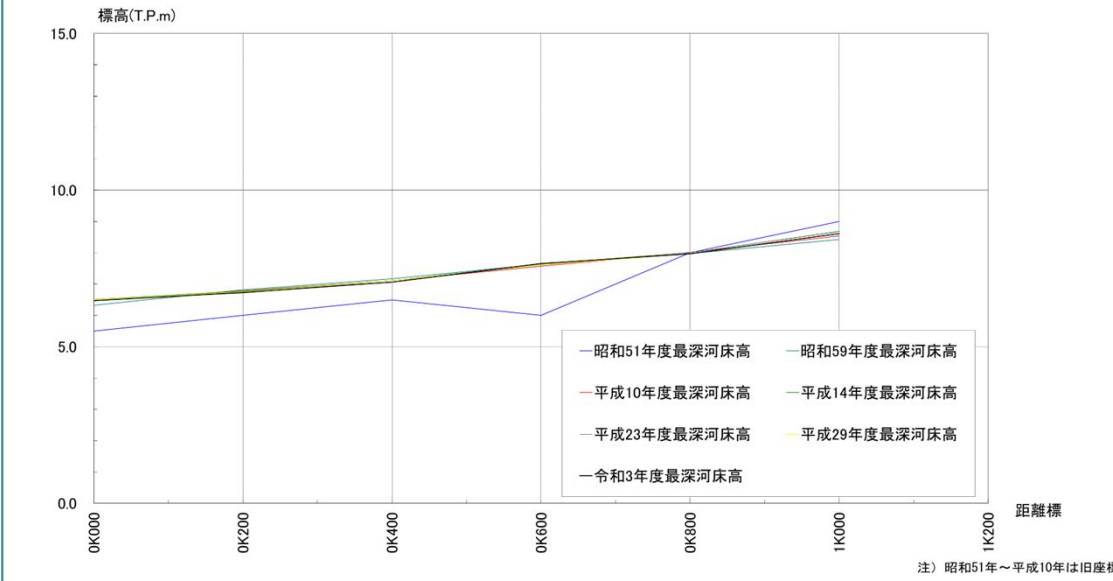
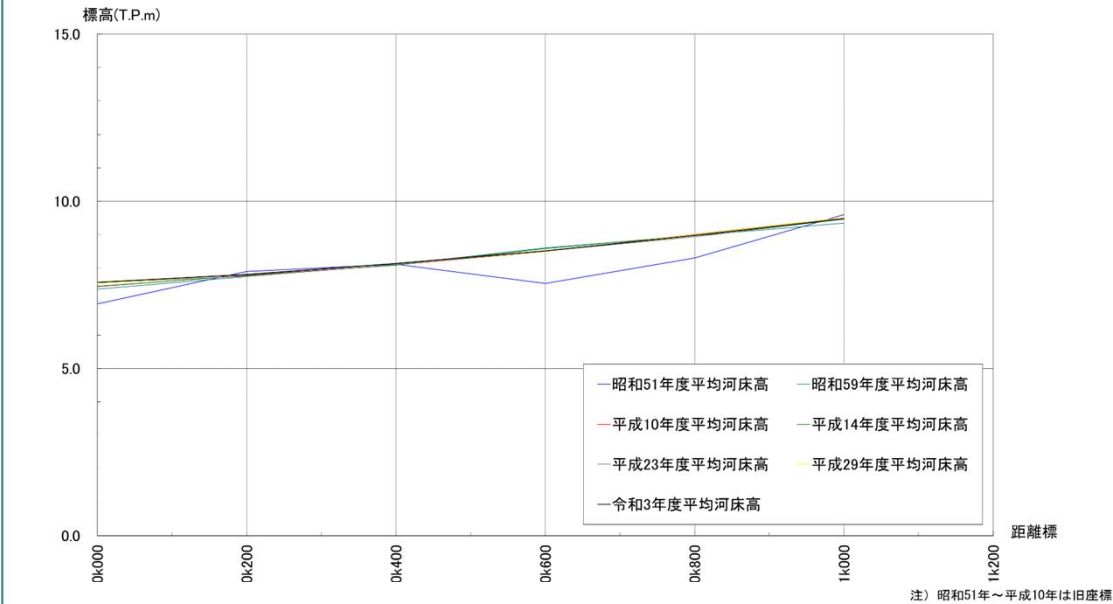
○ 第一古川は、昭和42年、47年に直轄管理区域に編入されたのち、昭和50年代に実施された河道改修によって、河床高縦断及び川幅の連続性に配慮した河道に整備されたため、河床高が変動したが、それ以降は概ね安定している。



○ 第二古川は、昭和47年に直轄管理区域に編入されたのち、昭和50年代に実施された河道改修によって、河床高縦断及び川幅の連続性に配慮した河道に整備されたため、河床高が変動したが、それ以降は概ね安定している。

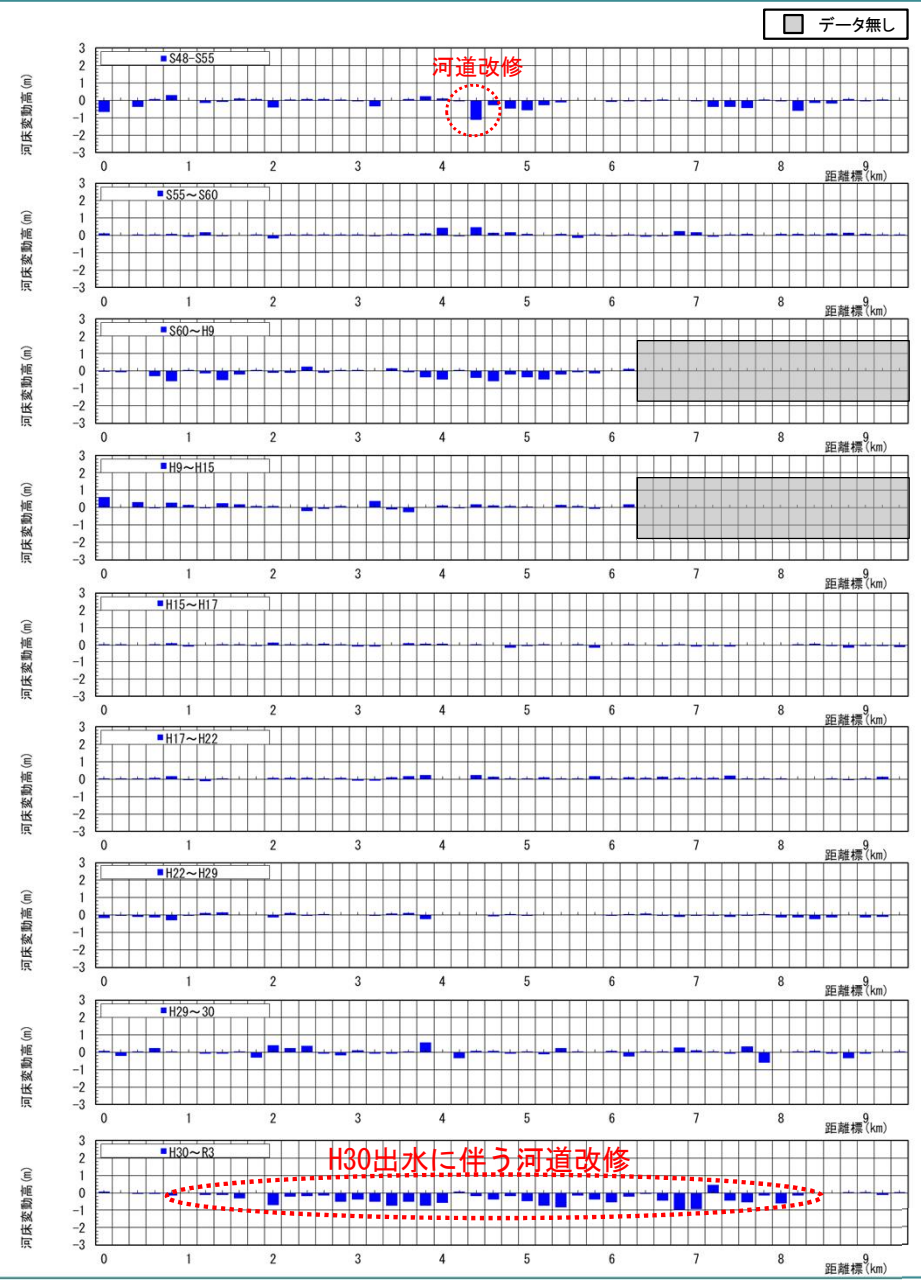
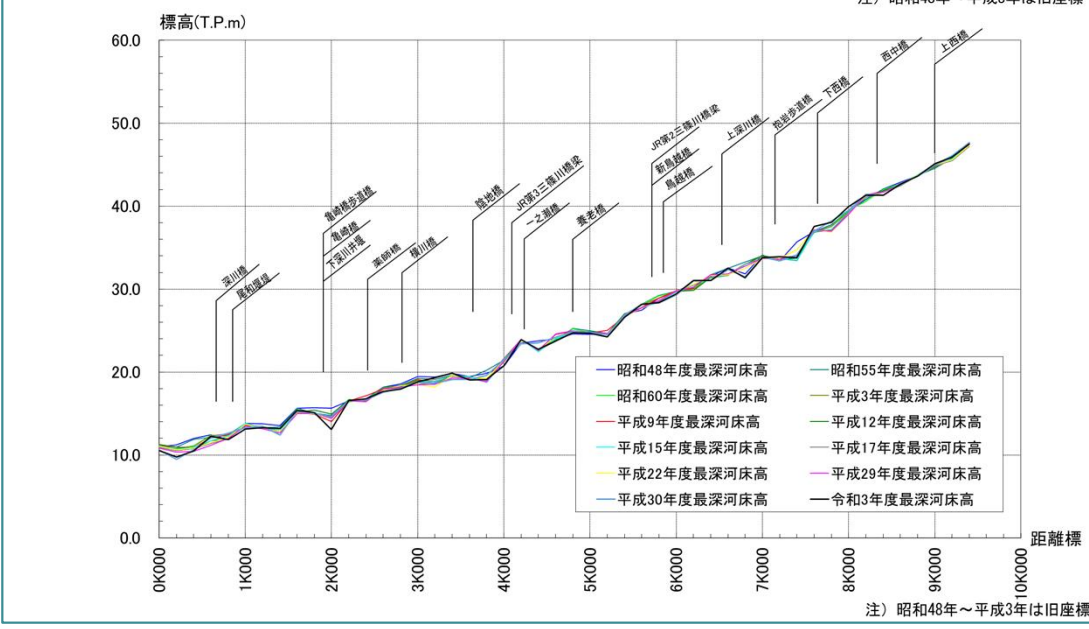
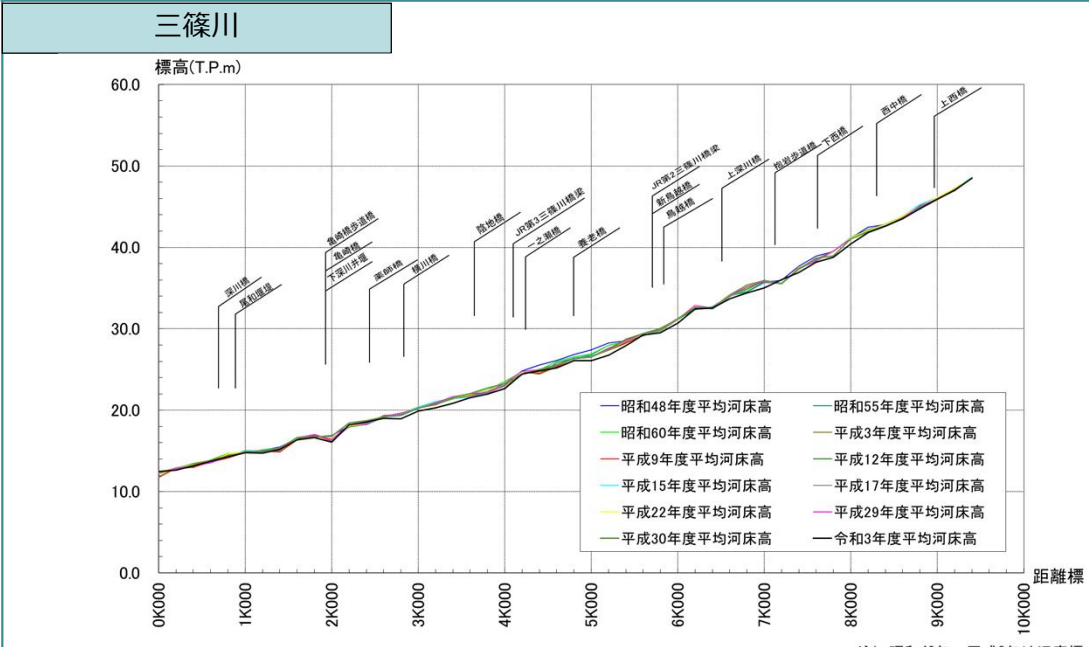
河床変動の状況

第二古川

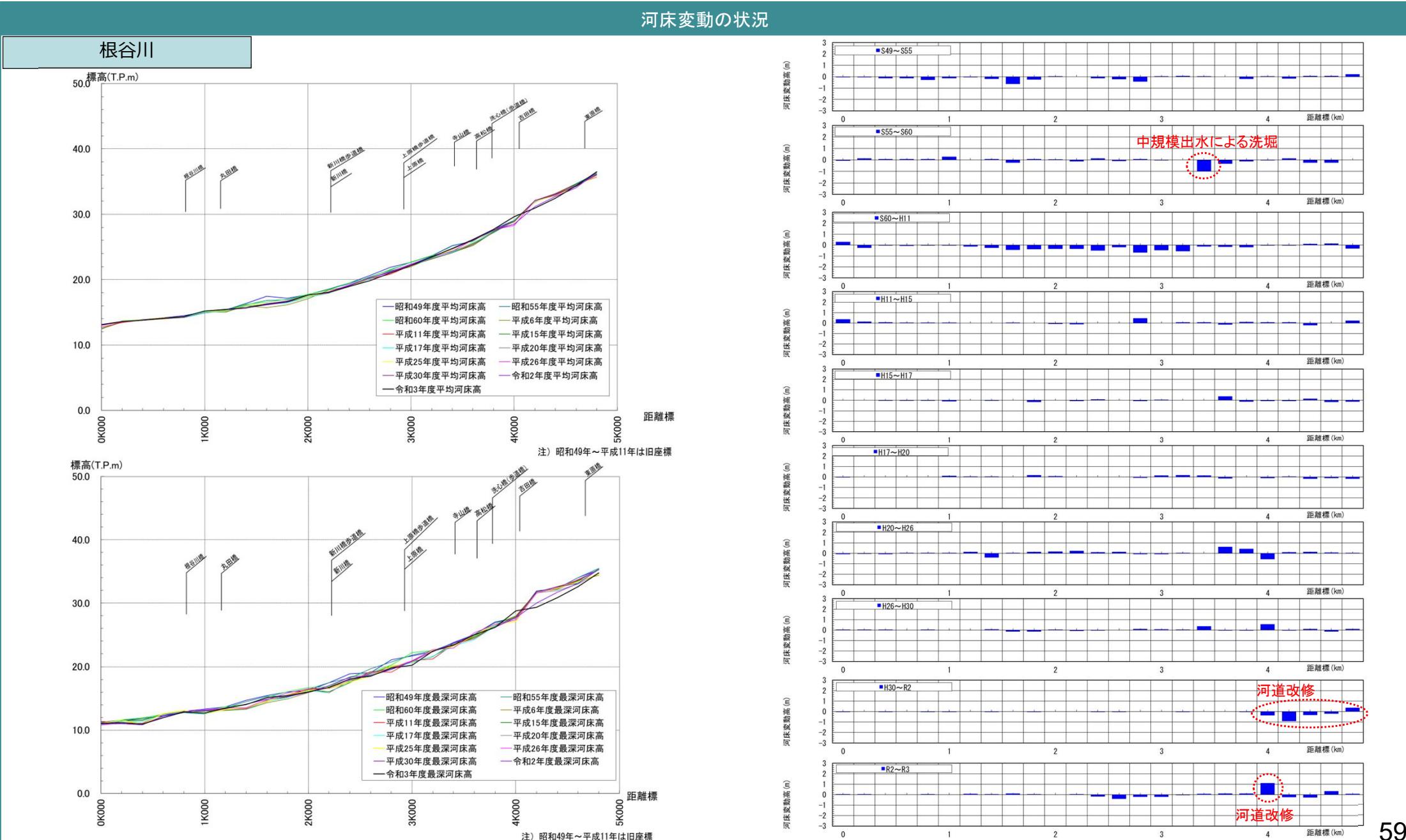


○ 三篠川の河床は、平成30年出水後に実施された河道改修の影響による洗堀の傾向がみられる。

河床変動の状況



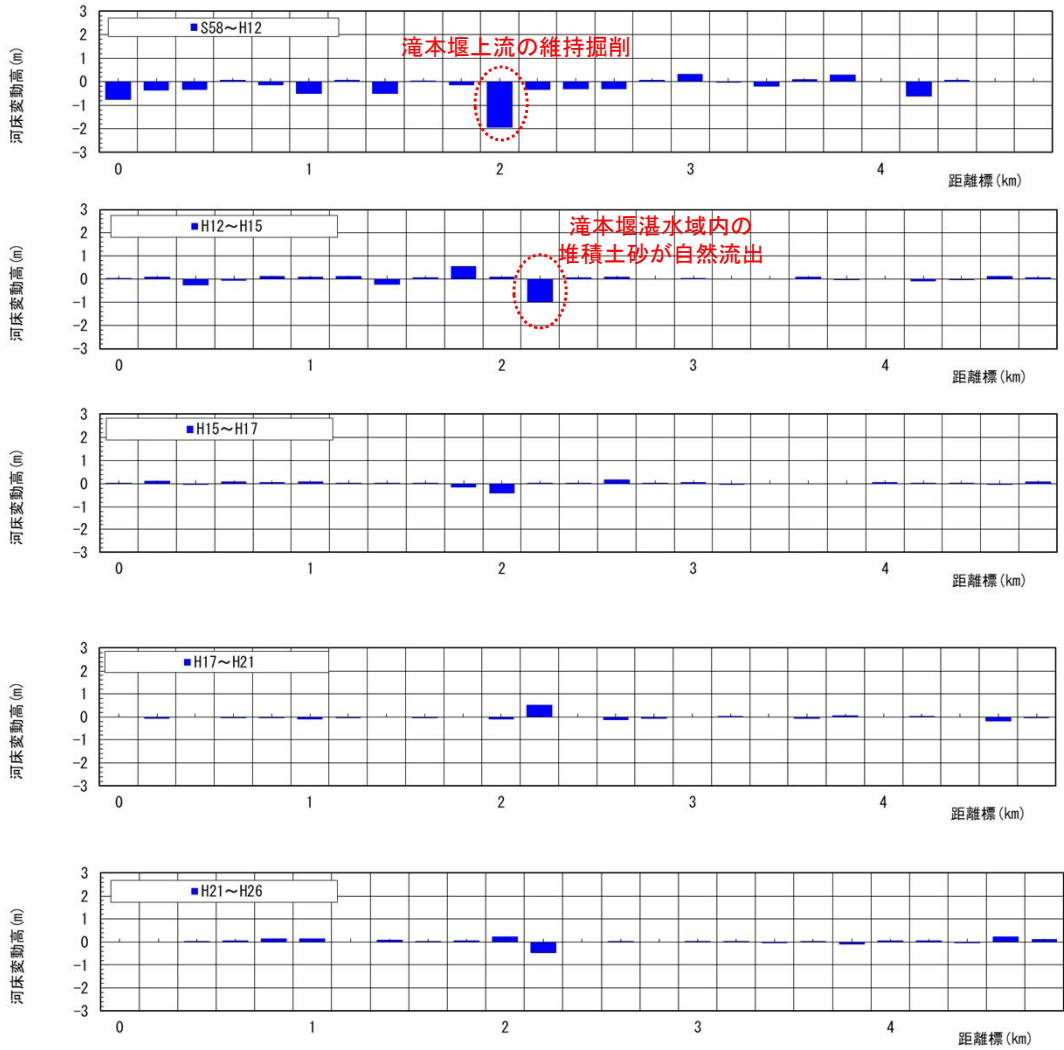
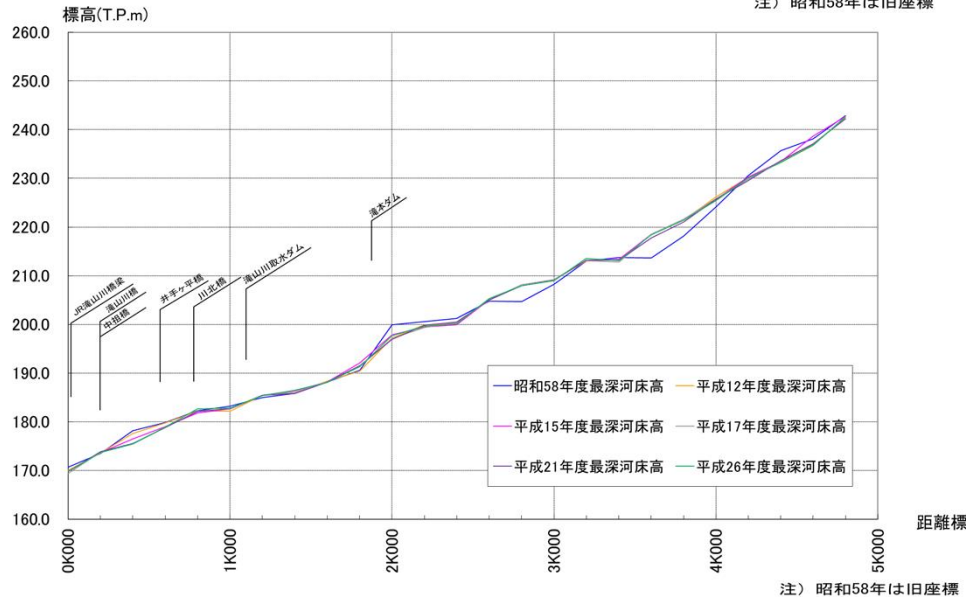
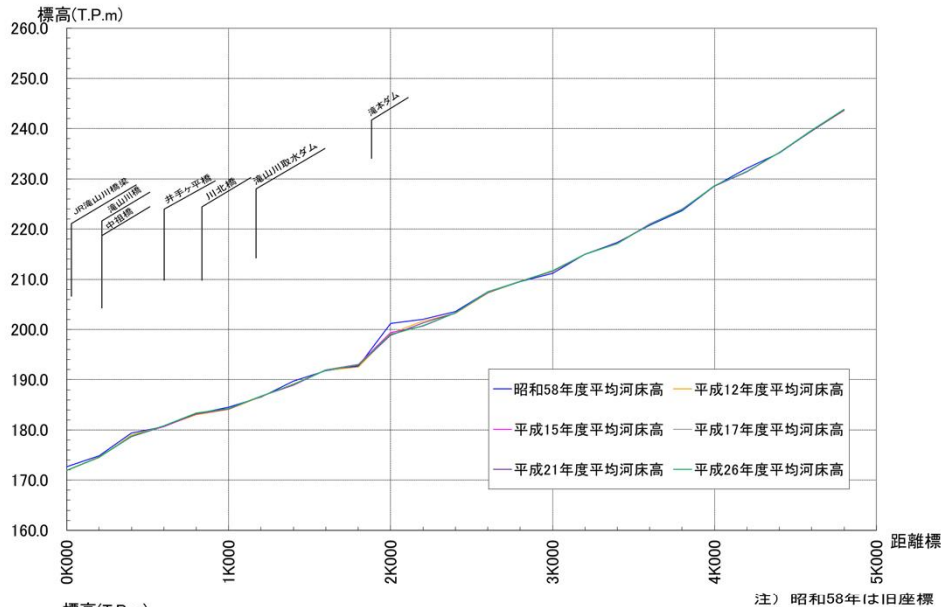
○ 根谷川は、平成30年から令和2年にかけて、河道改修や出水等により河床低下が見られたが、河床は概ね安定している。



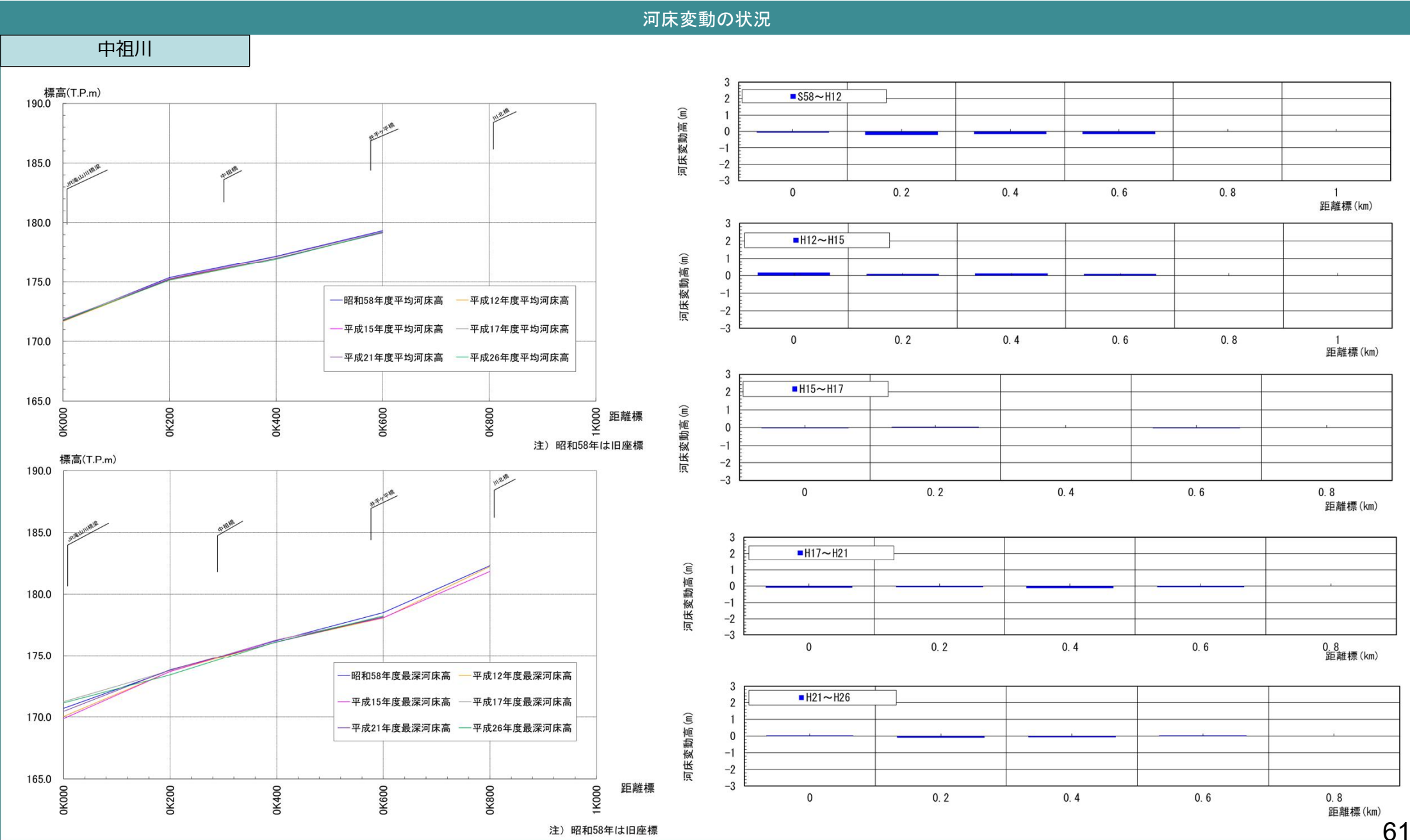
○ 滝山川は、昭和58年から平成12年にかけて、維持掘削等により河床低下が見られたが、それ以降は概ね安定している。

河床変動の状況

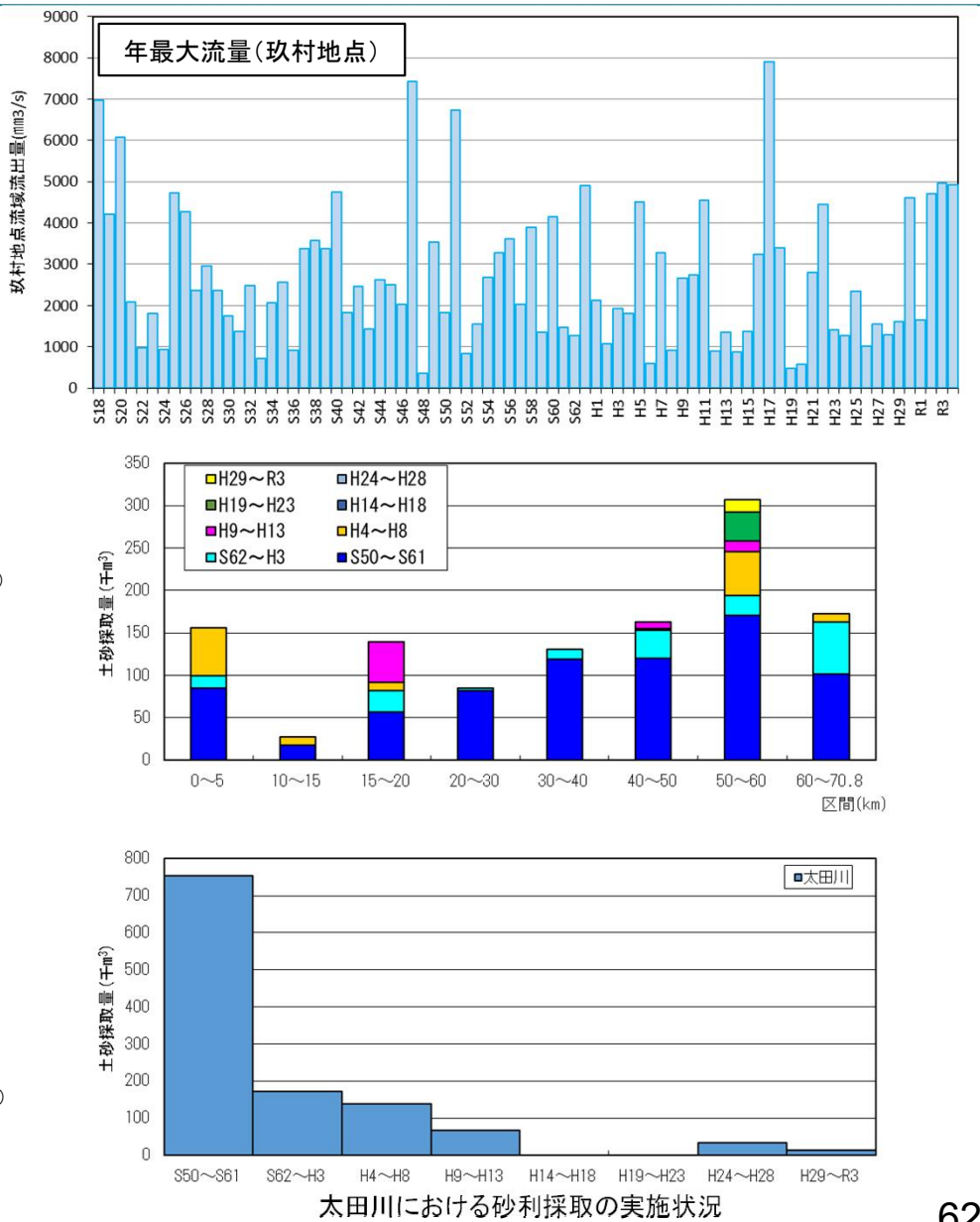
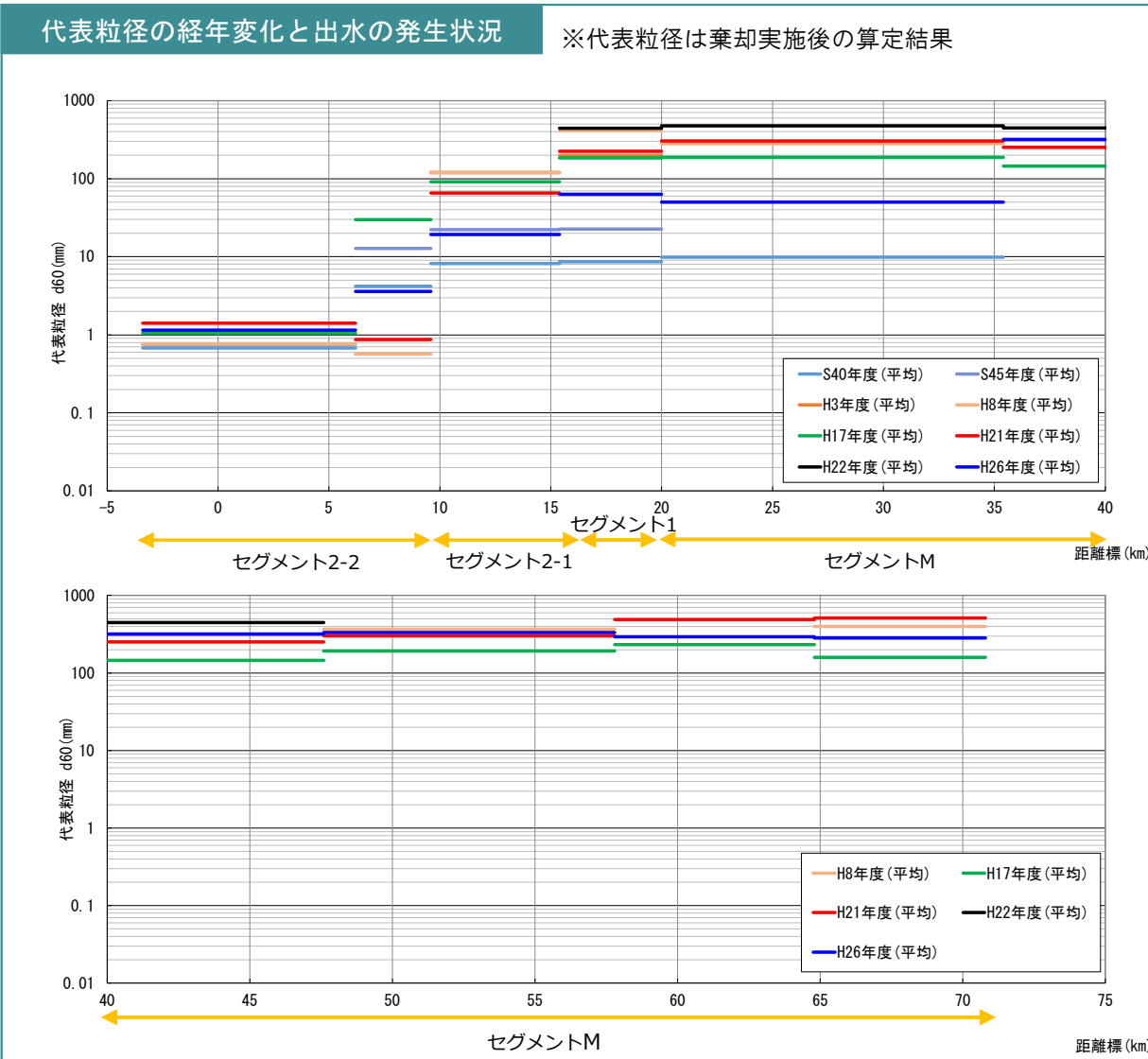
滝山川



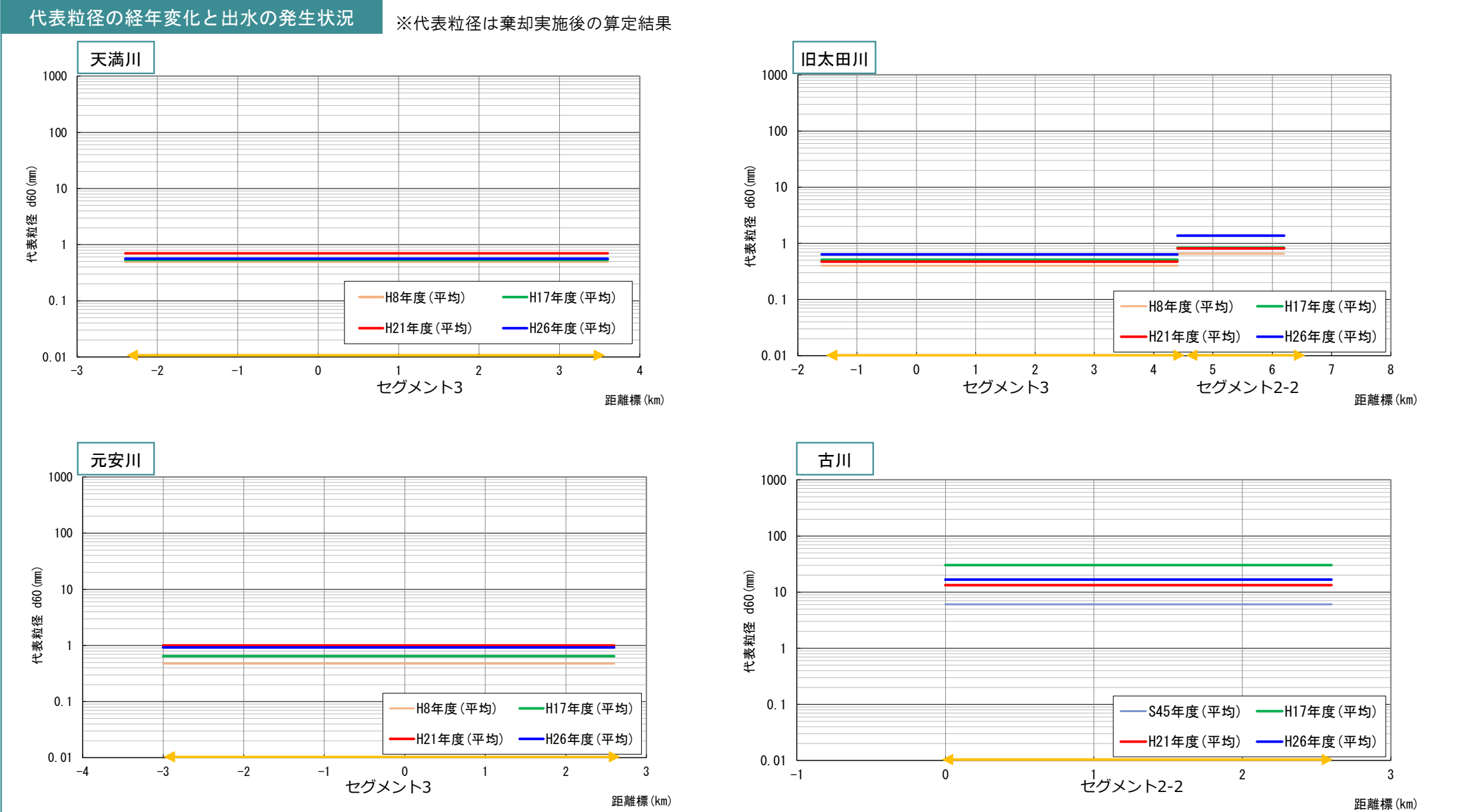
○ 中祖川の河床は、概ね安定している。



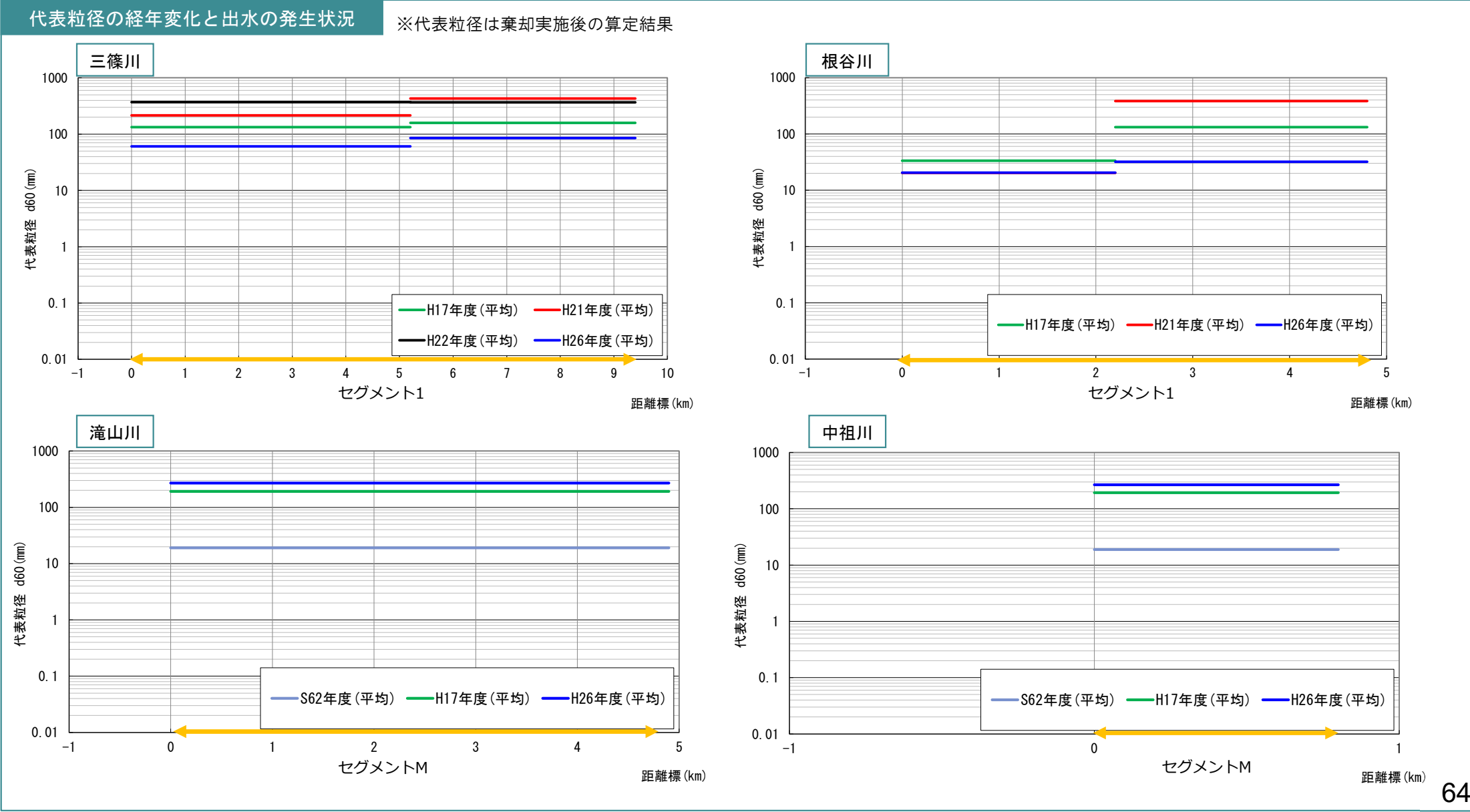
- 太田川-3.0k~6.2k、35.0k~70.8k区間では、代表粒径の顕著な変化はなく、6.2k~35.0k区間では、調査年により細粒化、粗粒化と様々に変化している。
- 上記の変化は、昭和47年7月出水や平成17年9月出水等の洪水による影響に加え、13.6k付近の高瀬堰改築(昭和50年完成)及び10.0k~20.0k区間の河道改修(昭和40年~60年頃)、6.2k~9.6k区間の河床材料調査における採取地点・採取本数の違い(昭和45年)、砂利採取によるものと考えられる。また、16.2kから上流においては、H22以前とH26で採取地点に違いが見られ、20.0k~35.0kにおいては、特に代表粒径に違いがみられる。



- 天満川及び旧太田川、元安川においては、代表粒径の経年変化について、顕著な変化は見られない。
- 古川では、昭和50年代に全川にわたり河道改修が行われており、その前後における調査結果においては、代表粒径の粗粒化が生じているが、その後は顕著な変化は見られない。

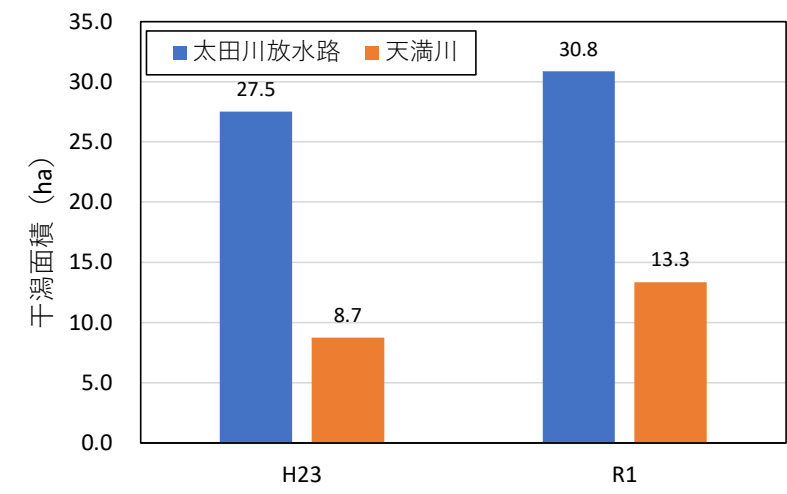


- 三篠川では、平成17年～26年の期間において、主に平成17年、22年、26年に約550～800m³/sの出水が発生しており、代表粒径の経年変化は、細粒化・粗粒化と様々である。
- 根谷川では、平成17年から26年の期間において、主に平成17年、18年、26年に約400～600m³/sの出水が発生しており、0.0k～2.2k区間では顕著な変化は見られないが、2.2k～4.8k区間においては、平成10年代から令和元年にかけて3.4kより上流で引堤を伴う河道改修が行われており、代表粒径の変動が大きい。
- 滝山川、中祖川においては、上流に温井ダムが完成した平成14年以降、粗粒化傾向となっている。

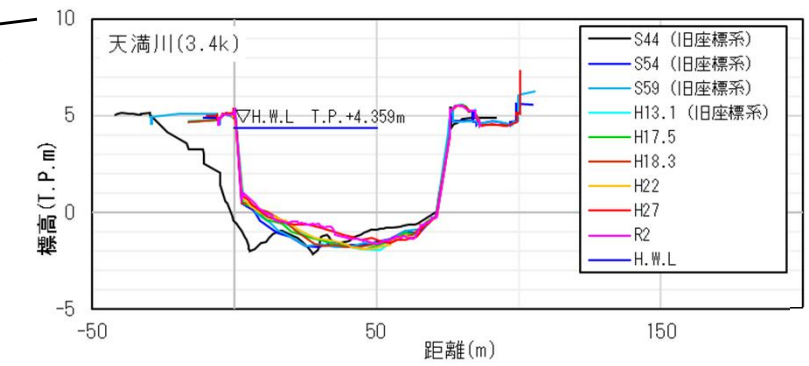
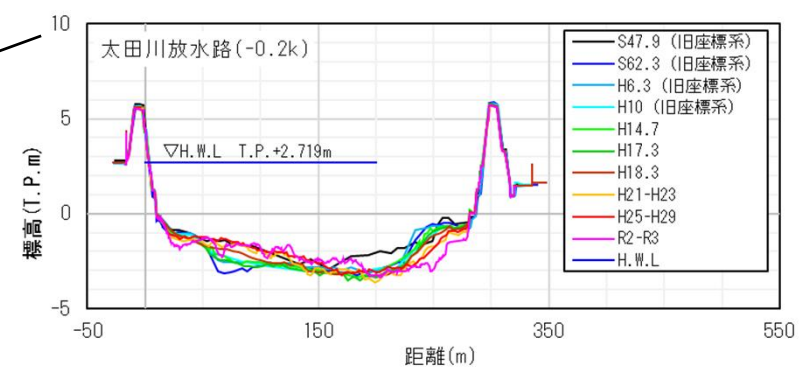
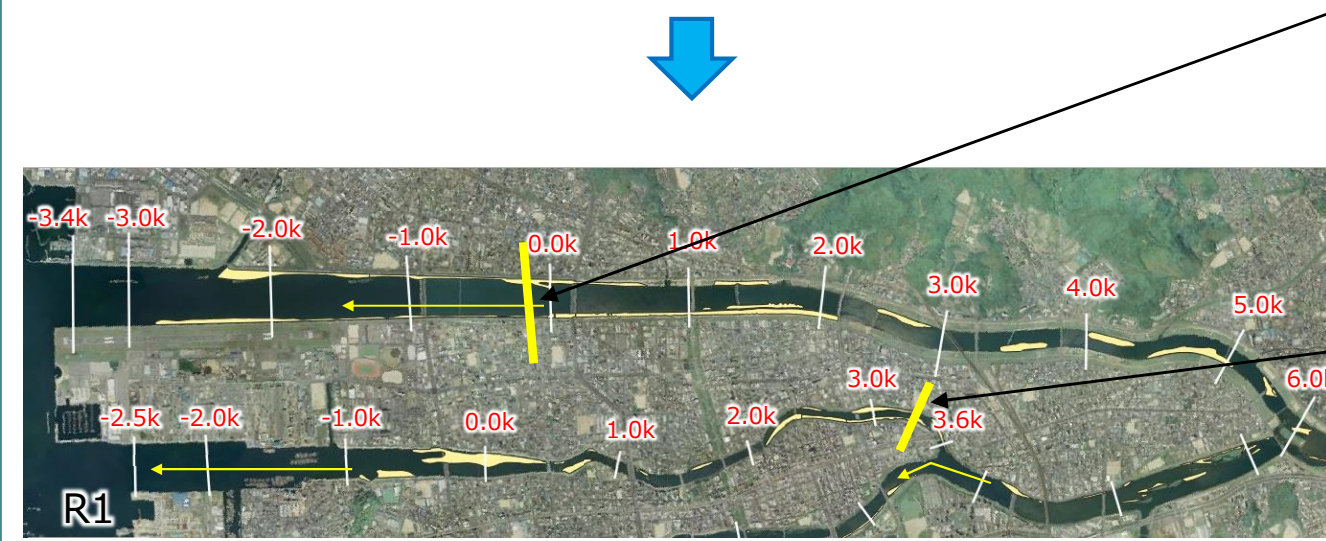


- 太田川放水路及び天満川の河口部に砂州はなく、河床は概ね安定している。
- 近年の干潟面積については、天満川ではやや増加しているが、太田川放水路においては、大きな変化はない。

干潟の変化（太田川放水路、天満川）

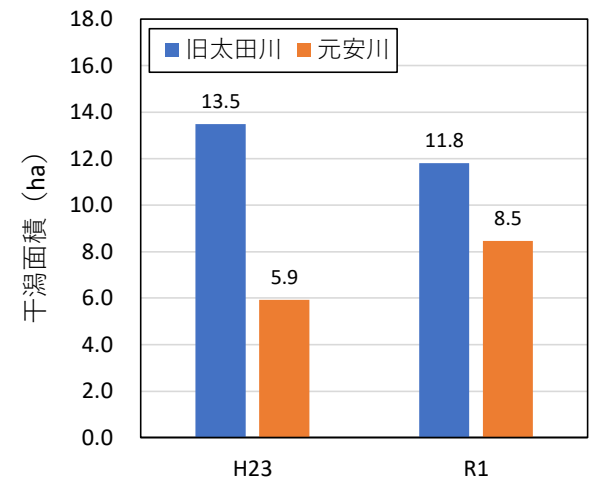
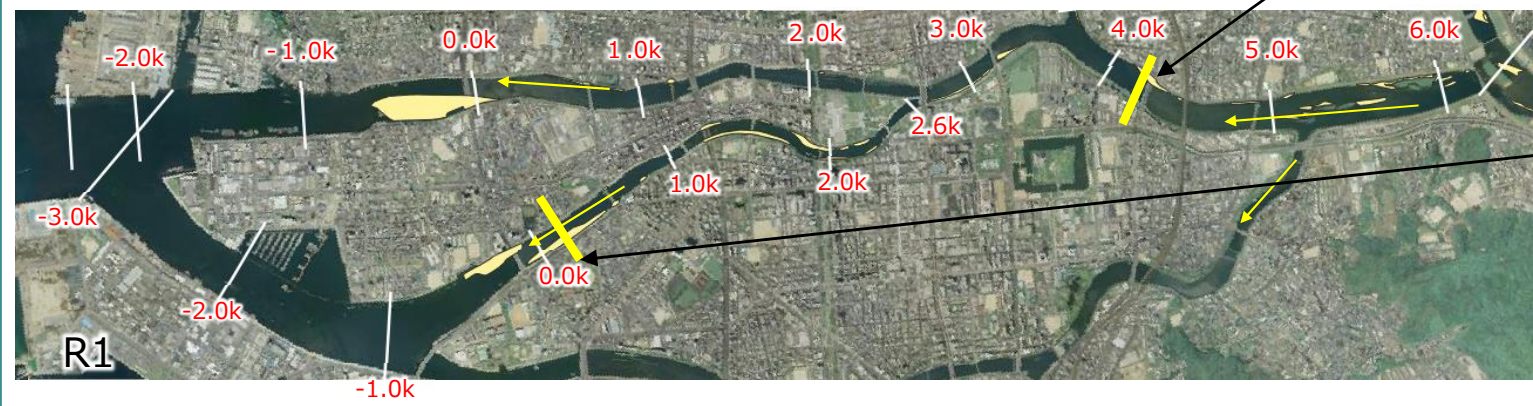
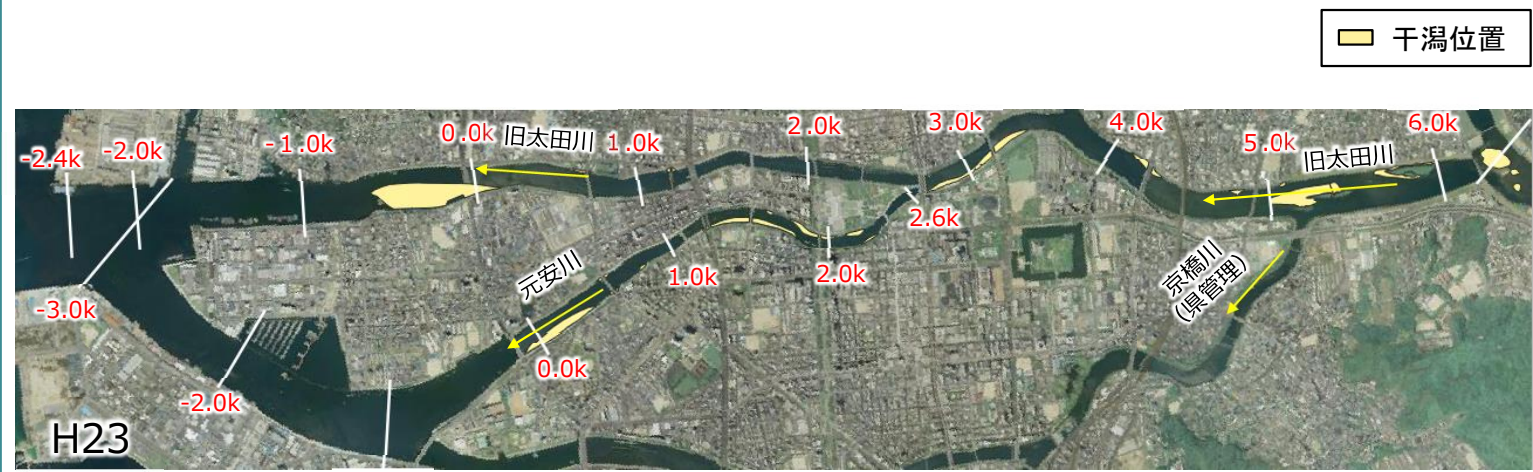


太田川放水路および天満川の干潟面積の推移
出典: 水辺の国勢調査

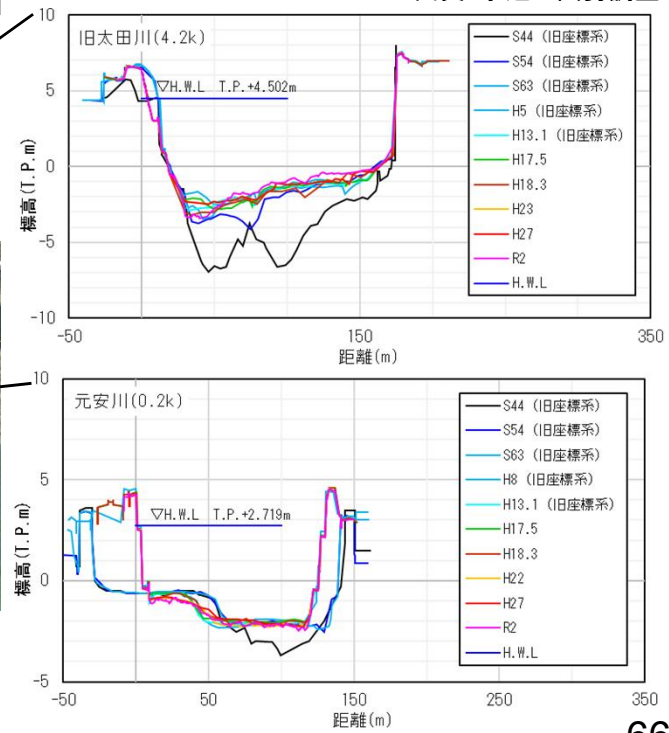


- 旧太田川及び元安川の河口部に砂州はなく、河床は概ね安定している。
- 近年の干潟面積については、元安川ではやや増加、旧太田川においては、やや減少している。

干潟の変化（旧太田川、元安川）



旧太田川および元安川の干潟面積の推移
出典: 水辺の国勢調査



- 太田川放水路や市内派川の河口部は、江戸時代以降行われてきた埋め立てや干拓により形成された低平地である。近年においても、一部埋め立てが実施されているが、大きな汀線の変化は生じていない。
- 河口部では、砂州の堆積や河道閉塞は生じていない。

